

平成 28 年度本部事業報告書

社会福祉法人 ささゆり会

本年度は、ベトナムから EPA(経済連携協定)から法人で 2 名のベトナム人を初めて受け入れた。特別養護老人ホームサンライフ御立に 1 名、特別養護老人ホームサンライフ魚崎に 1 名の EPA 候補生が 8 月より施設に配属になりました。日々、日本語の勉強をしながら、介護福祉士の合格を目指します。

今年度より、実務者研修を受講し、介護福祉士の資格取得となった。全国的に介護福祉士の受験者は昨年半分の受験者となりました。ただ法人では、実務者研修費の半額補助もあり、昨年と同等数の人数が介護福祉士の資格取得を目指した。本年度は、9 名の介護福祉士の合格者を輩出することができた。

特養整備計画では、東京都への進出に挑戦したが、残念ながら今一步で達成できなかった。しかし、姫路市での建設に認可があり、姫路市西庄に(仮称)特別養護老人ホームサンライフ西庄(29 床)グループホーム西庄(18 床)ショートステイ西庄(9 床)合計 56 床を建設し、平成 30 年 4 月オープン予定である。

H28 年度ささゆり会重点課題は、事業計画に挙げた下記 3 つの重点項目である。

1. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・ 東京都への特別養護老人ホーム整備計画申請
 - ・ 魚崎高齢者介護支援センター浴槽個浴化及び外壁修理工事申請
2. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・ 魚崎事業所への勤怠管理新システムの導入
3. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・ 新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
 - ・ 職員の為の、個別メンタルカウンセリングシステムの充実
 - ・ 労働安全衛生活動の推進

以下、平成 28 年度の事業推進結果を主要運営の経緯・施設経営と介護サービス・会議と大別して、その概要を報告する。

I. 主要運営の経緯

1. 定款の変更と諸規程の改正

- H28. 5. 26 社会福祉法人ささゆり会資産運用規程の改正について
- H28. 5. 26 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改正について
- H28. 8. 26 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改正について
- H28. 10. 27 社会福祉法人ささゆり会諸規定の制定と改正について

- H28. 11. 22 社会福祉法人ささゆり会定款変更について
- H28. 11. 22 社会福祉法人ささゆり会定款施行細則変更について
- H28. 12. 23 社会福祉法人ささゆり会定款変更について
- H28. 12. 23 社会福祉法人ささゆり会諸規定の制定及び改正について
- H29. 2. 17 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改正について
- H29. 3. 3 社会福祉法人ささゆり会定款施行細則について
- H29. 3. 3 社会福祉法人ささゆり会退職金等規程制定について
- H29. 3. 3 社会福祉法人ささゆり会諸規定改正について
- H29. 3. 28 社会福祉法人ささゆり会諸規定の制定及び改正について

2. その他行事等の主要運営

- H28. 4. 1 サンライフ魚崎入社式
- H28. 4. 19 E P A看護師・介護福祉士候補者受け入れ説明会
- H28. 4. 24 社会福祉法人ささゆり会 20周年記念式典
- H28. 4. 22 ささゆり会平成 28 年度第 2 回理事会、於御立会議室。サンライフ御立屋上防水他改修工事入札、サインライフ御立タイルカーペット張り替え等工事入札
- H28. 4. 25 サンライフ御立タイルカーペット張り替え工事請負契約を(株)きみひこと締結
- H28. 4. 26 サンライフ御立屋上防水他改修工事請負契約を第一化学工業(株)と締結
- H28. 6. 4 サンライフ御立祭り
- H28. 6. 29 サンライフ魚崎納涼祭
- H28. 8. 1 E P A介護福祉士候補者 2 名受入れ
- H28. 9. 13 ささゆり会平成 28 年度第 6 回理事会、於御立会議室。サンライフ御立 1 階空調機更新工事入札
- H28. 9. 13 サンライフ御立 1 階空調設備改修工事を 中島電機(株)と締結
- H28. 9. 23 サンライフ魚崎敬老会
- H28. 9. 10 サンライフ御立敬老会
- H28. 9. 14 サンライフ御立彼岸法要
- H28. 10. 1 第 2 回播磨介護技術競技大会(HCC)の開催
- H28. 10. 8 第 7 回 A J C C (オールケアジャパンケアコンテスト) サンライフ御立職員出場
- H28. 10. 27 ささゆり会平成 28 年度第 7 回理事会、於御立会議室。サンライフ御立温水ヒーター更新設備工事の入札(ボイラー設備改修工事)、特別養護老人ホーム施設設備の応募の取り止めについて(魚崎西町・荒田町)
- H28. 10. 31 サンライフ御立温水ヒーター更新設備工事請負契約を(株)ヒラカワと締結

結

- H28. 12. 6～10 E P Aに基づく外国人介護福祉士研修生受入の為のベトナム現地説明会
- H28. 12. 16 サンライフ魚崎クリスマス会
- H28. 12. 16 サンライフ御立クリスマス会
- H28. 12. 23 ささゆり会平成 28 年度第 10 回理事会第 3 回評議員会、於魚崎会議室。
サンライフ御立ベッド購入の為の入札
- H28. 12. 28 サンライフ御立ベッド購入の為の請負契約をフランスベッド(株)と締結
- H29. 1. 6 社会福祉法人ささゆり会定款変更申請
- H29. 2. 17 ささゆり会平成 28 年度第 11 回理事会、於御立会議室。サンライフ御立多機能電話機 40 台新製品取替工事一式入札、サンライフ御立防犯カメラ設置工事随意契約業者承認について(補助金内示 724, 000 円)、サンライフ御立三階、四階の居室・食堂見守りカメラ設置工事について
- H29. 2. 20 サンライフ御立多機能電話機 40 台新製品取替工事請負契約を(株)ニチワと締結
- H29. 2. 24 サンライフ御立防犯カメラ設置工事随意契約
- H29. 3. 3 ささゆり会平成 28 年度第 12 回理事会第 4 回評議員会、於御立会議室。
第 1 回サンライフ御立厨房機器取替工事一式入札、サンライフ御立厨房床改修と三階、四階便所改修工事入札
特別養護老人ホーム整備事業への応募について(小平市、足立区)
- H29. 3. 3 社会法人ささゆり会定款変更認可
- H29. 3. 13 ささゆり会平成 28 年度第 13 回理事会、於御立会議室。
第 2 回サンライフ御立厨房機器取替工事一式入札、サンライフ御立厨房床改修と三階、四階便所改修工事入札
- H29. 3. 14 サンライフ御立厨房機器取替工事一式請負契約を(株)マルゼンと締結
- H29. 3. 15 サンライフ御立厨房改修と三階、四階便所改修工事請負契約を富士建設工業(株)と締結
- H29. 3. 18 サンライフ御立彼岸法要
- H29. 3. 24 「姫路市辻井 8 丁目 436 番 279」390. 94 m²、「姫路市辻井 8 丁目 436 番 280」325. 99 m²、上記 2 筆 1 画地合計 716. 93 m²、「上記地上建物軽量鉄骨造スレート瓦葺 2 階建」1 階 97. 20 m² 2 階 97. 20 m²合計 194. 40 m²を富士(株)と不動産売買契約を締結
- H29. 3. 28 ささゆり会平成 28 年度第 14 回理事会、於御立会議室。
H29 年度事業計画審査承認
- H29. 3. 29 サンライフ御立入社式

II. 施設経営と介護サービス

1. 介護の質向上と介護人材育成

毎年、新卒者の確保が困難になっています。福祉系の学部学生、専門学校、高校生共に、進学や他分野の就職などで、社会福祉分野に就職する学生は少なくなってきました。そんな状況ではあるが、法人では積極採用を行なっています。

新入職員の定着ために、姫路事業所ではチューター制度を設けて、先輩職員と新入職員がワンツーマンで仕事を行い、新人教育を行っています。神戸事業所では、入社2年目の介護職員に対して入社1年間育成プログラムに沿って指導定着を推進してきたが、さらに専門家として幅広い知識や技術を身に付けるため、介護専門家育成プロジェクトを行った。入社1年間ではできていない介護現場における適切な判断力を身に付けるための知識と技術をマニュアル化し、このマニュアルに沿って先輩介護職員が1年間指導する。介護・医療・看護・栄養・心理の分野の必須項目を各領域の責任者が教材を作成した。

2. 介護人材の確保施策と活動結果

新卒者の定期採用活動も、年々厳しくなっている。専門学部や学科に囚われず、広い範囲の大学や短大・専門学校に法人の運営理念や介護支援状況を発信し、大学等就職指導者の理解と協力を得る活動を1年間通して推進してきた。新入職員育成プログラムや住宅支援・育児支援・産休システムなど、子供を育てながらも介護現場で働き続けることができる体制作りの強化・退職金制度など、ささゆり会の強みを発信してきた。

昨年からはEPA(経済連携協定)を活用した外国人介護福祉士の育成・研修活動に参加した。12月にベトナムに訪問し約180名の候補生と面談を行った。ベトナムの同行に昨年度の研修生2名と一緒にベトナムに渡り面談を行った。その活動の結果、サンライフ御立5名、サンライフ土山4名、サンライフ魚崎2名と全体で11名のEPAベトナム候補生の採用が決まった。平成29年の5月に来日し、全体研修を東京で受けた後、8月に施設に来所されて研修が始まる予定である。

3. 介護に係る運営費用節減施策

電気料金の自由化で電気料金の契約会社を昨年度より変更した。ただ、変更は、高圧電力の施設のみとなっていた。この度、低圧電力の電力プランが新たに出来たため、低圧電力のリハビリデイサービスサンライフ御立西の電力会社を変更した。これにより、年間12万円の削減予定である。また、電力の基本料金が下がったために施設全体で年間50万円の削減予定である。

4. 利用者確保活動

近年、デイサービスの施設が増えてきている。デイサービスの利用者確保が重要で

ある。姫路事業所のデイサービスでは、デイサービスの定休日に施設を開放し、地域包括手動で100歳いきいき体操を行います。施設開放を行い地域の方に来ていただき、施設を知っていただけたりして利用者確保につなげています。また、ホームページやFacebookを活用し、施設の情報を発信したり、家族様に施設の取り組みを知っていただける様に発信しています。

5. 地域貢献事業等の推進

御立事業所

事業所	受入期間	受入先	人数
サンライフ御立	H28.6/4.11.18	神戸学院大学	2
サンライフ ひろみね	H28.6.6~6.10 H28.6.13~6.15	姫路市医師会看護専門学校	2
サンライフ ひろみね	H28.6/13~6/17 H28.6/20~6/24	兵庫県立龍野北高等学校	1
サンライフ ひろみね	H28.7/1 H28.7/4~7/6	姫路市医師会看護専門学校	2
サンライフ土山	H28.8/1~8/27	姫路福祉保育専門学校	2
サンライフ御立	H28.8/1~8/30	流通科学大学	2
サンライフ御立	H28.8/2~8/3	飾磨高校	2
サンライフ御立	H28.8/15~9/16	神戸医療福祉大学	2
サンライフ御立	H28.8/22~9/20	関西福祉大学	1
サンライフ御立	H28.9/28~11/30	神戸学院大学	1
サンライフ土山	H28.10/17~	姫路福祉専門学校	2
サンライフ ひろみね	H28.10/24~10/28	姫路市医師会看護専門学校	2
サンライフ ひろみね	H28.11/7~11/18	兵庫県立龍野北高等学校	1
サンライフ御立	H28.11/25~12/9	ハーベスト医療福祉専門学校	1
サンライフ御立	H29.1/16~1/27	姫路福祉保育専門学校	1
サンライフ土山	H29.1/16~2/17	姫路福祉保育専門学校	2
サンライフ ひろみね	H29.2/27~2/28	姫路市医師会看護専門学校	2
サンライフ ひろみね	H29.3/1~3/9	姫路市医師会看護専門学校	2

姫路市安室地域包括支援センター

事業所	受入期間	受入先	人数
安室地域包括	H28. 9. 8	関西福祉大学社会福祉士学生	1
安室地域包括	H28. 9. 21	あんしんサポーター実習	2
安室地域包括	H28. 9. 23	姫路赤十字看護専門学校	2
安室地域包括	H28. 10. 13	姫路赤十字看護専門学校	2
安室地域包括	H28. 10. 19	姫路赤十字看護専門学校	2
安室地域包括	H28. 11. 11	神戸学院大学社会福祉士学生	1
安室地域包括	H28. 11. 21	姫路赤十字看護専門学校	2
安室地域包括	H28. 12. 12	姫路医療センター附属看護学校	1

魚崎事業所

事業所	受入期間	受入先	人数
特養	H28. 6. 20~6. 23	兵庫県総合衛生学院	4
特養	H28. 7. 5~7. 15	神戸常磐大学短期大学部 内6日間	2
特養	H28. 7. 19~7. 29	神戸常磐大学短期大学部 内6日間	2
ケアハウス	H28. 8. 8~9. 9 H28. 8. 15~9. 16	神戸医療福祉大学 23日間	3
グループホーム	H29. 2. 1~2. 19	甲子園短期大学 13日間	2
グループホーム	H29. 3. 6~3. 13	甲子園短期大学 7日間	2
デイサービス	H28. 11. 7~11/11	魚崎中学校トライやるウィーク	10

6. 職員の資格取得への取組について

・介護福祉士

御立事業所： 前田 慶子 石橋 真士 永井 真穂 立花 知之
石橋 明日香 (小計 5名)

魚崎事業所： 野村 梨恵 今 美世子 吉田 木綿子
網野 奈津子 (小計 4名)

・社会福祉士

魚崎事業所：柳本 静(小計1名)

・介護支援専門員

御立事業所： 井本 美奈子 伊藤 雅之 木村 友紀

小林 育代 (小計 4 名)

合計 14 名 (前年比+3 名)

7. H28 年度消防訓練・設備点検・職員健康診断、害虫駆除等の安全衛生への対応

	御立 事業所	魚崎 事業所	ひろみね 事業所	土山 事業所	田寺 事業所	安室 事業所	御立西 事業所
消防訓練	9/26 2/1 2/8	7/29 1/31	9/16 3/23	4/28 9/6 12/12	6/7 11/8	5/26 1/16	6/17 11/24
消防設備 点検	11/7	4/11 10/12	9/26 3/27	9/8 10/17 3/6	6/22 12/14	4/4 10/6	9/10 3/14
電気試験	10/26	4/21 10/28	5/7	5/26	4/26	7/29	無
エレベータ 点検	毎月	毎月	毎月	5/12 7/8 9/8 11/11 1/12 3/9	6/15 9/7 12/14 3/15	7/5 1/23	無
害虫駆除	7/4 2/6	5/10 7/6 11/16	6/13 1/16	9/28 3/29	6/14	無	無
貯水槽清掃	8/29	4/28	10/6	3/8	不要	不要	不要
水質検査 飲料水	11/29	5/2	6/7	2/5 3/8	不要	不要	不要
水質検査 浴槽水	毎月	5/27 9/8 1/12	6/7	無	不要	不要	不要
職員健康 診断	12/1 ~ 2/10	9/27 28・29 3/21	6/1 ~ 6/23 12/1 ~ 1/16	8/3 ~ 8/31	9/20 ~ 10/21	5/24 ~ 6/27	9/1 ~ 9/12
防災訓練	無	6/15	無	9/6、3/22	無	無	無
特殊建物 等定期報告	無	無	10/28	無	不要	不要	不要

III. 会議

定款の変更、規定の改正、事業計画及び事業報告、会計予算及び決算、介護に関する業務の執行状況や財産状況の整理のため、以下の会議を行った。

ア. 監事会・理事会・評議員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第1回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. サンライフ御立屋上防水他改修工事入札指名業者の選考と工事概要について 2. サンライフ御立タイルカーペット張り替え等工事入札指名業者の選考と工事概要について 	4月14日	御立理事長室
第2回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. サンライフ御立屋上防水他改修工事入札について 2. サンライフ御立タイルカーペット張り替え等工事入札について 3. 地域貢献事業(社用車に見守りステッカー作製掲示)の件 	4月22日	
第1回監事会	平成27年度事業報告・決算などの監査	5月18日	御立理事長室
第3回理事会 第1回評議委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成27年度監事監査報告について 2. 平成27年度本部・施設事業報告案承認について 3. 平成27年度法人・拠点区分会計決算案承認について 4. 平成28年度3月31日成立の社会福祉法改正(社会福祉法人ささゆり会のガバナンス強化のため)検討委員会設置について 5. 資産運用規程の改正について 6. 諸規程の改正について 7. 東京都の特別養護老人ホームの施設整備について 8. その他(報告事項) <ol style="list-style-type: none"> 1 平成27年度 寄付金明細書 2 平成27年度 姫路市指導監査等指摘事項に係る改善状況等について(報告) 	5月26日	御立理事長室

第9回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. サンライフ御立ベッド購入の為の入札参加業者選定について 2. その他 	12月14日	御立2F 会議室
第2回監事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度上半期事業報告・決算などの監査 	12月14日	
第10回理事会 第3回評議員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉法人ささゆり会定款変更(案)について 2. 平成28年度上半期監事監査報告について 3. 平成28年度上半期事業報告承認について 4. 平成28年度上半期会計決算承認について 5. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改正について 6. 社会福祉法人ささゆり会職員寮取得について 7. サンライフ御立ベッド購入の為の入札について 8. その他 (報告事項) 	12月23日	
第11回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. サンライフ御立多機能電話機40台新製品取替工事一式入札 2. サンライフ御立厨房機器取替工事入札参加業者選定について 3. サンライフ御立厨房床改修と三階、四階便所改修工事入札参加業者選定について 4. サンライフ御立防犯カメラ設置工事随意契約業者承認について (補助金内示 724,000円) 5. サンライフ御立三階、四階の居室・食堂見守りカメラ設置工事の入札か随意契約にするかについて 6. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改正について 7. その他 	2月17日	

	<ul style="list-style-type: none"> 3 平成28年(2016年)熊本地震への義援金に 4 について 5 平成27年度 外部研修及び内部研修について(姫路事業所) 6 平成27年度 備品等の購入について(姫路事業所) 7 平成28年度 特別養護老人ホーム施設整備の件について 		
第4回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 特別養護老人ホーム施設整備の応募について 2. 社会福祉法改正に伴う対応について 3. 諸規程の改正について 4. 管理者の変更について 5. その他 (報告事項) 	8月26日	御立 2F 会議室
第5回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 1. サンライフ御立1階空調機更新工事入札業者選定について 2. サンライフ御立ボイラー設備改修工事入札業者選定について 3. その他 	9月7日	魚崎面談室
第6回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 1. サンライフ御立1階空調機更新工事入札について 2. その他 	9月13日	魚崎面談室
第7回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 1. サンライフ御立温水ヒーター更新設備工事の入札について(ボイラー設備改修工事) 2. 特別養護老人ホーム施設設備の応募の取り止めについて(魚崎西町・荒田町) 3. 諸規程の制定と改正について 	10月27日	御立 2F 会議室
第8回理事会 第2回評議員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉法人ささゆり会定款変更(案)について 2. 評議員選任・解任委員会の委員選任について 3. 社会福祉法人ささゆり会定款施行細則変更(案)について 4. その他 	11月22日	魚崎ケアハウス4F 談話室

第 12 回理事会 第 4 回評議員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. サンライフ御立厨房機器取替工事一式入札 2. サンライフ御立厨房床改修と三階、四階便所改修工事入札 3. 社会福祉法人ささゆり会定款施行細則（案）について 4. 評議員選任・解任委員会の委員選任について 5. 管理者の変更について 6. 退職金等規程（案）制定について 7. 社会福祉法人ささゆり会諸規定改正について 8. その他（報告事項） 	3 月 3 日	
第 13 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 2 回サンライフ御立厨房機器取替工事一式入札 2. 第 2 回サンライフ御立厨房床改修と三階、四階便所改修工事入札 3. その他 	3 月 13 日	
第 14 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度本部・施設事業計画案承認について 2. 平成 28 年度補正予算案承認について 3. 平成 29 年度法人・拠点区分会計予算案承認について 4. 本部役員・管理者の変更について 5. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改正について 6. その他（報告事項） 	3 月 28 日	

イ. 介護保険推進委員会

会 議 名	内 容	期 日	場 所
第 1 回介護保険推進委員会	1. 平成 28 年度上半期事業推進状況報告と課題検討	H28. 11. 15	魚崎ケアハウス 4 F 談話室
第 2 回介護保険推進委員会	1. 平成 29 年度事業計画の策定案について	H29. 3. 2	御立 2 F 会議室

(笹山 博司)

平成28年度 特別養護老人ホームサンライフ御立

事業報告書

平成28年度ささゆり会経営スローガンである「積極経営で、活力ある職場作り！」を基にリーダー会議や全体会議を通し人材育成の強化を推し進めた。

サービスの向上については「事故を減少させる」を目標にしたQC活動やユニット毎の問題を班会議で検討・対策することで入居者様への質の向上を目指してきた。

職員の負担軽減やワークライフバランスがとれるようにリフレッシュ休暇の促進及び福祉用具の活用を進め、働きやすい職場環境作りに努めた。

I. 介護の家族連携強化

1. 家族と協力した介護の提供

家族との連携強化の為、家族様にどのような協力を頂けるかアンケートをとり、家族と共に参加できる外出を企画し家族からも良い反響があった。また家族が居られる全ての方にケアプランに家族にして頂くサービス内容を記載し家族が担当するサービス内容を明確にし、協力体制を築けた。

2. 居室担当の強化

居室担当に関しては居室担当が最大の責任と関心を持てるよう意識づけの強化を行う。その為、コミュニケーション能力を向上し、リーダー等より家族の来園時には居室担当が日常の様子を説明や家族からのニーズが聞き取れるよう指示を行うが、コミュニケーション能力・積極性による個人差が生じている。

また、居室の変更や、職員の異動が多くある為、居室に居室担当者の氏名と顔写真を掲示し、家族からも声を掛けやすい環境を整えたが、一部、職員の異動等や居室の変更もあり、家族と居室担当との関係強化を高める課題が残った。

II. 介護人財の確保と育成・定着

1. チューター制度の拡充

今年度よりEPAによる新入職員をチューター制度の導入しEPAを含む全ての新入職員が退職もなく仕事を続けられる環境が整備できている。

職員採用については派遣職員に依存傾向であったが、無断欠勤や勤務態度の状況に問題があり長続きしない状況にあった為、派遣職員に頼らない職場環境を目指し、現在は紹介予定派遣1名のみ減らすことが出来た。

教育については全体会議の一部を研修の発表の場として法人施設にもテレビ会議を用い水平展開し、感染症や事故についてなどについて研修も行えた。

2. 主任・リーダーへの勉強会の実施

リーダー会議において、運営規定・契約書・重要事項・基準・加算条件について勉強会を実施したが、勉強会とテストまでの期間が長かったこともあり、年末のテストでは合格点（70点）とし、5名中2名のみが合格となり合格した者と不合格となった者に大きな差があった。

また、リーダー会議では水分や入院状況・人員の問題を専門職として意識・自分達で考えることにより経営に参加・質の向上に取り組み、各々が抽象的目標ではなく具体的な目標を持ち各班で対応することが出来た。

Ⅲ. 安全な職場環境への取組み

介護という業務の特性上、腰痛は切っても切り離せない問題である。その為、補助金を申請しマッスルスーツ2台を導入することや国際福祉機器展に参加し、リフト・低床ベッド・高さ調整ができる机などを導入し職員の負担軽減に繋げたが、リフトやマッスルスーツには全般的な応用が難しく、数名に対してのみ使用する状況となった。また理学療法士と連携し介助負担を減らす介護方法を全職員に指導はできたものの腰痛体操の介護職員への義務化は実施出来なかった。

入居者様への対応としてはQCサークル委員会で1年を通しショートステイを含めた「事故の減少」について活動を実施した。8月の班のフロア変更もあり事故が増加した時期もあったが、ヒヤリハット報告書の活用強化、班会議などでの対策の徹底・ポスターや放送を行い自己啓発及び、全体会議を通して2回のリスクマネジメントの研修や職員への資料の配布により職員の知識向上を目指し対策前1月平均29件から対策後1ヵ月平均17件へと40%の減少を達成することができたが、表皮剥離の事故件数が多数を占めている為、今後の課題として残った。

Ⅳ. 有給取得強化

リフレッシュ休暇を含め全職員が年間に最低8日の有給消化を目指し、職員が効果的に有給を使用し仕事と生活の調和がとれるように、リーダーが中心となり班内で有給を取得できるようにし、今年度は常勤職員・非常勤職員を問わず全ての職員が目標基準の有給取得（新入職員・中途採用者や非常勤職員は常勤職員の勤務時間に比例し算定）ができた。

Ⅴ. 外部医療機関との連携強化

1. 精神科医師との連携強化

重度の認知症高齢者等の割合が増えている為、受診や薬の調整、現場での諸問題が増加していた為、精神科を担当する医師に係る加算を算定し、精神科医師に週に1度診察して頂き、ご入居者の安全で安心な生活及び受診件数の減少及び、早期の状況変化に対応することが出来た。

2. 歯科医師との連携強化

岡田歯科だけではなく、共立歯科との連携を強化し口腔衛生管理加算を取得し、ご入居者様が歯科医師を選択できる体制と口腔ケアの強化を行った。また、現場の介護職、歯科衛生士、歯科医師が連携し助言・指導を貰う事により、個別の口腔ケアの強化が図れ、年間の誤嚥性肺炎の入院者 12 名となったが、点滴の処置等の問題もあり係りつけ医との関係体制の問題が生じている。

VI. 各班目標

【3階1班】

事故件数を1月平均3件以内にする目標については上半期では目標を達成出来なかった為、下半期に於いては月に1度ユニット会議を開催しケアの見直し、事故内容を検討することで事故総数は13件となり1月平均事故件数を2.2件とすることができた。また、同入居者様の繰り返される事故については1件のみに抑える事が出来たが、転倒により骨折で入院加療を必要とする事故が2件発生する結果となった。

1年間で見ると事故総数は39件であり、一月の平均事故件数は5.1件から3.3件に減少したが、上半期の影響により1年を通しての目標は未達成となった。

【3階2班】

毎月1回、班会議などで、全職員が事故対策や決定事項を把握することで上半期は入居者の褥瘡者18%（5人）から9月現在で11%（3人）まで減少した。しかし、目標である1ヶ月1件まで至らなかった為、理学療法士と福祉用具の検討、クッション等を家族様に購入して頂き使用することで1名は改善することが出来たが、3名のうち2名は褥瘡を繰り返されている、糖尿病で食事状況の悪い方と多動による摩擦で褥瘡を繰り返す方は改善しているものの完治までは至らず、目標は未達成となった。

【4階1班】

褥瘡を繰り返し発症する高リスクの入居者は8名居られた、褥瘡者数を毎月1名以下にすることを目標としたが、上半期は看取りの入居者様が低栄養等により褥瘡を繰り返すことがありましたが、その方が亡くなられた後は、今年のQC活動の影響もあり早期発見により、褥瘡に至るまでに対策が実施し、下半期には褥瘡発症者は0件で年間目標も達成することが出来た。言葉遣いの見直しを行いについては、職員それぞれは意識が出来ているものの、注意を行うまでは至らないとの課題が残った。

【4階3班】

昨年度の平均事故発生数が1月6.2件あり、今年度班目標は1月の平均事故件数を30%減少の1月4.3件を目指した。4月から9月の事故総計は27件で一月平均4.5件と目標は達成できなかった。10月から3月は班フロアの変更後から、事

故件数が増加してしまい下半期総数は43件で7.2件と大幅に増加してしまった。要因としては、対策徹底の為に、月に1度のフロア会議をしようとしたが、実施することが出来ず、代わりに事故の対策をその日の職員で話し合い決定したが、職員への周知が出来なかったことが挙げられる。

1年間を通して総数70件となり月平均5.8件以上となり目標は未達成となった。

Ⅶ. 褥瘡委員会の設置

介護度で重度化がみられているが、褥瘡委員会を設置し褥瘡が発生しないよう適切な介護を行うとともに、その発生を予防するための体制を整備するという介護老人福祉施設の基準として、前QCサークルメンバーを中心に褥瘡委員会を設置し対応することで褥瘡の発生を昨年度より44%減少させることができ、平均月褥瘡発生件数も3件以下に減少させることが出来た。

また、「特別養護老人ホーム入居者様の褥瘡数の減少」をテーマとしたQCサークル活動が兵庫県チャンピオン大会に選出され優秀賞を獲得した。

Ⅷ. 収入の確保

収入の加算に関しては、精神科医療養指導加算及び共立歯科との口腔衛生維持管理加算が取得できた。しかし、提携病院との関係も大きく影響しているが入院者が先年度44件から62件へと141%の増加がみられる上、長期入院による退所者昨年度37件から今年度39件と105%増加した。また、それに伴い、施設で看取りをする入居者様が減少している。稼働率については97.6%となり目標の入居率99%には至らなかった。

10月からは4段階の方の負担軽減を目的に個室料の値下げを実施することにより毎月220千円の収益が低下することとなったが、平均要介護度の上昇等により、昨年より35千円の増収とはなった。

年間収入目標

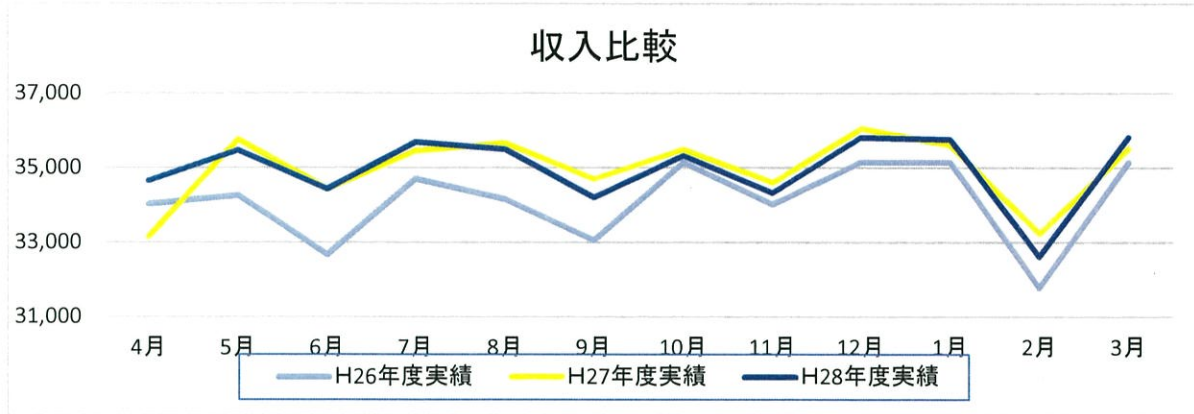
(千円)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H27年度実績	33,141	35,752	34,418	35,441	35,653	34,686	209,091
H28年度目標	34,454	32,177	34,384	35,590	35,606	34,454	206,665
H28年度実績	34,648	35,468	34,421	35,686	35,494	34,197	209,914
前年との差異	1,507	-284	3	245	-159	-489	823
年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度実績	35,481	34,584	36,041	35,596	33,224	35,498	419,515
H28年度目標	35,509	34,444	35,595	35,580	32,177	35,509	415,479
H28年度実績	35,322	34,320	35,813	35,754	32,609	35,818	419,550
前年との差異	-159	-264	-228	158	-615	320	35

●年度別収入

(単位:千円)

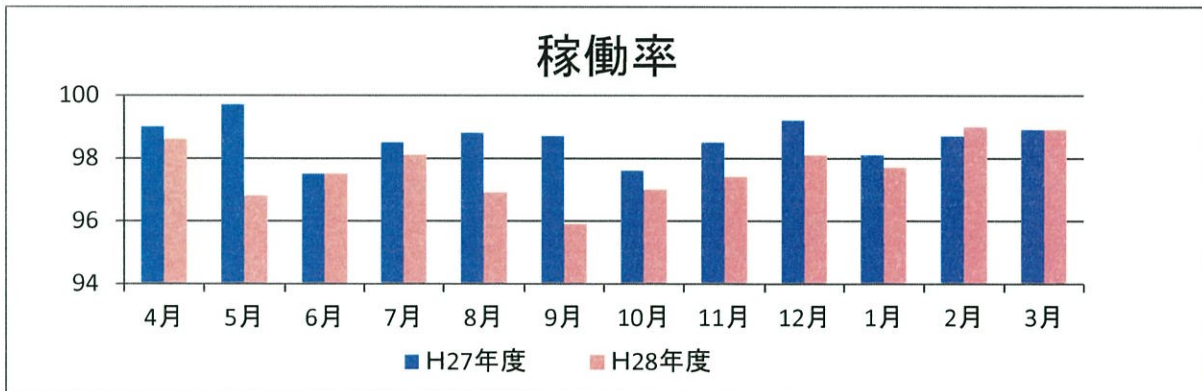
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
H26年度実績	34,018	34,256	32,662	34,696	34,148	33,052	202,832	—
H27年度実績	33,141	35,752	34,418	35,441	35,653	34,686	209,091	—
H28年度実績	34,648	35,468	34,421	35,686	35,494	34,197	209,914	—
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
H26年度実績	35,136	34,015	35,136	35,136	31,771	35,136	409,162	—
H27年度実績	35,481	34,584	36,041	35,596	33,224	35,498	419,515	103%
H28年度実績	35,322	34,320	35,813	35,754	32,609	35,818	419,550	100%



●稼働率

(単位:%)

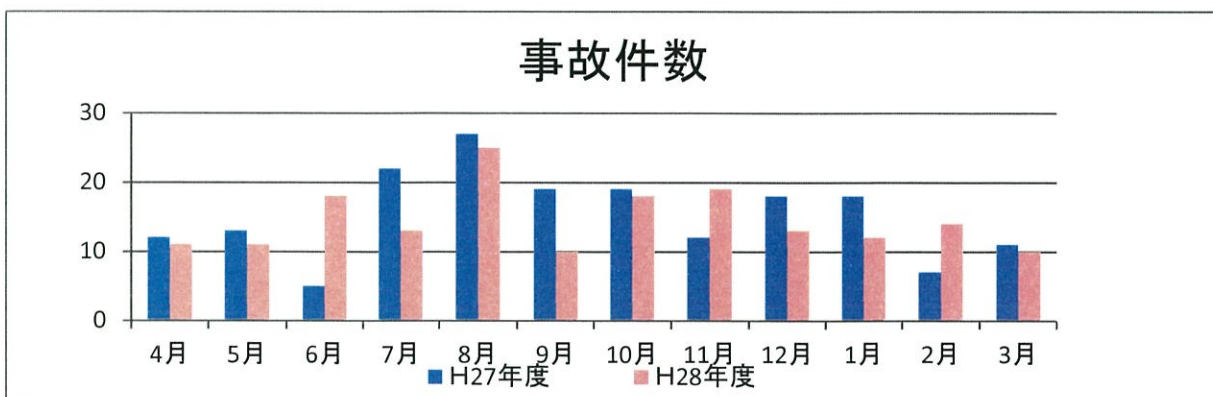
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均	比率
H27年度	99	99.7	99.1	98.5	98.8	98.7	99	—
H28年度	98.6	96.8	97.5	98.1	96.9	95.9	97	99%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	比率
H27年度	97.6	98.5	99.2	98.1	98.7	98.9	98.8	—
H28年度	97	97.4	98.1	97.7	99	97.8	97.6	99%



●事故件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
H27年度	12	13	5	22	27	19	98	—
H28年度	11	11	18	13	25	10	88	90%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
H27年度	19	12	18	18	7	11	183	—
H28年度	18	19	13	12	14	10	174	95%



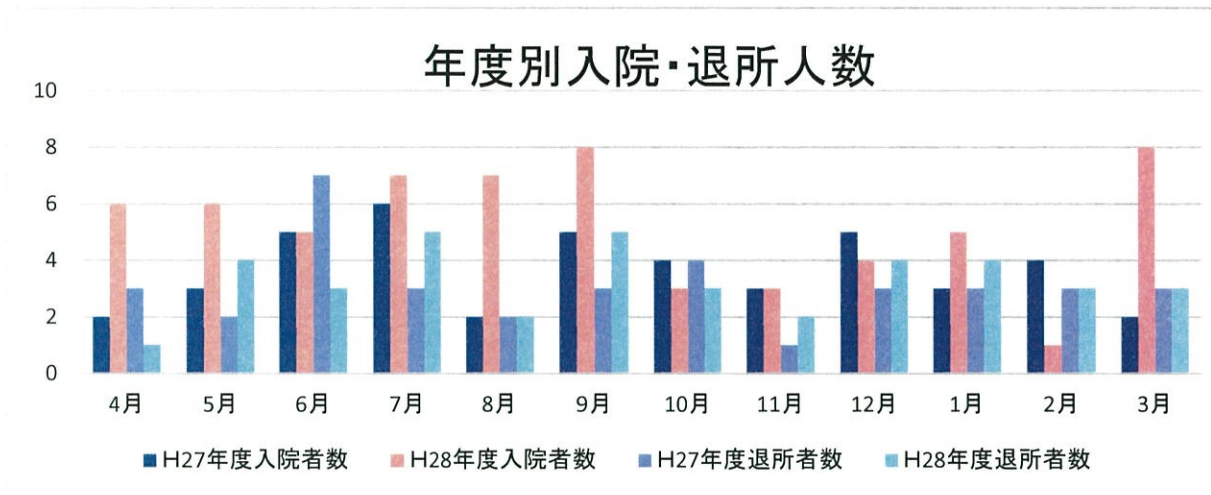
●年度別入院・退所人数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
H27年度入院者数	2	3	5	6	2	5	23	
H28年度入院者数	6	6	5	7	7	8	39	134%
H27年度退所者数	3(2)	2(1)	7(1)	3(0)	2(0)	3(2)	20(6)	-
H28年度退所者数	1(0)	4(2)	3(0)	5(0)	2(0)	5(1)	20(3)	100%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
H27年度入院者数	4	3	5	3	4	2	44	-
H28年度入院者数	3	3	4	5	1	7	62	141%
H27年度退所者数	4(1)	1(0)	3(1)	3(0)	3(1)	3(0)	37(9)	-
H28年度退所者数	3(0)	2(2)	4(2)	4(3)	3(2)	3(1)	39(13)	105%

* ()の数字は、ターミナルで退所となった人数です。

年度別入院・退所人数

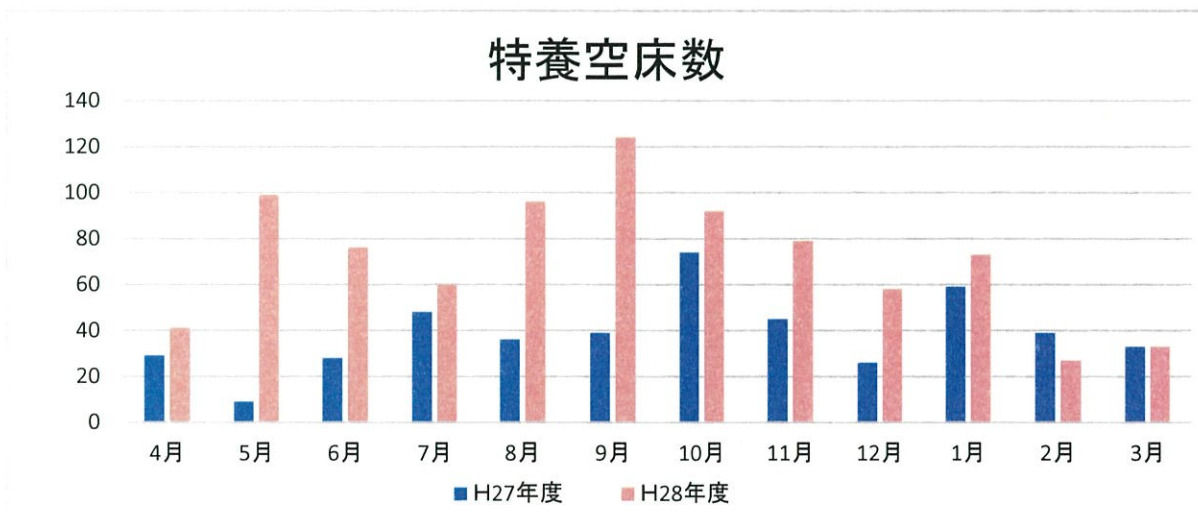


●特養空床数

(単位:床)(単位:%)

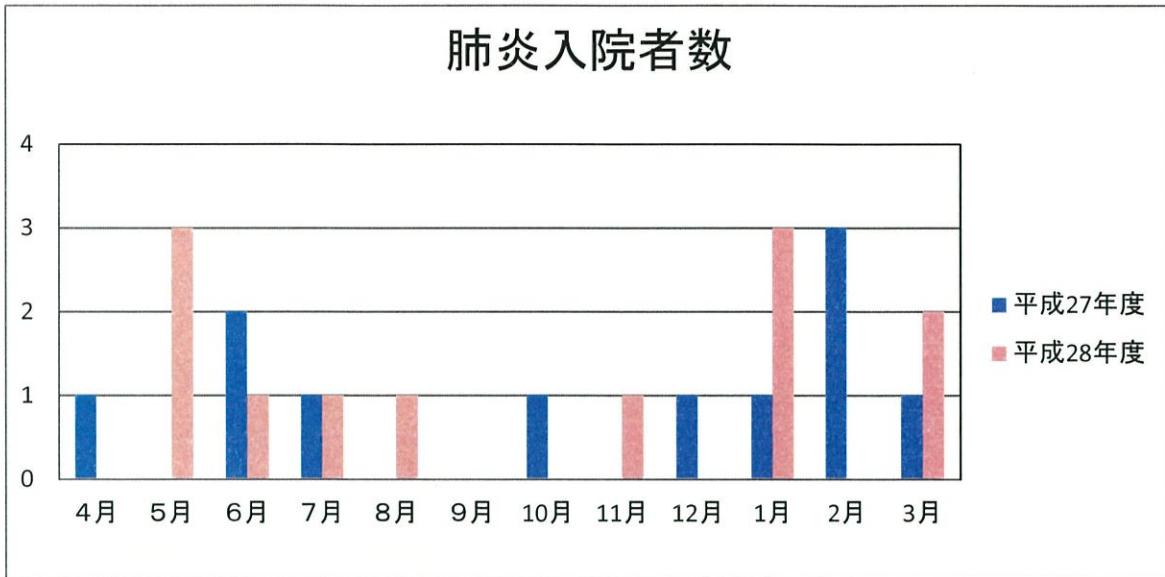
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
H27年度	29	9	28	48	36	39	189	-
H28年度	41	99	76	60	96	124	496	262%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
H27年度	74	45	26	59	39	33	465	-
H28年度	92	79	58	73	27	33	858	185%

特養空床数



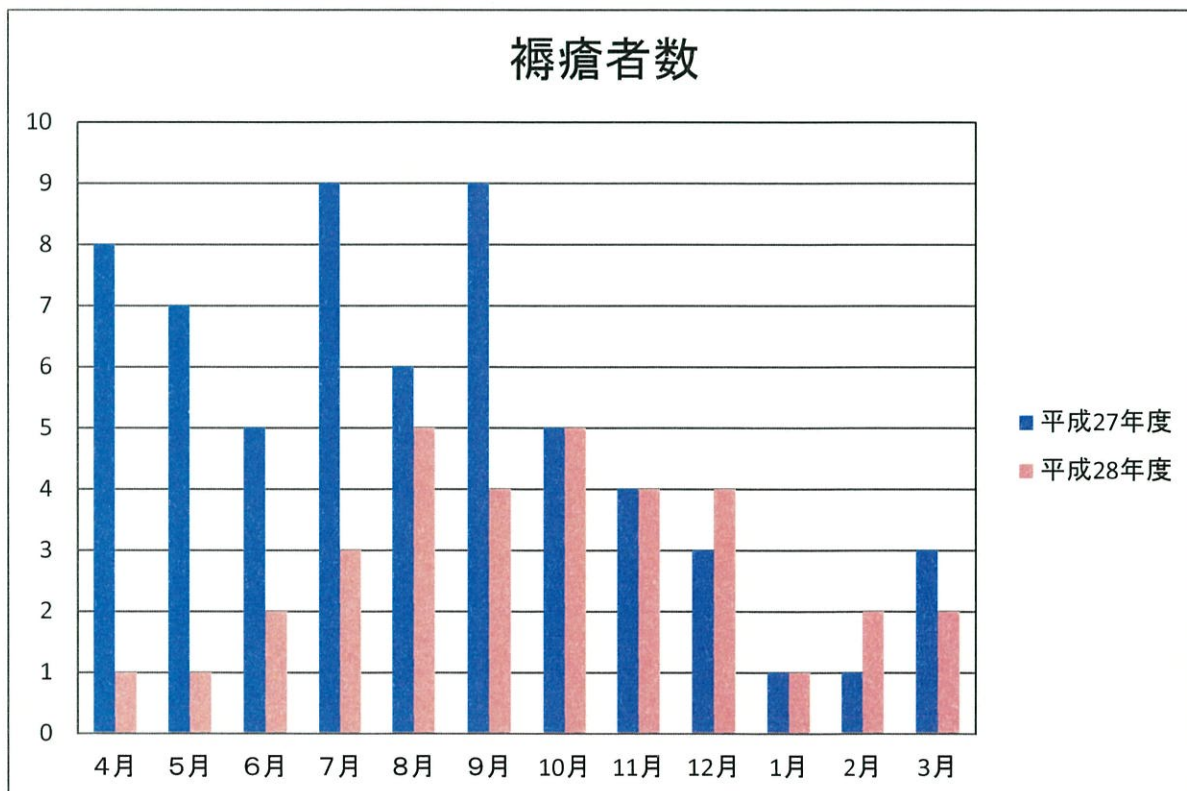
●肺炎入院者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
平成27年度	1	0	2	1	0	0	4	—
平成28年度	0	3	1	1	1	0	6	150%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
平成27年度	1	0	1	1	3	1	11	—
平成28年度	0	1	0	3	0	2	12	109%



●褥瘡者数

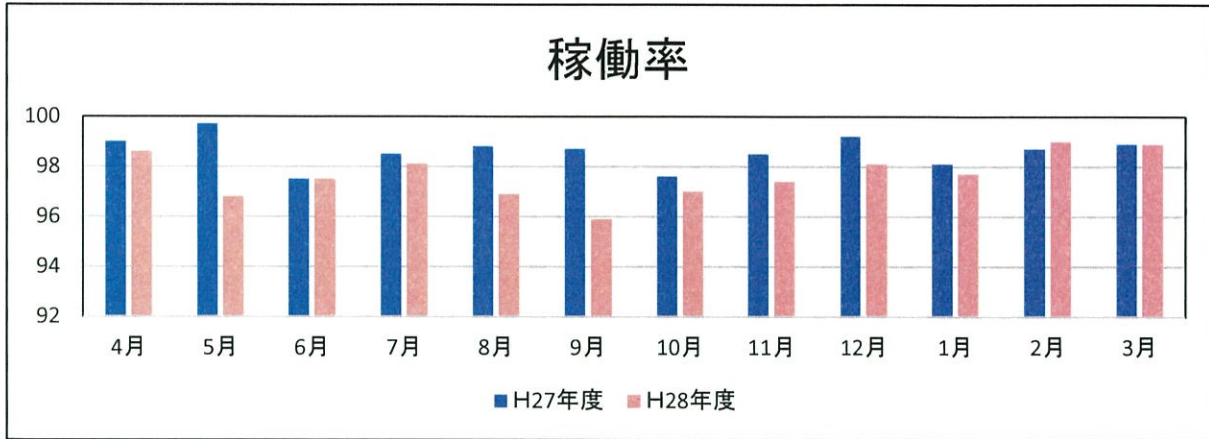
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
平成27年度	8	7	5	9	6	9	44	—
平成28年度	1	1	2	3	5	4	16	36%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
平成27年度	5	4	3	1	1	3	61	—
平成28年度	5	4	4	1	2	2	34	56%



●稼働率

(単位:%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均	比率
H27年度	99	99.7	99.1	98.5	98.8	98.7	99	—
H28年度	98.6	96.8	97.5	98.1	96.9	95.9	97	98%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	比率
H27年度	97.6	98.5	99.2	98.1	98.7	98.9	98.5	—
H28年度	97	97.4	98.1	97.7	99	98.9	98.5	100%



(植田 智)

平成28年度 サンライフ御立ショートステイ

事業報告

ささゆり会スローガンである活力ある職場づくりを目指し、リフレッシュ休暇や介護軽減のための道具の導入などを行った。QC活動として取り組んだ事故防止では前年度より15%減らすことができた。職員確保については、入れ替わりも多くなかなか人員の安定は困難な状況が続いている。

姫路市からの通達により静養室の使用を極力控えたことで前年度よりも収入は減少した。年度末のインフルエンザ感染により大きな痛手を負った。

I. 介護人材確保と育成・定着

- 1) 経験年数の少ない職員や技術不足の職員に対する介護技術の講習は行えたが接遇研修は実施できていない。全体に接遇の低下が見られ、利用者様に対するきつい言い方や、親しすぎる接し方が目についた。他人が聞いて不快に思う言い方はしてはいけないと線引きしているが守られていない。
- 2) 電話対応研修は人員に余裕がなく行えなかった。電話専用メモの活用や、他者の対応を見て取り入れるよう意識することでトラブルはみられていない
- 3) 業務の簡略化のためiPadを取り入れたことで非常にスムーズに入退所のチェックができるようになったが、端末が古いことでアプリの動作が悪く、スピードがかなり遅くなる等のあらたな問題が発生してきている。
退所時の忘れ物ゼロを目指しているが、なくならない状況である。職員の入れ替わりもあり、ミスのない仕組みづくりを考える必要がある
- 4) 委員会活動にはなかなか力をいれられなかったが、QC委員会の活動には下半期で全員が一丸となって取り組み、一定の結果を出すことができた。
- 5) 契約業務については相談員がメインで行い、緊急受け入れ時にリーダーも対応することで滞りなく行えた。
- 6) リーダー業務の振り分けを行い、中堅職員のスキルアップを図ると共に、リーダーの負担を軽減し全体を見られるようにした。それによって各職員に指示を出すこともできていたが、それぞれ振り分けられた業務を行っていくにはまだ時間を要する。中堅職員はケアプラン作成の期限が守られていないことが多くあり来年度の大きな課題となった。

II. 活力ある職場作り

勤続年数2年以上の職員に対しリフレッシュ休暇（5日程度）を取れるようにすると、リフレッシュ休暇を含め全員が年間6日以上の有給取得を目指し、リフレッシュに

関しては全員が、有休取得に関してもほぼ全員がとることができた。

Ⅲ. 安全な職場環境への取り組み

腰痛防止のための体操は実施できていない状況であるが、福祉用具の活用については積極的に取り入れ、活用することができ、腰痛防止に繋がった。

Ⅳ. 感染症の防止

3月にショートステイ利用者からインフルエンザが流行し、感染が4階全体に拡がり、約2週間にわたり利用を大きく制限することになった。3月も半ばが近づき、インフルエンザ流行はほぼ終わった時期であると思い、初動の対応が遅れてしまったことが感染を拡げることになってしまった。今回の反省点を来年度に活かし、絶対に感染を拡げないようにしなければならない。

Ⅴ. 緊急入所依頼について

機能していなかった静養室の整備を行い使用できるようにしているが、姫路市より、よほどのことでない限り使用は控えるようにとのことでほぼ使用していない状況である。緊急受け入れの要請があった際にはいつでも対応するよう体制を整えておく。

Ⅵ. 事故の減少

QC活動の事故減少の取り組みを11月から開始した。1か月に10件以上の事故が毎月のように起こっていたが、この取り組みによって前年度139件から今年度105件と大きく減少させることができ、やればできるという達成感を皆が得ることができた。

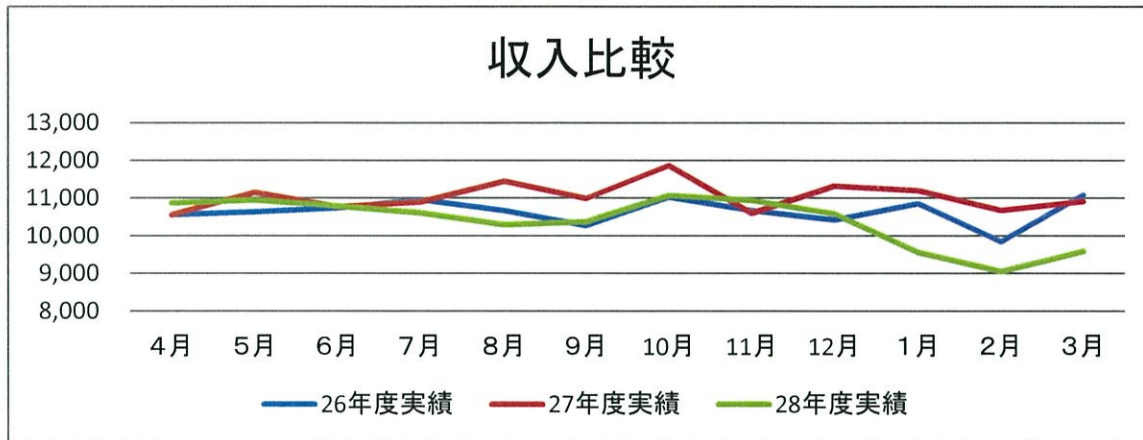
Ⅶ. 収入・利用者の確保

今年度の収入は居室料の減額と、30日超過減算の増加、(長期利用者の重度化により現在約20名の方が帰宅するのが困難であり毎月約2万円の減収である)静養室の使用を極力控えるようにしたことによって前年度比95.4%と減少している。また、今まで長らくご利用されていた方々が1年間で約13名亡くなり、新しい利用者を確保するように努めた。年末年始は、体調不良や亡くなる等でロングの枠に空きが出て、待機の方の家族の都合でなかなか入所にいならず、居室を空けたままにしてしまうことが続き、収入を大きく減らすことになってしまった。

3月はインフルエンザ流行での利用制限により稼働率が93%となり約100万円の収入減となってしまった。1か月に約8件の新規契約を行うが、認知症でない方のリピートがなかなか無い状況である。御立の特色である重度の認知症であっても安心して利用できるという環境面をケアマネにはアピールしている。

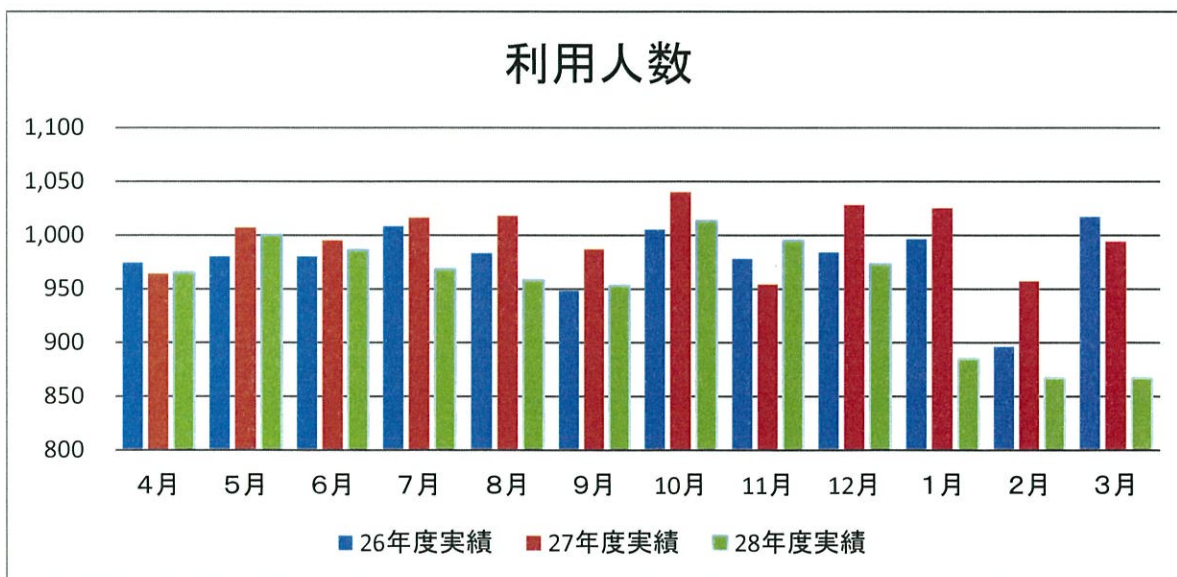
●年度別収入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
26年度実績	10,553	10,632	10,728	10,950	10,664	10,267	63,794
27年度実績	10,549	11,149	10,763	10,894	11,448	10,987	65,790
28年度実績	10,870	10,946	10,781	10,601	10,285	10,366	63,849
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度実績	11,024	10,664	10,415	10,855	9,841	11,081	127,588
27年度実績	11,868	10,595	11,320	11,200	10,673	10,914	131,580
28年度実績	11,065	10,937	10,578	9,553	9,050	9,581	127,698



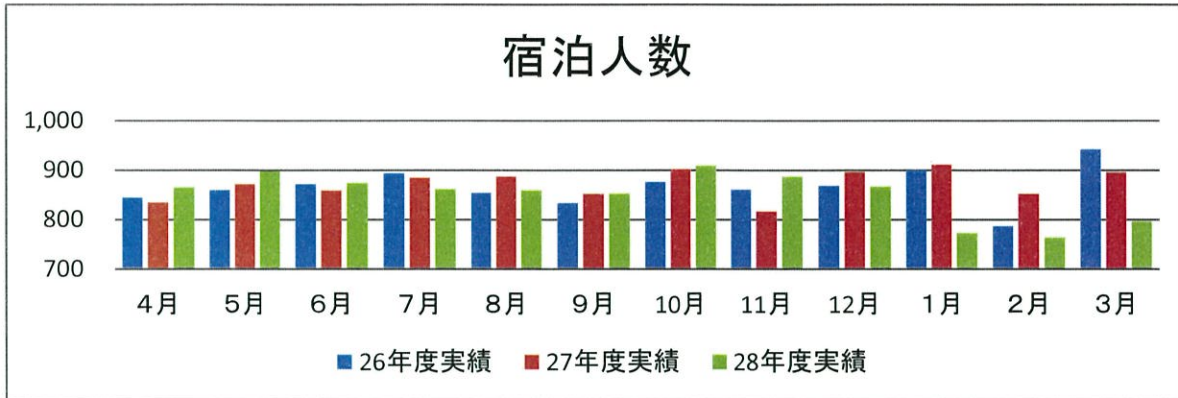
●年度別利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
26年度実績	974	980	980	1,008	983	948	5,873
27年度実績	964	1,007	995	1,016	1,018	987	5,987
28年度実績	965	1,000	986	968	958	953	5,830
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度実績	1,005	978	984	996	896	1,017	11,746
27年度実績	1,040	954	1,028	1,025	957	994	11,974
28年度実績	1,013	995	973	885	867	867	11,660



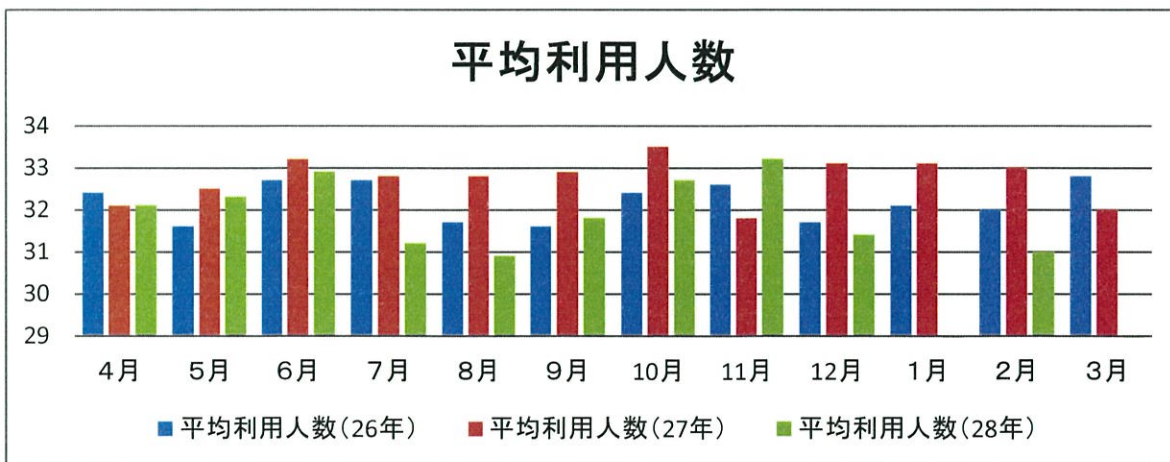
●年度別宿泊人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
26年度実績	844	859	871	893	854	833	5,154
27年度実績	834	871	858	884	887	852	5,186
28年度実績	864	897	873	861	858	852	5,205
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度実績	876	860	868	899	786	942	10,308
27年度実績	902	816	896	911	852	895	10,372
28年度実績	908	886	866	772	763	796	10,410



●月ごとの平均利用人数

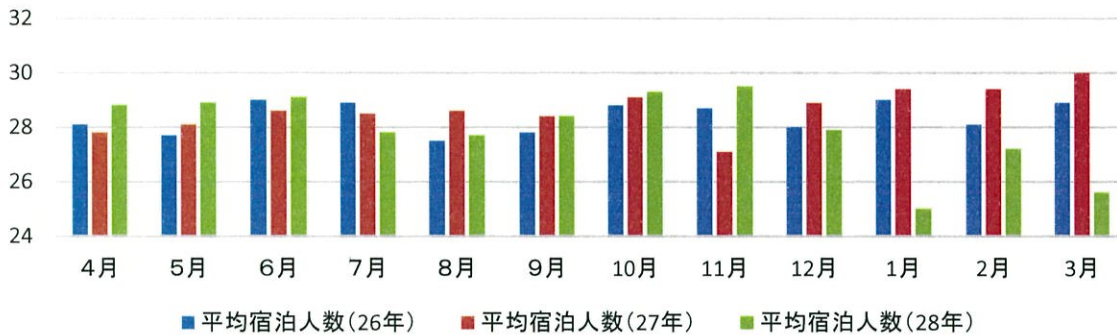
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平均利用人数 (26年)	32.4	31.6	32.7	32.7	31.7	31.6	32.1
平均利用人数 (27年)	32.1	32.5	33.2	32.8	32.8	32.9	32.7
平均利用人数 (28年)	32.1	32.3	32.9	31.2	30.9	31.8	31.8
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均利用人数 (26年)	32.4	32.6	31.7	32.1	32	32.8	32.19
平均利用人数 (27年)	33.5	31.8	33.1	33.1	33	32	32.7
平均利用人数 (28年)	32.7	33.2	31.4	28.5	31	28	31.3



●月ごとの平均宿泊人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平均宿泊人数 (26年)	28.1	27.7	29	28.9	27.5	27.8	28.1
平均宿泊人数 (27年)	27.8	28.1	28.6	28.5	28.6	28.4	28.3
平均宿泊人数 (28年)	28.8	28.9	29.1	27.8	27.7	28.4	28.4
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均宿泊人数 (26年)	28.8	28.7	28	29	28.1	28.9	28.3
平均宿泊人数 (27年)	29.1	27.1	28.9	29.4	29.4	30	28.6
平均宿泊人数 (28年)	29.3	29.5	27.9	25	27.2	25.6	27.9

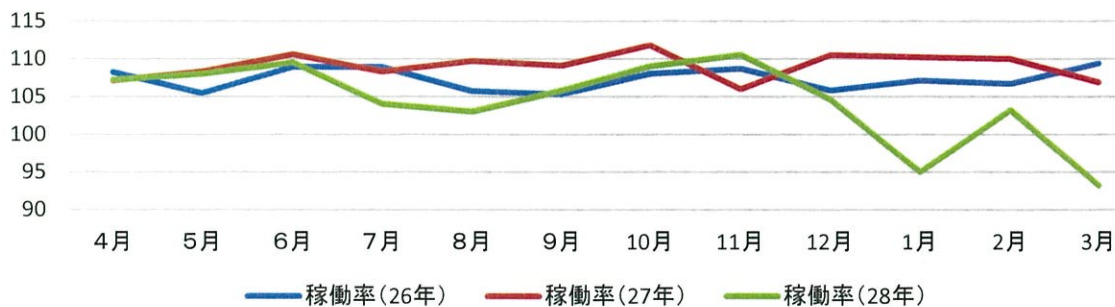
平均宿泊人数



●年度別稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
稼働率 (26年)	108.2	105.4	108.9	108.9	105.7	105.3	107
稼働率 (27年)	107.1	108.3	110.6	108.3	109.7	109.1	653.1
稼働率 (28年)	107.2	108	109.5	104	103	105.8	637.5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率 (26年)	108	108.7	105.8	107.1	106.7	109.4	107.3
稼働率 (27年)	111.8	106	110.5	110.2	110	106.9	109
稼働率 (28年)	109	110.5	104.6	95	103.2	93.2	104.4

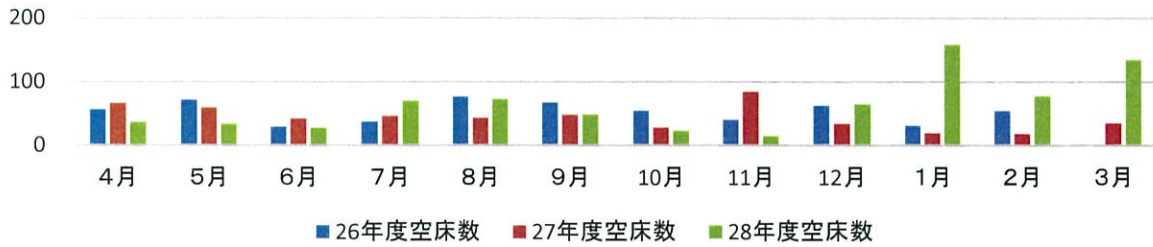
平均稼働率



●年度別空床数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
26年度空床数	56	71	29	37	76	67	336
27年度空床数	66	59	42	46	43	48	304
28年度空床数	36	33	27	69	72	48	285
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度空床数	54	40	62	31	54	0	672
27年度空床数	28	84	34	19	18	35	608
28年度空床数	22	14	64	158	77	134	570

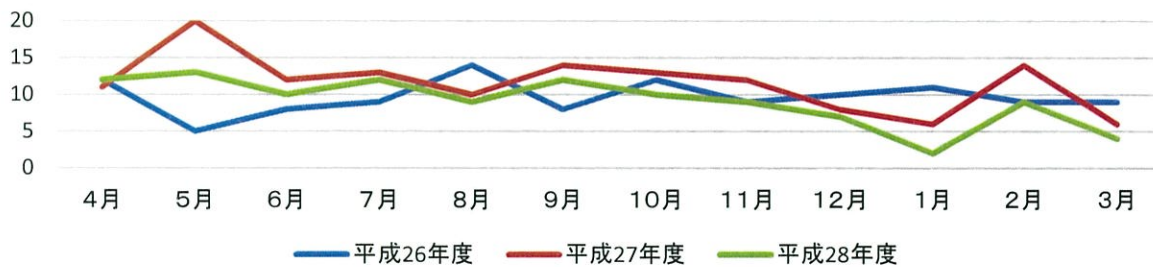
月ごとの空床数



●年度別事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成26年度	12	5	8	9	14	8	56
平成27年度	11	20	12	13	10	14	80
平成28年度	12	13	10	12	9	12	68
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26年度	12	9	10	11	9	9	116
平成27年度	13	12	8	6	14	6	139
平成28年度	10	9	7	2	9	4	109

事故件数



(井本 美奈子)

平成28年度 特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

事業報告書

平成28年度法人運営方針「積極経営で活力ある職場作り」のもと他職種と情報、を共有し、チームワークの強化を図り、下記のように大きく3点の目標に基づいて事業計画を立案し、業務に取り組んできた。

しかし、平成28年度は入院数も平成27年度に比べ増加(資料1)、入院稼働についても、入院延べ日数985日と上がり入院数は月平均5.1人、ベッド稼働率は97.7%・入院率は2.7%であり、99%の施設目標には及ばなかった。この事に関しては、ご利用者様の介護度及び身体機能・認知度が影響していると考えられる。以下、各々について考察し、次年度に繋げるべき課題を見出して行きたい。

I 他職種との協働と連携

1、看取りケアへの取り組み

平成28年度の看取り者は12名であった。平成27年度に比べても伸びはない。看取りケアに関しては、配置医の協力のもと看取り時期になったご利用者様家族に対し、看取りの意味を説明し、看取り同意の確認に取り組んだ。しかし、結果は(資料1)の通りである。入所契約時には約70%のご家族が最後は施設での看取りを希望されているにも関わらず、看取り時期になられたご利用者様を前に、説明を加えても病院での治療を希望されるケースが多かった。まだまだ社会的に施設での看取りが根付いてない、その上、家族の情の強さがうかがえた。次年度は再度看取り看・介護に力を入れていきたい。

2、ショートを受け入れ

平成28年度は入退所が激しかった。特養の入院による退所・死亡が原因でありロングショートからの特養入所が多かった。ロングショートをご利用の方で検査データの悪い方、また状態のおもわしくない方等の受け入れに関しては、速やかに回診で医師と相談をし、特養入所できるようにつなげ、看取りケアへと繋げでいったことで、稼働にも協力出来たと考えている。

II 健康管理

1、職員の健康管理を年2回（深夜業に従事するものを含む）

深夜業に従事する者に対して6月に実施、産業医の協力のもと指摘のあった職員については、個々に再検・再受診の通知を行っている。また、介護職員には腰痛予防にコルセットの着用を衛生委員会と協力をして義務づける様に働きかけたが、な

かなか定着はしてないのが現状である。

全職員対象の健診に関しては、12月に実施し、異常所見の指摘のあった職員には要受診・要治療の通知を個々に行った。全健診者の約40%の職員に異常所見が指摘されており、そのうち約35%の職員から再受診をしたと報告を受けている。

他の60%の職員に対しても経過観察者が多く、また異常所見者に対しても就労には何ら問題がないと産業医から判断されている。今回指摘のあった職員から再受診・再検査の報告を受け、自己の健康に対する認識度がうかがえており、次年度にも繋げていきたいと考えている。

2、入所者の健康診断年1回実施

ご利用者様に対しては、契約病院・配置医の協力のもと11・12月健康診断を実施した。特に異常所見のあったご利用者様には、個別に契約病院から報告があり、速やかにご家族様にも連絡し対処を行った事で大事には至ってない。

III 感染対策予防

1、インフルエンザ・ノロウイルス等について

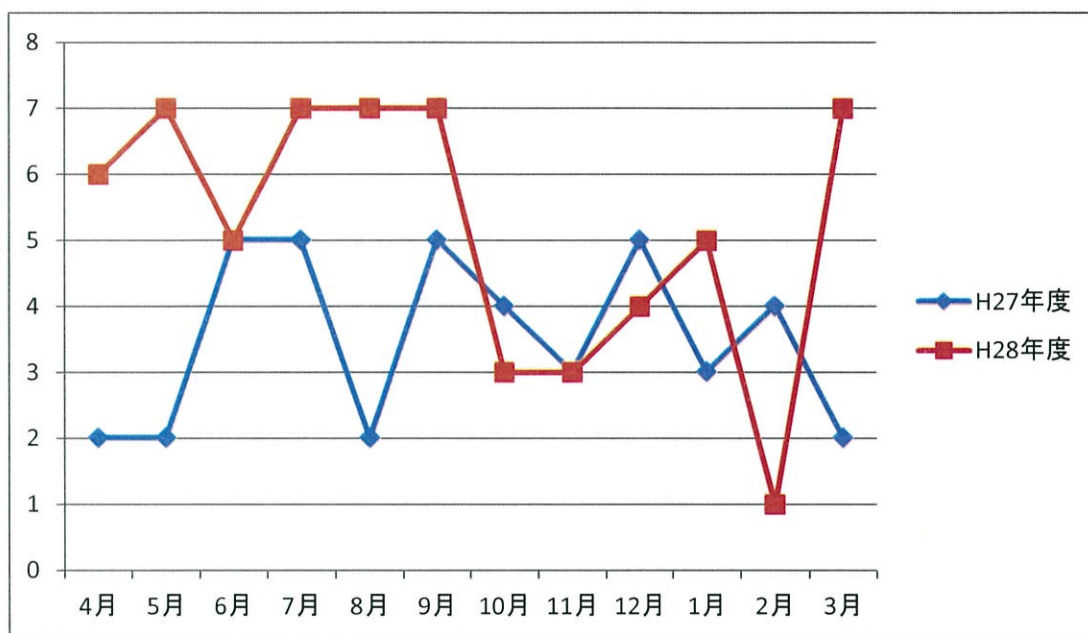
職員及びご利用者様に対しては、予防接種を実施、また日々感染時季には朝礼を利用して、職場の環境整備・換気呼び掛け、手洗い・嗽・ポスターの掲示等を行ない対策に挑んでいった。

しかし、3月上旬にショートご利用者様からインフルエンザが発症、フロアーが混在する事から20名のご利用者様が感染し、2週間の隔離生活を余儀なくされた。

また、精神的な負担をもたらしてしまった事は、施設に対してもご利用者様に対しても大きな反省点である。が、病院・薬局と連携を取り速やかに対処できた事で20名の発症に抑えられたこと、感染しても重度化しなかった事は良かったと思っている。次年度は感染対策委員会と連携を密に、マニュアルを見直し・整備し、誰が見ても同じ対策がとれるようにし、感染拡大を最小限にとどめるように頑張っていきたい。

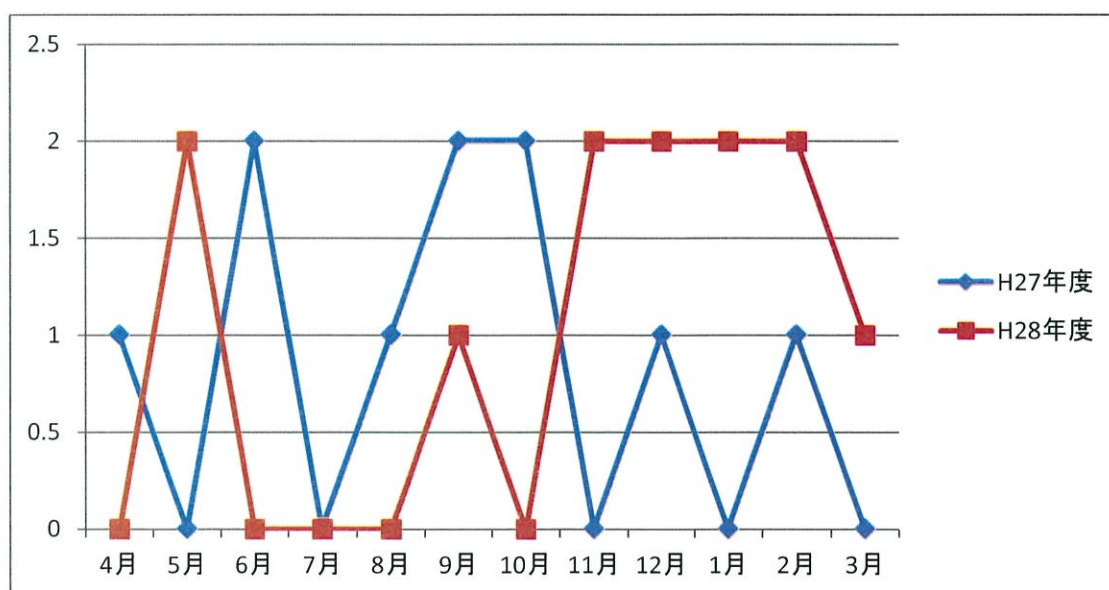
入院者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
H27年度	2	2	5	5	2	5	4	3	5	3	4	2	42	3.5
H28年度	6	7	5	7	7	7	3	3	4	5	1	7	62	5.1



看取り 死亡者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度	1	0	2	0	1	2	2	0	1	0	1	0	10
H28年度	0	2	0	0	0	1	0	2	2	2	2	1	12



平成28年度 入 所 者 受 診 数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	2	9	6	2	3	4	10	7	4	10	9	8	74
外・脳外科	1	1	4	4	6	3	6	3	2	1	0	3	34
整形外科	2	4	3	0	2	1	1	2	1	3	2	1	22
眼科	0	2	4	1	0	3	1	0	1	0	0	3	15
泌尿器科	7	2	3	2	0	4	1	3	2	2	1	1	28
その他	0	0	1	0	0	1	1	1	3	2	5	2	16
受診件数	12	18	21	9	11	16	20	16	13	18	17	18	189
骨折件数	0	0	1	0	2	0	1	1	0	1	0	0	6

※ 皮膚科・歯科・精神科は訪問診療を受けている為省く

平成 28 年度は資料 2 にも示している通り、平成 27 年度 378 件から平成 28 年 189 件と利用者様の受診数が大きく減少している。これは精神科医師による往診体制が構築できたこと、眼科受診を抑え、眼薬の処方契約病院にした事によるものである。往診診療は精神科医師療養加算が取得でき、微微たるではあるが施設収入となっている受診者数が減少した事は、看護師の現場に入る時間も多く、介護者と共にご利用者様に関わっている。その上、介護者とはコミュニケーションも図れ、看・介護との情報の共有・連携・人間関係の構築・チームワークに繋がり良い方向性であると考えている。

(榎本 益美)

平成28年度 特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

事業報告書

職員の募集を積極的に行い、人数の確保を行った。業務の引き継ぎを主に行ったため、作業効率や、業務分担等についてはこれから行っていく必要がある。管理栄養士業務においては、人員不足により全員が調理現場に入っていたため滞りがちであった。

I 衛生管理の徹底

前年度、報告があった異物混入については、平成28年度の厨房への報告は0件であった。職員同士の身だしなみのチェックや、気づいた際に指摘、指導を行うことが異物混入の防止につながったと考えられる。また、盛り付け時に異物の混入を確認することで利用者様に配膳される前に事前に防ぐことができた。また、新しい職員には身だしなみ、器具の使い分け等において気になった点をその都度指摘するようにした。しかし、手袋の使用、加熱食品、非加熱食品の包丁・まな板の使い分けが曖昧な職員がいるので、徹底していく必要がある。

II 人員の確保・定着

長く勤められていた調理師の退職、非常勤職員の入れ替わり、管理栄養士の変更等厨房の職員が大幅に入れ替わり、業務の引き継ぎもままならない状況であった。上半期に採用した複数の職員は続かず、人員の確保・定着には至らなかった。しかし、下半期に採用した職員の育成は順調である。働きやすい環境づくり等をさらに進めていく必要がある。また、引き継ぎ時間の短縮、人員の削減につなげるために、それぞれの勤務時間の業務マニュアルの作成を行った。

III 栄養ケアマネジメント

管理栄養士全員が調理を行っており、入所者様の状況把握が困難な状況であった。栄養ケアやモニタリング、スクリーニングなど期限に提出することが困難な月もあった。栄養ケア作成に至り、利用者様の状況把握においてもアセスメント・モニタリングは必須であるため、今後しっかりと行っていくべきである。

(後藤 侑美)

平成28年度 デイサービスセンターサンライフ御立

事業報告書

今年度は、QC活動やHCCの参加などを通じて職員の介護力の向上を図ってきた。現在の個々の介護力を見極めながらそれぞれに合った講習や研修を行い職員の介護技術の向上を図った。

またサービスの向上については利用者様の意見や希望を聞きながら外出レクや個別レクリエーションに力を入れ介護度に差があっても一人ひとりが意欲を持って利用できるよう取り組んだ。

収入面においては前年度に引き続き利用者の身体状況の変化による退所が続いており、新規利用者では補えず稼働率が伸びず収入減になった。

I. 職員の質・介護力の向上およびチームワーク

個々の介護力の向上を目指し今年度はQC活動のテーマを「介護技術の向上」とし、今持っている個人の介護力を見極め職員一人一人に合った介護講習の実施または研修を行った。利用者様の介護度が上がっているなかで職員の持っている不安などもその都度聞き出しながら適切なアドバイスが出せるよう常勤職員でミーティングを実施し、休みの日の状況等も分かるよう申し送りノートを活用した。また利用者様の中には医療的処置が必要な方が増えてきており、看護師との連携も重要になってきており、看護師が中心になり利用者様が罹っている疾患についての研修を行い、利用者様への共感や理解に繋げた。

II. 常勤職員・非常勤職員の人材育成

内部研修を実施し通所介護の概要や基準について説明を行っているが細かいところなどは理解できていない職員が多い状態にあった。今後も定期的に勉強会を実施し理解に努めていく。責任者以外の常勤職員にも対外的な活動として、新規の契約や担当者会議などにも参加してもらった。

サービス提供体制強化加算Ⅰについては、介護福祉士資格の取得者数が加算要件をクリアできない状況にあり、3年以上勤務の職員の割合で算定可能なサービス提供体制強化加算Ⅱの算定を継続することとなった。

III. 新たなレクリエーションの導入

今年度に入り要支援の新規利用が増え、また現在利用されている方の介護度は上がっており介護度の差が大きくなっている現状にあり個々に合わせたレクリエ

ーションの提供が必要となった。利用者様から声の多い外出レクを3カ月に1度くらいの頻度から月1回おこない、個別レクリエーションでは塗り絵が主であったがパズルや手芸を取り入れ、バリエーションを増やした。

IV. 新規利用者数の確保

今年度の新規契約者数の月平均は2.0名で、月によってばらつきが多かった。入所や亡くなるケースも多く、なかなか平均利用者数が増えていない。収支の面では、水道関係やボイラーの修理、カラオケ機器の買い替え等設備の老朽化による支出があった。

平成28年度利用人数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
今年度月平均目標	28.5	28.9	29.6	30.2	30.6	31.1	29.8/月平均
今年度利用人数目標	741	751	770	785	826	809	4682
今年度月平均実績	24.5	23.4	25.7	24.2	23.2	23.9	24.2/月平均
月延利用者数	636	610	667	629	626	622	3790
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
今年度月平均目標	31.6	32	32.2	32.7	34	34.8	31.4/月平均
今年度利用人数目標	822	832	869	818	815	940	9778
今年度月平均実績	25.6	24.3	23.4	23.1	23.6	23.8	24.0/月平均
月延利用者数	665	631	634	579	565	642	7506

平成28年度収入

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年度目標	6,031	6,109	6,258	6,378	6,694	6,555	38,025
平成28年度実績	5,153	4,744	5,138	4,803	4,827	4,758	29,423
差異	-878	-1,365	-1,120	-1,575	-1,867	-1,797	-8,602
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
平成28年度目標	6,662	6,740	7,040	6,612	6,585	7,553	79,222
平成28年度実績	5,066	4,897	4,830	4,559	4,562	5,026	58,363
差異	-1,596	-1,843	-2,210	-2,053	-2,023	-2,527	-20,859

(世良 和彦)

平成28年度 ケアハウスサンライフ御立

事業報告書

入居者が、快適かつ安心して生活できる様 ADL の低下抑制を重点項目にあげ、それに伴う各種行事への参加支援、相談サービスの充実や各部署との連携を図った。

行事やクラブ活動等を計画し、楽しくメリハリのある生活が送れる様サポートした。毎日の生活の一部となる様、体操や学習療法を組み入れ身体的機能の現状維持を図り、ADL の低下を抑制する様支援した。

又、日頃の生活状態の変化に気付き、身元保証人との連携を密にして対応した。

1. 健康面や精神面の相談サービスの充実

大半の入居者は、かかりつけ医に定期受診をして健康管理がなされていた。月2回健康チェックを実施し、体調の変化に留意した。参加率を上げ、日頃から入居者の身体面や精神面の変化や悩みをくみ取り、安心した生活できる様サポートした。

ケアハウスにおいての生活に不安を覚えるようになる前に身元保証人との話し合いを行ない、介護認定申請を行う等の支援をした。

骨粗鬆症予防や骨折予防の為、毎日の散歩を奨励した。ホール、廊下等のウォーキングの習慣化につなげられる様アドバイスをした。

ケアマネジャーとの連携を密にし、入居者の状態に合わせヘルパー、ディサービス、グループホーム、ショートステイ等との相談サービスの充実を図った。

①介護認定状況 (H29. 3. 31 現在)

単位：人

	自立	支援1	支援2	介護1	介護2	合計
5階	5	2	5	3	0	15
6階	6	6	1	1	2	16
合計	11	8	6	4	2	31

②サービス利用状況 (H29. 3. 31 現在)

単位：人

	ヘルパー	訪問看護	ディサービス	生きがいデイ	福祉用具貸与
5階	7	2	6	1	4
6階	9	0	7	0	5
合計	16	2	13	1	9

③入居者年齢・性別状況 (H29. 3. 31 現在)

単位：人

	～74才	～79才	～84才	～89才	～94才	合計	平均年齢
男性	0	2	2	2	0	6	81.7才
女性	2	2	6	8	7	25	84.3才
合計	2	4	8	10	7	31	83.0才

最高年齢：94才(女性)

最低年齢：62才(女性)

2. 各種行事・クラブ活動への参加支援

現行の行事やクラブ活動を充実させ継続する様に努めた。残念ながら新しい教室の取り入れは出来なかった。

年6回の誕生会、季節ごとの外食やバスハイク等の行事を行った。

学習療法は11年目になるが、内容を見直し自由にプリントを持ち帰れるようにして入居者の意欲を高める様に支援した。前年度より参加者が増えた。

フラワーアレンジメント教室は、生花に触れることの癒し効果を期待できるので継続。支援ができた。

買物サービスを月2回実施。快適な生活が送れる様に支援ができた。

童謡クラブ(うたの会に改名)は、皆さんが楽しみにされているので、継続。支援ができた。

3. 相談サービスの充実

様々な悩みや不安を、少しでもやわらげ安心感をもって生活できるように相談業務を充実させた。

ケアハウス職員会議を開き、意識統一を図り、職員間の対応の差をなくしていく。

ケアマネジャーとの連携を密にし、入居者の状態に合わせヘルパー、ディサービス、グループホーム、ショートステイ等との相談サービスの充実を図った。

4. ボランティア活動の充実

各部署の要望も取り入れながらボランティアを募り、入居者の方々に楽しんでいただけるような内容の行事を計画し、地域住民とのふれあいができるように援助した。

地域の保育園児や幼稚園児さん達の来園回数を増やし、入所者の方々の気力の活性化を図った。また、施設内の行事においてもボランティアの協力が得られるように意見交換や連絡をした。

平成28年度 実績収入

単位：千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	4,225	3,862	3,968	3,865	4,024	3,878	23,822
平成28年度実績	4,646	4,448	4,710	4,547	4,830	4,467	27,648
差額	421	586	742	682	806	589	3,826

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	4,030	3,897	4,185	3,523	3,819	3,890	47,166
平成28年度実績	4,688	4,518	4,861	4,425	4,657	4,414	55,211
差額	658	621	676	902	838	524	8,045

(宮岡 美代恵)

平成28年度 ユニット型老人ホームサンライフひろみね

事業報告書

今年度より姫路市医師会看護専門学校の看護実習を受け入れている。8名を受け入れ、地域の人材育成や職員の指導力向上に努めている。人員不足のため派遣社員を利用したが、質が悪く、継続性も低く、人員補充には至っていない。職員の負担を軽減するためにも常勤職員での人員補充を検討している。

利用者の健康についてはターミナルケアや脳内出血、転倒骨折、脳梗塞による入院があり入院、空きベッドが上昇したが、毎日の健康チェックを行うことで尿路感染症、肺炎を早期に発見し、早期治療することで入院にまで至らないことが多く健康が維持できている。

I. 科学的介護の推進状況について

ターミナルケアや骨折で一時的にオムツを着用することはあるが、施設全体で日中おむつ外しを取り組むことで、平成29年3月末には日中おむつ率0%に戻すことができた。入浴についてもプライバシーが守れて安全に入浴できるリフト付個浴100%が継続できている。食事については口腔ケアや歯科医師による訪問歯科診療を受け、普通食が平成28年3月末に68%から同年11月に76%へと少し上昇したが29年3月末には66パーセントに減少してしまった。

言語障害や言葉数が少なかった御利用者に発生練習や口腔体操、口腔ケアを実施することで発語できるようになった。

II. 職員教育について

- (1) キャリアパス制度の階級に合わせた研修が御立で実施されている。職員がその研修に参加できるように勤務を調整することで能力向上に努めている。
- (2) 他ユニットとの情報の共有や協力体制を継続するためのリーダー会議が毎月実施出来ている。業務の再確認や情報共有を目的としたユニット会議が毎月1回以上実施しチーム力の維持を図っている。
- (3) 介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員受験資格取得者に対し、サンライフ御立での勉強会へ参加を勧め、資格取得をサポートしている。また、介護福祉士の受験必須事項である実務者研修の費用半額を施設が負担することで受験者の負担が軽減できるように支援している。

- (4) 当施設で介護講習の実施やチューター制度による担当職員の直接指導により経験の浅い職員の技術向上に努めている。
- (5) 協力病院である共立歯科や岡田歯科による口腔ケア指導や研修を受けることで介護職員の口腔ケア技術の習得に努めている。

Ⅲ. 法令順守・接遇向上について

利用者に対しての言葉遣いやあだ名での呼称を禁止する事で接遇向上に努めている。身体拘束についての説明を行い、身体拘束が起こらないように努めている。また、軽微な打ち身や剥離等でも事故報告書を提出し、事故防止委員会で検証・対策することで虐待予防に努めている。

職員の健康については腰痛予防ベルトを貸与することで腰痛予防、リフレッシュ休暇をとる事で精神の安定に努めている。昨年は不適切な介助方法で職員が肘を痛めるという労働災害が1件発生したが、介助方法の指導等で再発予防に取り組むことで今年度は見られていない。

Ⅳ. 事業運営について

- (1) 事故検証や介助方法の変更や指導を行うこと、見守り介護ロボットやセンサーマットの活用によりリスクの回避、低減を行うことで転倒・転落事故などの大きな事故は減少している。しかし、事故報告のうち約60%を内出血が占めている為、原因究明に励み事故件数の減少に努めたい。
- (2) 高齢者虐待の未然防止として介助が一人では困難な方については無理せず二人介助を行うことで職員の負担軽減を図ることで肉体や精神的な負担を軽くできるようにしている。介助方法で悩んだ時はユニット会議やリーダー、相談員、施設長が個別相談を受けることにより一人で問題を抱え込まないように支援している。
- (3) ターミナル者7名や入院者2名でなり退所者が8名となっている。そのため稼働率98.6%となり、目標であった稼働率99%を超えることができなかった。
- (4) 協力病院である共立歯科、岡田歯科による訪問歯科診療を受けることで肺炎の予防と、口腔衛生管理加算の算定を行い収入の増加に努めている。
- (5) 昨年度より栄養マネジメント加算が算定できていない状況にあり、減収となっている。
- (6) 人員については昨年末から続く非常勤職員の不足から時間外や派遣社員を使用した人員補充で運営を行っている。派遣職員については1週間~1ヵ月で連絡がつかなくなり契約途中で終了する事が多く、補充要員としての役割が果たせず、約280万円が無駄な出費となっている。職員の負担軽減のためにも常勤職員の増員を検討している。
- (7) 防犯カメラの取替えや追加工事、PHSの修繕、会計ソフトの購入が年度末に重なり目標である収支差額4000万円に達することができなかった。

●平成29年3月末現在介護統計

入浴方法		食事形態	
特殊浴槽	0%	普通食	66%
リフト付個浴	100%	刻み食	0%
個浴	0%	極刻み食	33%
オムツ率	0%	ミキサー食	0%
ターミナル実施率	88%	経管栄養	0%
褥瘡件数	0件	胃瘻	0件
身体拘束	0件	鼻腔	0件

●平均要介護度・平均年齢 (平成29年3月末現在)

平均要介護度	4.50	平均年齢	86.6歳
--------	------	------	-------

●平成28年度収入金額

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H27年度実績	12,244	12,697	12,308	12,755	12,900	12,461	75,365
H28年度目標	12,326	12,710	12,326	12,710	12,710	12,326	75,108
H28年度実績	12,014	12,723	12,520	12,785	12,626	12,427	75,095
前年度との差異	▲199	▲170	76	268	137	117	247
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度実績	13,144	12,403	12,748	12,844	12,052	12,816	151,372
H28年度目標	12,710	12,326	12,710	12,710	11,345	12,710	149,619
H28年度実績	12,831	12,398	12,825	12,770	11,220	13,272	150,411
前年度との差異	▲313	▲5	77	▲74	▲832	456	▲961

1. 平均要介護度

介護度	I	II	III	IV	V	平均
H26年度	0	1	6	12	10	4.1
H27年度	0	1	2	9	17	4.45
H28年度	0	1	3	6	20	4.5

2. 平均年齢

年齢	(人)						(歳)	(歳)
	～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	最高年齢	平均年齢
H26年度	2	2	6	6	6	6	98	87.5
H27年度	2	3	6	3	8	7	99	87.2
H28年度	2	5	4	5	8	5	100	86.6

3. 退所要因

	H26年度	H27年度	H28年度
帰郷退所	0	0	0
他の施設へ移転	0	0	0
医療機関へ入院	0	1	1
無断退所	0	0	0
死亡	12	1	7
その他	0	0	0
計	12	2	8

退所人数

	(人)												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
H26年度	0	2	2	1			3		2		1	1	12
H27年度									1			1	2
H28年度	3			1				1			2	1	8

4. 稼働率（入所状況）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年
月間延べ利用者数（人）	821	890	870	891	875	870	899	863	899	895	775	888	10436	10566
入院・空ベッド数（人）	49	9	0	8	24	0	0	7	0	4	37	11	149	48
一日当たりの利用者数（人）	27.37	28.7	29	28.7	28.2	29	29.0	28.8	29.0	28.9	27.7	28.6	28.6	28.9
稼働率（％）	94.4	99	100	99.1	97.3	100	100	99	100	99	95.4	99.5	98.6	99.5

5. 事故発生状況

入院加療を必要とする事故件数

H26年度・・・1件

H27年度・・・0件

H28年度・・・1件

<事故・ヒアリハット内容別件数>

(件)

	転倒	転落	ずり落ち	誤飲	誤嚥	擦り傷	切り傷	爪剥離	内出血	誤薬	表皮剥離	その他	ヒアリ	計
4月	0	1	1	0	0	0	1	0	27	2	4	1	1	38
5月	0	0	0	1	0	0	0	0	43	0	12	4	5	65
6月	0	7	1	0	3	0	2	1	55	0	10	6	8	93
7月	1	5	2	0	1	0	1	0	37	1	7	9	7	71
8月	2	0	1	0	0	0	1	2	38	0	10	3	2	59
9月	0	0	0	2	0	0	2	1	49	2	2	5	0	63
10月	3	0	0	0	0	0	0	0	17	1	3	6	0	30
11月	0	2	0	0	0	0	1	2	20	1	1	12	6	45
12月	0	0	0	0	1	0	1	0	25	1	2	5	5	40
1月	0	3	0	0	3	0	0	0	23	2	3	3	2	39
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	1	1	1	17
3月	0	2	0	0	0	1	1	0	16	5	3	3	10	41
計	6	20	5	3	8	1	10	6	364	15	58	58	47	601

6. 入退院数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院数(人)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
退院数(人)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2

<疾病別入院件数>

	骨折	肺炎	胸水	心不全	心筋梗塞	胆のう炎	脱水・栄養不全	呼吸不全	腸閉塞	脳内出血	脳梗塞	腎盂腎炎	検査入院	計
4月										1				1
5月														0
6月														0
7月														0
8月	1													1
9月														0
10月														0
11月														0
12月														0
1月											1			1
2月														0
3月														0
計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3

7. 受診件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診(人)	16	9	12	7	9	16	13	17	17	20	16	13	165
往診(人)	124	113	135	121	126	104	122	121	85	103	115	120	1389

8. 看取り介護

平成26年度看取り介護実施人数 . . . 11名

平成27年度看取り介護実施人数 . . . 1名

平成28年度看取り介護実施人数 . . . 7名

9. 資格保持者 (平成29年3月末現在)

介護支援専門員 . . . 2 社会福祉士 . . . 3名

介護福祉士 . . . 9名

※ H28年度資格取得者 [介護支援専門員 . . . 1名 介護福祉士 . . . 1名 社会福祉士 . . . 0名]

※ H29年度受験予定者 [介護支援専門員 . . . 0名 介護福祉士 . . . 2名]

(西川 明茂)

平成 28 年度 デイサービスサンライフ田寺

事業報告書

職員の傷病などにより職員の数が不足しており、一人ひとりに対する負担が増加した。そのため、介護講習や職員の体調管理もしっかりと実施していき、利用人数が増加しても一人一人に応じたサービスを提供できるよう職員の体制を整えていきたい。

I.利用者数・収入の確保

平均利用人数は 27 年度の 26.4 人から 27 人に上昇したが、要支援の事業所評価加算が対象外となったり、要介護 3 以上の利用者の長期入院やロングショート、中止により 27 年度に比べると、約 200 万円の減少となった。

営業については、定期的実施できたが、大きな成果は見られなかった。日曜日の営業や外出だけでなく室内レクや機能訓練、入浴など、介護度の重い利用者も利用できることに目を向けてもらえるようなパンフレットの作成に力を入れていきたい。

II. 人員確保・現職員へ対しての指導・教育

人員の確保は、入浴職員の退職や体調不良が原因で不足し、フロア職員や他部署からの職員によるヘルプを行ったが、時間内に終われないことが多かった。フロアは、常勤職員の長期休暇があり、年度末は職員一人一人の負担が大きくなってしまった。

指導は、職員一人一人の仕事に対する能力に差があり、その差を埋めるように努めたが改善できなかったため、一人一人に対する指導の強化を図っていきたい。また、腰痛予防のためコルセット装着の声掛けやラジオ体操を継続していきたい。

III. 事故・苦情について

事故は、27 年度の 17 件から 28 年度の 6 件と減少したが、入院を伴う事故が 1 件起こってしまった。事故を防ぐために、利用者の状態をリハビリや家庭での様子など観察を深める必要があると考えられる。車両事故は、対車両の事故が 2 件あった。苦情については、利用者に対する声掛けが不適切であると指摘があったため、接遇の指導も実施していきたい。

VI. レクリエーションの充実化について

個別レクリエーションについては、牛乳パックの鉛筆立てや亀のお守りなどの工作に力を入れた。外出レクについては、職員や利用者の負担を減らすために乗車時間を短縮し、桜山公園などの近場で歩行訓練ができるように努めた。ゲームやおやつ作りの集団レクがメインの場合は外出参加が増えるため、集団レクの充実化も図っていく。

28年度 利用人数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	26	27	26	27	26	26	26.3/平均
月合計	657	723	681	668	695	650	4,074
平成28年度実績	27	27	27	26	27	27	26.8/平均
月合計	708	734	684	711	689	697	4,223

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
平成27年度実績	27	28	27	25	26	26	26.4/平均
月合計	745	731	721	625	661	684	8,241
平成28年度実績	26	27	28	28	29	26	27.0/平均
月合計	696	666	746	671	659	671	8,332

28年度収入

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	5,411	6,218	5,913	5,885	5,973	5,554	34,954
平成28年度目標	5,748	5,862	5,687	6,224	6,224	6,374	36,119
平成28年度実績	5,872	5,971	5,562	5,689	5,537	5,653	34,284
前年度との差異	461	-247	-351	-196	-436	99	-670

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	6,300	6,262	6,095	5,329	5,504	5,518	69,962
平成28年度目標	6,867	6,234	6,760	6,269	6,006	6,762	75,017
平成28年度実績	5,652	5,459	6,146	5,523	5,449	5,476	67,989
前年度との差異	-648	-803	51	194	-55	-42	-1,973

(立花 知之)

平成 28 年度 ヘルパーステーションサンライフ御立

事業報告書

I. 人材確保・育成・定着に向けての取り組み

1. サービス提供責任者・訪問介護員のスキルアップについて

・毎月 1 回実施している内部研修もほぼ 100%の出席率で行えている。

参加出来ていない訪問介護員には、期日指定しレポート作成を義務つける事で、研修の重要性を認識して貰うよう努めた。

今年度は新たに個人研修にも力を入れた。苦手分野を克服し利用者様へのサービス向上に繋がりたいとの意欲を感じられる者も多数おり、デイサービスサンライフ田寺に協力を得て、実務研修を実施し、1人ひとり丁寧に向き合った。スキルアップはもとより、ヘルパーステーションの更なるチームワーク強化・介護力の向上を目指し、体制強化に努めた。

・今後、更なる人員不足に頭を抱えながら、重介護度の利用者様へのサービスが増加していくと予想される。質の高いサービスが要求される中、利用者様・家族様のニーズに対応出来るだけの、介護力を事業所全体で身に付けていかなければならない。その為にも、内部研修の充実化・登録ヘルパーの介護力の引き上げに力を注ぎ、より一層の体制強化に努めていきたい。

平成 28 年度 内部研修内容

4 月	老計 10 号 身近な疾患・高血圧
5 月	老計 10 号 サービス中の困難事例
6 月	個別面談
7 月	「希望のスプーン」DVD鑑賞後、レポート提出
8 月	認知症の人への接し方
9 月	自立支援介護
10 月	病気と薬の知識・ヘルパーだから気づく事
11 月	感染症テスト
12 月	個別面談
29 年 1 月	感染症蔓延予防のため中止
2 月	浴室・トイレ介助
3 月	認知症ケア・スクリーニング・ケアシフトの考え方を生かす

2.職場環境について

・サービス提供責任者（常勤職員）のリフレッシュ休暇については、勤務の関係上、連続休暇取得が難しい中、年度初めの目標であった通常休暇と有給休暇とを合わせての、連続休暇取得（通常2日・有給1日）も可能となった。引き続き職員間にて、訪問調整をし、しっかり仕事と家庭との切り替えが出来る様に、努める。

・訪問介護員に関しては、メールや電話・年2回（6・12月）の個別面談にて、いつでもどんな事でも相談できる体制は確立出来つつあると感じた。

ヘルパー1人ひとりと、しっかりと向き合い、小さな事も叱咤激励してきた。

常勤職員・登録ヘルパー更には、ヘルパーステーション全体の相乗効果に繋がるべく、更なる体制強化に努めた。

今年度も、働きやすい・定着しやすい・サービスしやすい職場を全員で作り上げる事に全力で取り組んでいきたい。

Ⅲ. 収入の確保について

・引き続き他職種との信頼関係構築の為にも、時間の許す限り居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの訪問、月1回の報告書提出の際の訪問と、足を運び回数を重ねた。その際に、今月のヘルパー研修の内容・訪問可能時間等の内部の動きを明確にした「ヘルパーステーション通信」の月1回の発行を継続的に行い、事業所の魅力を最大限発信する事に努めた。

・今年度も引き続き、ヘルパーの人員確保（労働力の確保）及び、信頼して貰える事業所への取り組みに更に力を注ぎ、収入確保に繋げていきたい。

●平成28年度の収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	3330	2887	2952	3172	3098	3104	18542
平成28年度目標	3050	3050	3050	3100	3100	3150	18500
平成28年度実績	2891	2947	3223	2817	2898	3142	17918
前年度との差異	-439	60	271	-355	-200	39	-624
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	3295	3125	3180	2927	2986	2999	37054
平成28年度目標	3150	3150	3150	3050	3000	3050	37050
平成28年度実績	2969	2881	2980	2881	2933	2977	35539
前年度との差異	-326	-244	-200	-46	-55	-22	-1517

(藤木 道子)

平成 28 年度 サンライフ御立居宅介護支援事業所

事業報告書

年間目標

人員の増減や管理者の変更に伴い利用者様、家族様に担当変更や引き継ぎ等説明を行い納得していた上で援助進めていき混乱が起きないように努めた。収入に関しては営業活動行っていたが人員増に対して新規獲得数が少なく収入減となってしまった。

I. 特定事業所集中減算の回避

短期入所生活介護において、将来的に特養入所を検討されている方が多く、サンライフ御立、サンライフ土山の利用希望が多かった。その為、短期入所生活介護は 80%を下回る事ができなかった。現在、姫路市監査指導課の指導の元、再度書類作成を行い判定中である。今後は地域の範囲を広げ、ご利用者様、ご家族様の希望に近い事業所を何か所か提案させて頂きショートステイの利用施設を増やすことで特定事業所集中減算の回避行っていくよう努める。またさくら居宅介護支援事業所などと連携をとりながら援助行っていく。平成 30 年 4 月以降は通所介護と地域密着型通所介護と分けて計算するよう変更になる為今後の通所介護利用選択するにあたり特定事業所集中減算に注意が必要である。

II. サービスの質の向上

(1) 他職種、他事業所、地域との連携

他事業所、他職種との連携をとり利用者様、ご家族様が満足して頂けるサービス提供が行えるよう努めた。必要時主治医との連携を図るようにし意見を頂いた上サービスに反映し質の向上に心がけた。地域との関わりで地域包括支援センター等訪問し情報・意見交換を行う機会がなかったので、今後は情報・意見交換をとる機会を増やし地域交流に努める。

(2) 専門知識の向上

兵庫県、姫路市主催の研修、地域が行う研修会等に参加することができ、利用者様が満足して頂けるサービスが提供できるよう努めた。研修に参加できなかった職員にも研修会での内容や情報収集で得た内容、情報について事業所内で共有し事業所全体のサービス向上が図れるよう努めた。

III. 個人情報を含めた情報管理の徹底

マイナンバーが導入され手続き等対応するにあたり直接取扱いをせずに対応することができた。今後もマイナンバーや個人情報の管理を徹底するよう心がける。

IV. 介護予防支援

介護予防支援のプランについては依頼が増えてきており、要介護で担当していた方が要支援になられ引き続き担当をお願いしたいと希望される方が多く委託で担当させて頂くケースが増えた。また、サンライフのサービスを利用されている方の依頼も多かった。今後も担当の地域包括支援センターと連携を取り適切な援助が行えるよう努めていく。

V. 利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
要支援 1.2	H27	17	16	15	17	18	19	19	19	20	20	20	20	229	140%
	H28	19	19	24	25	27	28	26	27	29	31	34	33	322	

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
要介護 1~2	H27	81	89	92	87	92	91	91	93	93	94	92	89	1084	104%
	H28	93	96	95	85	93	91	93	94	97	99	96	101	1133	
要介護 3~5	H27	47	49	49	48	46	42	46	49	49	44	50	46	565	87%
	H28	45	42	43	46	43	42	40	43	41	33	38	36	492	
合計 人数	H27	128	138	141	135	138	136	137	142	142	138	142	135	1652	98%
	H28	138	138	138	131	136	133	133	137	138	132	134	137	1625	

VI. 年間収入

(1) 居宅介護支援費収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H27 年度実績	1,549	1,704	1,690	1,634	1,656	1,624	9,857
H28 年度目標	1,557	1,578	1,579	1,568	1,593	1,613	9,488
H28 年度実績	1,653	1,639	1,642	1,559	1,585	1,590	9,668
前年度との差異	104	-65	-48	-75	-71	-34	-189
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27 年度実績	1,638	1,706	1,698	1,679	1,629	1,614	19,821
H28 年度目標	1,635	1,646	1,659	1,673	1,684	1,683	19,468
H28 年度実績	1,598	1,659	1,660	1,562	1,578	1,613	19,338
前年度との差異	-40	-47	-38	-117	-51	-1	-483

(芦田 紗矢香)

平成28年度 デイサービスサンライフ安室

事業報告書

理学療法士が10月より就業開始となり、利用者様の身体状況の変化や機能訓練の評価をより専門的な目で評価できるようになり、家族様にも好評をいただいている。しかし、サービスの差別化を図るべく、手段的日常生活動作を取り入れたレクリエーションを行うなどしたが、利用者様の個々のADLの違いにより思うように進まなかった。また、新規の利用者様が増えず、収入に関しても大幅な減収となってしまった。

I. 新たな加算の算定

算定要件の確認を行い、要件を満たしている加算の算定を進め、介護福祉士の配置が50%以上という算定要件であるサービス提供体制強化加算（Iイ）の算定を4月から行った。年度途中で、介護福祉士を持つ職員が産休・育休に入ったことに伴ってギリギリとなったが、継続できた。

II. 中重度化の対応

ご利用されている方の身体レベルが中重度化しつつあり、中重度のご利用者様の介助に対応できるよう個々のケースで話し合いの場を設け、介助方法の検討と統一をおこなった。また、日々変化していく利用者様の変化を見逃さないよう職員連絡ノートを活用し、情報を共有化の下に介護事故を防止していくよう努めた。

職員の腰痛も問題として挙げられている現状でコルセットの着用を義務化し、腰痛予防の対策をすすめ、腰痛のある職員はコルセットを着用することが習慣づいてきた。また、職員間で介助をカバーし合うことも意識付けできている。

III. 利用者様サービス向上

変わりゆく利用者様ニーズに応えるため、新たな特色を作りサービスの差別化をはかるべく、手段的日常生活動作（ボタンや衣類の着脱、衣類をハンガーにかける等）を取り入れたレクリエーションを実施し、自宅での生活支援に繋げるよう努めたが、利用者様の個々のADLの違いにより思うように進まなかった。そこで、理学療法士を10月より採用し利用者様の身体状況の変化や機能訓練の評価をより専門的な目で評価できるようになり、家族様にも好評をいただいている。また、個別機能訓練加算Iの算定を平成29年より開始できるよう準備を進めた。

IV. 収入と利用者数の確保

営業活動については、年度後半に総括施設長とともに、居宅介護支援事業所への訪問を行った。また、実績とともにデイ新聞や利用者様の報告書を郵送するなど外に出なくともお知らせできるようなものを作成、実施したが、昨年度に引き続き収入・利用者数共に大幅に減少している。

利用者数 (全体・平均)

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	31.2	32.1	30.5	30.2	30.8	29.3	29.3
月合計(人)	812	833	793	815	800	763	4,816
平成28年度目標	30.3	30.8	30.8	31.0	29.6	31.1	30.6
平成28年度実績	26.6	27.3	27.8	28.7	27.0	27.2	27.4
月合計(人)	692	709	722	745	730	706	4,304
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	30.8	29.6	29.8	29.7	28.6	27.4	27.4
月合計(人)	831	739	805	716	714	741	19,614
平成28年度目標	31.0	31.2	31.9	32.0	31.7	32.0	31.1
平成28年度実績	28.1	27.8	27.0	26.2	27.0	24.4	27.1
月合計(人)	731	722	730	654	647	647	8,435

平成28年度の収入

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	6,307	6,561	6,556	6,712	6,716	6,273	39,125
平成28年度目標	6,598	6,922	6,709	6,692	7,150	6,815	40,886
平成28年度実績	5,685	5,811	6,275	6,043	6,239	5,900	35,953
前年度との差異	▲622	▲750	▲281	▲669	▲477	▲373	▲3,172
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	6,869	6,329	6,419	5,902	5,829	5,981	76,454
平成28年度目標	6,782	7,043	7,514	6,814	6,812	7,713	83,563
平成28年度実績	6,296	6,066	6,079	5,570	5,344	5,499	70,807
前年度との差異	▲573	▲263	▲340	▲332	▲485	▲482	▲5,647

平成28年度 新規利用契約数 (名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	1	2	0	2	2	2	0	1	1	2	3	18

V. その他の報告

1. ボランティア実施状況

大正琴・マジックショー・笠踊り・銭太鼓・日本舞踊・三味線・カラオケ

2. レクリエーション実施状況

	室内レク	外出
4月	外出 工作 ゲーム	: 花見外出 : ペーパー芯の鯉のぼり : 音楽レク、歌パズル

5月	お買い物外出：大黒屋 ゲーム：コップ in ボール、春の大運動会、 子亀の背中に乗せようゲーム おやつ作り：エビせんべい
6月	外出：世界の梅公園（紫陽花見学） 工作：カエルのお庭 ゲーム：今日はデイの日ゲーム、お笑いDVD鑑賞
7月	外出：書写の里美術工芸館、夢乃蕎麦 ゲーム：GO!GO!ビンゴ おやつ作り：豆腐のみたらし団子
8月	工作：ウサギのお月見ストラップ ゲーム：カードでポン、カラオケ大会、音楽レク 安室夏祭りゲーム大会
9月	ゲーム：お化けでGOGOGO!安室敬老会 おやつ作り：冷たいゼリー 工作：写真立て
10月	ゲーム：運動会 お買い物外出：ダイソー・しまむら・ゴダイ薬局 音楽レクリエーション、映画鑑賞
11月	ゲーム：ぴったり当てましようゲーム、脳トレゲーム、イカ 釣り・タコ釣りゲーム 工作：クリスマス用工作 おやつ作り：バナナボール
12月	ゲーム：サイコロサッカー、クリスマス会、忘年会 お買い物外出：鹿が壺
1月	外出：初詣・姫路護国神社 おやつ作り：ネギ焼き 工作：鬼をそろえてキューブ お正月遊び（百人一首、トランプ）
2月	ゲーム：節分ゲーム（リンボー福豆ゲーム）、言葉づくり お買い物外出：播州かりんとう常盤堂 工作：桃の節句工作（花のブローチ） カラオケ大会
3月	ゲーム：ほうきでホイッサッサ、音楽レク、DVD鑑賞 おやつ作り：おはぎ

（ 船木 仁子 ）

平成28年度 姫路市安室地域包括支援センター

事業報告書

姫路市では平成27年度中に新たに認知症担当職員を市内全包括で配置となったが、平成28年度は合計3か月間、職員の体調不良により、認知症担当職員が配置できなかった。また、姫路市で平成29年4月より始まる総合事業について、説明会が開催され、利用者様が混乱のないよう移行できるよう、準備を進めた。

10月より育休職員復帰により体制が整い、認知症担当職員として本格的に活動開始となり、職種が増えることで地域との連携をさらに強化できるよう努めた。

<総合目標>

地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域住民が、共に支える地域づくりの必要性を理解し、主体となって取り組める意欲が持てるよう、各教室や高齢者の集いの場に参加し、啓発活動に努めた。

I. 運営に係る業務

プランナーも含め、職種・分野を問わず研修に参加することで各個人の不足知識を補うことに努めた。また、今年度は地域包括支援センター連絡会主催で、基本を見直す研修も多く、自分の仕事の振り返りが出来た。

II. 総合相談・支援業務

- ・地域支えあい会議は今年度で2回の開催であった。引き続き、必要なケースについて積極的に開催に努め、個別ケースの検討と共に、地域課題の抽出につなげた。
- ・2ヶ月毎に活動報告を作成し、自治会長・老人会長・民生委員児童委員等の訪問継続している。下半期には、民生委員児童委員の改選があり、引き続き連携がとれるよう努めた。
- ・今年度も地域包括支援センターだよりを年4回発行しており、地域への回覧も定着している。

III. 権利擁護業務

- ・認知症カフェについては、昨年度立ち上がった1地区のサロンが今年度も月1回と定期開催できており、開催支援を継続できているが、既存でサロン等活動され

ている地域が多くあり、新たなサロンの開催には至らなかった。

- ・ 消費者被害の研修に参加し、地域住民が集まる場で特殊詐欺についての講義や、地域包括支援センターだよりや活動報告書に掲載し、啓発活動に努めた。
- ・ 通常支援だけでは十分な問題解決ができず、困難な状況にある高齢者に対しては、成年後見制度・高齢者虐待防止・消費者被害防止等に関する諸制度等を活用し、関係機関へつなぎ、円滑な支援を行えるよう努めた。
- ・ 下半期は虐待ケースへの対応回数も多く、対応マニュアルに基づいた対策を行政への通報、協力を仰ぎ連携し、検討した。

【地域の支援困難ケース】

- ・ ネグレクトの虐待疑いのケース

A様 男性 80歳代 要介護2

妻と孫家族の4人暮らし。ケアマネからの相談。状態が悪くなり入院したが、本人拒否で勝手に退院してきた。自宅に帰ってきたが、生活全般に介助が必要な状態。妻は認知症やうつがあり、適切な介護ができず、出来ないことに対して本人が妻にきつく言うので妻が手を上げそうになる。孫は仕事がいそがしくほとんど自宅におらず、介護も生理的に受け付けない。ネグレクトの可能性で話し合いを行い、とりあえず本人は再度入院し、今後は施設入所を検討していくこととなった。入院によりある程度身体状況落ち着き、本人帰宅願望強く、一時帰宅するが、病院に戻る日に本人拒否しそのまま退院となる。施設入所申込み行うが、受け入れが難しいと断られる。孫が精神的に追い詰められ、一時自宅を出て、息子が定期的に見に来ることとなるが、息子の訪問はなし。ケアマネ・地域包括・市が家族に連絡してもなかなかつながらない状態。介護保険で定期巡回型サービス導入し、様子を見つつ、精神の方での受診・入院を勧めていくこととなった。その後、心臓機能の低下が見つかり、精神よりもそちらの受診が最優先となり、そのなか、息子・孫を含めた話し合いで、夫婦二人でハイツに引っ越して生活することとなる。介護保険の利用と孫の毎日の訪問で様子を見ていくこととなった。

IV. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ・ 包括的・継続的ケアマネジメント研修を年4回開催した。第1回目は、8月に『介護支援専門員の倫理について』、第2回目は10月に『警察との連携』、第3回目は12月に『対人援助技術の向上』、第4回目は2月に『民生児童委員との連携について』をテーマに実施した。第3回には介護保険在宅サービス事業所、第4回には例年の恒例となっている民生児童委員との交流の機会を作り、好評を得ており、来年度の継続実施につなげたい。
- ・ 今年度は、上記研修への開催協力を地域の主任介護支援専門員に手上げ方式で依頼し、例年より多い10人もの主任介護支援専門員と協働することができている。
- ・ 今年度も社会福祉士が中心となり、地域のケアマネジャーの協力を得て、新鮮な

社会資源情報を把握、提供できる環境を整えた。

V. 介護予防ケアマネジメント事業

- ・ いきいき百歳体操については、上半期1グループ、下半期にはもう1グループ立ち上がり、現在14グループとなり、残すは1自治体となった。いきいき百歳体操時に、脳トレのプリントを配布したり、時節に応じた注意喚起を行なったりと、認知症予防や介護予防に対する啓発を行った。
- ・ 今年度も安室公民館で「公民館の保健室」を共催している。昨年度は看護師が担当していたが、今年度は、すべての基本職員が参加し、より地域住民に顔の見える関係性作りに努めた。
- ・ 各教室や高齢者の集まりで健康チェックや健康相談を行い、健康促進に努めた。
- ・ 介護支援ボランティア事業（あんしんサポーター）を活用し、いきいき百歳体操会場や認知症サロンで定期的な参加・支援を依頼し、地域の助け合い活動の活性化および社会参加活動を通じた高齢者自身の介護予防を推進した。

VI. 年間活動計画実施状況について

4月	四軒屋ふれあいサロン 安室公民館健康講座「公民館の保健室」 維持期病院間連携会議 いきいき百歳体操確認と指導 オレンジカフェ山田 地域包括支援センター連絡会総会・研修会 田寺山手町ふれあい喫茶
5月	前山ふれあいサロン オレンジカフェ山田 ふれあい祭りプロジェクト会議 田寺山手町ふれあい喫茶 医療生活協同組合西ブロック学習会 いきいき百歳体操確認と指導 安室公民館健康講座「公民館の保健室」
6月	横関ふれあいサロン 御立ふれあいサロン 田寺山手町ふれあい喫茶 いきいき百歳体操確認と指導 社会福祉士連絡会 主任ケアマネ連絡会 認知症担当職員連絡会 保健師等連絡会 事業計画ヒアリング 安室公民館健康講座「公民館の保健室」 第3者評価実地調査 ふれあい祭りプロジェクト会議 オレンジカフェ山田 第6児民協研修会
7月	田寺ふれあいサロン 田寺山手町ふれあい喫茶 維持期病院間連携会議 辻井シニアクラブ祭り オレンジカフェ山田 サンライフ田寺いき百交流会 安室公民館健康講座「公民館の保健室」 ふれあい祭りプロジェクト会議 いきいき百歳体操確認と指導 認知症担当職員連絡会 地域包括・在宅介護支援センター職員研修
8月	安室公民館健康講座「公民館の保健室」 オレンジカフェ山田 地域包括職員基礎研修 いきいき百歳体操確認と指導 ケアマネ研修会 地域包括支援センター向け総合事業説明会 いきいき百歳体操研修会 地域包括職員ケアプラン研修 ふれあい祭リエリア会議
9月	前山ふれあいサロン 御立山田敬老会 前山敬老会 田寺山手町ふれあい喫茶

	<p>いきいき百歳体操確認と指導 出張講座「健康寿命を延ばそう」 保健師連絡会 ふれあい祭りプロジェクト会議 ケアマネジメント力向上会議 安室公民館健康講座「公民館の保健室」 横関ふれあいサロン 地域包括支援センター連絡会研修会 ケアマネジメント力向上会議 姫路市権利擁護フォーラム 研修「特殊詐欺の実態と予防策」 オレンジカフェ山田 シルバーヘルパー研修 田寺山手町ふれあい喫茶 あんしんサポーター養成実習受け入れ 姫路赤十字看護専門学校実習生受け入れ 社会福祉士学生実習受け入れ</p>
10月	<p>いきいき百歳体操確認と指導 地域包括支援センター連絡会研修会 ふれあい喫茶田寺 町別ふれあいの集い（御立・横関・前山） 主任ケママネ連絡会打合せ オレンジカフェ山田 安室公民館健康講座「公民館の保健室」 中部第二ブロックケアマネ研修 保健師等連絡会 社会福祉士等連絡会 維持期病院間連携会議 タウンミーティング 集団指導 介護予防・日常生活支援総合支援説明会 認知症対策の推進における薬剤師との情報交換会 姫路赤十字看護専門学校実習生受け入れ</p>
11月	<p>オレンジカフェ山田 いきいき百歳体操確認と指導 いきいき百歳体操交流会 地域包括支援センターふれあい祭り いきいきサロン御立台 町別ふれあいの集い（田寺） ふれあい喫茶御立 安室校区民生委員研修会 精神障がい者支援者研修会 ふれあい祭リエリア会議 主任ケアマネ連絡会 認知症担当職員連絡会 地域包括支援センター連絡会研修会 総合事業請求説明会 安室公民館健康講座「公民館の保健室」 安室地区3世代交流カラオケ大会 神戸学院大学社会福祉士実習生受け入れ 姫路赤十字看護専門学校実習生受け入れ</p>
12月	<p>オレンジカフェ山田 いきいき百歳体操確認と指導 ふれあい祭り反省会 地域包括支援センター連絡会研修会 安室公民館健康講座「公民館の保健室」 城乾・東光準基幹地域包括支援センター圏域連絡会 ふれあい喫茶前山 地域包括向け総合事業説明会 精神障がい者支援者研修会 社協支部安室・高岡・山陽ブロック会議 中部第二ブロックケアマネ研修 CHIAKI ほおずき辻井運営推進会議 中部第二ブロックケアマネ研修打合せ 姫路医療センター看護学校実習生受け入れ</p>
1月	<p>いきいき百歳体操確認と指導 ふれあい喫茶四軒屋 安室公民館健康講座「公民館の保健室」 主任ケママネ連絡会打合せ 高齢者虐待対応現任者標準研修 地域包括支援センター連絡会研修会 田寺山手町認知症サポーター養成講座 ふれあいの集い（四軒屋）</p>
2月	<p>オレンジカフェ山田 ふれあい喫茶横関 ふれあい喫茶田寺 田寺山手町認知症講座 地域包括支援センター連絡会研修会</p>

	安室公民館健康講座「公民館の保健室」いきいき百歳体操確認と指導 社会福祉士地域資源打合せ 中部第二ブロックケアマネ研修打合せ 社会福祉士等連絡会 ふれあい祭り全体会議 地域包括管理者連絡会 中部第二ブロックケアマネ研修・総合事業説明会 保健師等連絡会
3月	ふれあい喫茶御立 田寺山手町認知症講座 オレンジカフェ山田 総合事業請求説明会 いきいき百歳体操確認と指導 認知症担当職員連絡会 姫路市社会福祉施設協議会研修会 主任ケアマネ連絡会 高次脳機能障害研修 包括的支援事業実施委託契約説明会 安室公民館健康講座「公民館の保健室」

VII. 年間収入について（総収入）

（千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H27年度実績	2,036	2,049	2,033	2,071	2,072	2,088	12,349
H28年度目標	2,497	2,498	2,497	2,498	2,500	2,500	14,990
H28年度実績	2,180	2,571	2,537	2,523	2,184	2,148	14,143
前年度差異	144	522	504	452	112	60	1,794
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度実績	2,114	2,105	2,081	2,121	2,158	2,163	25,091
H28年度目標	2,500	2,499	2,499	2,504	2,502	2,502	29,996
H28年度実績	2,168	2,560	2,518	2,517	2,526	2,541	28,976
前年度差異	54	455	437	396	368	378	3,882

プラン作成件数（自前プラン）

（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H27年度実績	159	160	157	163	166	170	975
H28年度目標	175	176	176	177	178	178	1,060
H28年度実績	193	192	186	183	186	184	1,124
前年度差異	34	32	29	20	20	14	149
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度実績	174	174	170	175	183	185	2,035
H28年度目標	179	180	180	179	179	178	2,135
H28年度実績	185	186	183	182	179	180	1,095
前年度差異	11	12	13	7	-4	-5	183

別表1 介護予防ケアマネジメントに係る活動 (件)

区分	当月リスト 受け取り	訪問/来所	電話対応	その他	新規プラン 作成件数	新規予防 事業	特定高齢者 終了者数	プラン未 作成件数	未対応件 数
4月	1	1	0	0	0	0	1	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	1	1	0	0	0	0	1	0	0
7月	1	1	0	0	0	0	1	0	0
8月	2	2	0	0	0	0	2	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	1	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	1	0	0	0	0	1	0	0
12月	1	1	0	0	0	0	1	0	0
1月	2	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	1	3	0	0	0	0	3	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	10	0	0	0	0	10	0	0

別表2-1 総合相談支援事業の相談者(重複あり) (件)

区分	家族・本人	行政 (市役所)	行政 (警察等)	地域包括支 援センター	ケアマネ ジャー	介護保険 サービス事業者	医療機関	民生委員	地域団体 等	その他
4月	59	1	0	2	7	6	12	0	0	1
5月	108	2	5	0	8	11	6	13	1	1
6月	80	0	0	2	12	2	11	9	2	0
7月	98	2	2	0	8	0	5	9	0	0
8月	70	0	0	0	10	0	2	5	1	0
9月	49	0	1	0	6	3	1	5	0	0
10月	65	1	0	3	11	1	8	2	0	0
11月	59	2	3	0	8	2	11	3	3	4
12月	50	0	2	0	17	0	0	1	5	1
1月	52	0	0	1	10	0	4	5	3	0
2月	85	2	2	1	24	1	11	6	1	0
3月	156	7	1	0	14	5	29	0	3	3
合計	931	17	16	9	135	31	100	58	19	10

別表2-2 相談内容(重複あり) (件)

区分	一般相談			介護保険 制度全般	フォー マルサ ービ ス	インフ ォー マルサ ービ ス	権利擁護関係			その他	ケアマ ネジメ ント支 援
	介護・介護予 防に関する事 件	医療・健 康相談	生活相談				虐待	消費者被 害	成年後見 など		
4月	7	0	68	44	0	3	0	0	0	0	0
5月	6	4	128	72	4	5	4	3	1	0	0
6月	3	6	102	72	0	2	0	0	1	0	1
7月	4	15	116	60	0	1	0	0	4	4	7
8月	0	1	71	47	0	6	0	0	0	4	14
9月	3	8	53	27	2	3	1	0	0	0	3
10月	16	10	58	56	15	14	0	0	0	0	2
11月	20	16	62	87	1	3	4	0	6	0	8
12月	24	12	70	46	1	4	9	0	6	0	14
1月	18	6	64	42	7	8	14	0	0	0	10
2月	25	25	108	84	6	7	2	0	6	0	3
3月	18	15	125	121	14	28	18	2	4	0	6
合計	144	118	1,025	758	50	84	52	5	28	8	68

別表3 他機関連絡先

(件)

区分	行政機関		包括センター	ケアマネジャー	介護保険サービス事業者	医療機関	民生委員	その他関係機関	地域団体等
	市役所	警察等							
4月	2	0	0	7	6	1	0	0	0
5月	18	0	3	8	18	2	0	0	1
6月	3	0	0	12	16	4	0	0	0
7月	14	0	0	8	19	2	0	0	0
8月	3	0	15	10	3	2	0	4	0
9月	1	0	3	6	4	0	2	0	0
10月	2	0	0	7	12	0	0	3	0
11月	2	0	0	17	26	0	0	0	0
12月	20	0	1	4	14	3	3	0	0
1月	19	0	1	8	4	0	0	0	0
2月	23	0	0	26	15	11	0	7	0
3月	16	0	0	32	42	18	2	12	0
合計	123	0	23	145	179	43	7	26	1

別表4 介護予防支援状況(自前プラン)

(介護予防支援委託プラン) (件)

区分	作成件数	うち新規	要介護移行	自立移行	介護予防支援費請求額(千円)	委託件数	うち新規	要介護移行	自立移行
4月	193	5	1	0	1,103	54	1	1	0
5月	192	6	1	0	1,104	54	2	1	0
6月	186	3	2	0	1,091	57	5	3	0
7月	183	3	2	0	1,069	57	2	0	0
8月	186	10	6	0	1,174	67	11	0	0
9月	184	3	3	0	1,123	69	1	1	0
10月	185	5	1	0	1,111	64	1	0	0
11月	186	6	4	0	1,150	69	4	2	0
12月	183	2	1	0	1,133	71	4	1	0
1月	182	1	1	0	1,120	70	2	0	0
2月	179	5	4	0	1,150	76	5	3	0
3月	180	4	1	0	1,145	76	3	2	0
合計	2,219	53	27	0	13,473	784	41	14	0

(吉田 みはる)

平成 28 年度 特別養護老人ホームサンライフ土山

事業報告書

今年度は、職員一人一人のモラル・待遇強化、介護技術の向上を図りスキルアップ・コミュニケーション能力の向上を図ることを目標に取り組んできたが、職員毎の資質や実力の差が激しく、長期的に研修や指導している必要があると感じた。

前年度の利用者実績は 24,842 人で今年度は 24,801 人で 41 人減となり、稼働率が 97.8%となっているが、収入増となったのは、日常生活継続支援加算、口腔衛生管理体制加算、口腔衛生管理加算の加算算定により、前年度より収入を増やすことが出来た。ただ支出面において、派遣採用による人件費が倍増しており、収支を圧迫する恐れや、モチベーションの低下が危惧されるため、直接雇用を図っていく必要がある。

I. 利用者様一人一人の把握と他職種連携強化

利用者様が入居して年数が経過し、平均要介護度 4（H27.3 末）から平均要介護度 4.23（H29.3 末）と重度化し、今年度の看取り介護実施は、6 件であった。チームケアの強化を図り情報を共有することで、他職種と連携しチームケアを図ることが出来た。看取り時や体調変化時は、家族様に来園して頂き、入所時からの意向の確認や今後の方針について再度確認を行い、利用者様・家族様の意向に添ったケアを行うことが出来た。また、緊急時は介護職員・看護師・管理栄養士・相談員にて担当者会議を行った。

各種委員会においては、リスク委員会や褥瘡委員会・看取り委員会においては 3 カ月に 1 回開催するとともに緊急時や入院を要する事故、褥瘡発生時には、2・3 日以内に話し合いの機会を持ち、そのままとならないよう緊急の対策を図った。

ご家族様においても事後の報告やサービス担当者会議の開催に参加して頂き、意向確認や身体状況の把握・説明を行うために参加して頂いた。

II. 個別ケアの充実

- ① QC サークルで事故の減少をテーマに活動した。そのことで、食事時は必ず見守りすることが定着した。
- ② 昨年度 QC 活動（失禁率を減らす）を継続し、都度のパットの見直しやトイレ誘導時間を見直し、失禁の減少に取り組んでいる。
- ③ 月 4 回の歯科衛生士による口腔ケア希望者は受けており、食事前に介護職員による口腔体操を実施し、口腔機能の維持を図った。できる限り最期まで口から食べていただけるように努め、ご家族様と協力し、本人様の好きな物を持って来て頂き、経口摂取の維持に努めた。

- ④ 機能訓練指導員と現場の職員で ADL の評価を行い、個人に合った生活リハビリを実施した。決まった方ばかりがリハビリを受ける傾向にあったため、全利用者が平等に受けることが出来るよう、リハビリ表をユニット毎に作成した。

Ⅲ. 職員の介護力・資質の向上

3月末の人員配置が1:1.66(3月末)で、職員の定着が難しい状況である。不足は派遣職員で補っている為、職員の意識付け(高齢者介護に携わる意識付け)が低い職員や、独り立ちになる際に、退職するケースが見られた。

人員に余裕がない月もあり、研修が実施出来た時と出来なかった時があった。資質の向上として、ユニットリーダー対象とした研修において、月1回実施しミニテストの実施を行い、介護保険制度、加算・人員基準等の知識向上を図ったが、全リーダーが研修に参加する事が難しい月もあった。新入職員介護技術の研修を月1回予定していたが、実施できない月もあった。しかし、介護技術のテストを行い、介護技術の向上を図った。また、接遇委員会を立ち上げ、モラルや接遇・コミュニケーション能力の強化を図った。

Ⅳ. 地域との交流

特養へのボランティアの受け入れ人数が少なく、デイサービスに来られた際に特養も一緒に参加させてもらっている。9月には敬老会を開催でき、家族・自治会長や民生委員にも参加してもらうことが出来た。また、兵庫県福祉事業協会から委託の介護技術講習会を上半期・下半期共に実施した。地域の清掃業時には必ず参加し、施設周辺の溝掃除や草引きを行った。

Ⅴ. 利用者数 収入計画

昨年度の利用者実績は24,842人で今年度は24,801人に減少し、41人減となっており稼働率が97.8%となっている。入院者が出たら、ショートと連携して空床ベッド利用を図った。

人件費について、昨年人件費率は57.7%、今年度は59.1%でほぼ変わらないが、派遣職員の給与が¥27,750,143増加した。(H26年度¥33,482,440 H27年度¥61,232,583)派遣から直接雇用に変更し、新たな非常勤職員を雇用し人件費軽減を図りたい。

【特養】

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
平成27年度実績	26,211	28,564	28,134	28,019	29,627	27,832	168,387
平成28年度目標	26,294	27,171	26,312	27,171	27,179	26,314	160,441
平成28年度実績	28,032	29,085	27,795	28,471	28,143	28,581	170,107
前年度との差異	1,821	521	-339	452	-1484	749	1720
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	29,168	28,143	28,622	28,661	27,000	28,672	338,851
平成28年度目標	29,430	28,209	28,785	28,850	26,725	28,783	340,359
平成28年度実績	29,711	28,108	28,598	29,559	25,862	30,522	342,467
前年度との差異	543	-35	-24	898	-1,138	1,850	3,616

介護状況

項目		平成28年3月末状況 入所者70名 平均要介護度4.17	平成29年3月末状況 入所者70名 平均要介護度4.23
日中オムツ使用率		6名 9%	6名 9%
入浴統計	特浴	6名 9%	8名 11%
	リフト付き個別浴	58名 85%	60名 86%
	個別浴	4名 6%	2名 3%
食事形態	普通食	28名 40%	22名 31%
	刻み食	21名 31%	20名 29%
	極刻み食	14名 21%	22名 31%
	ミキサー食	6名 9%	5名 7%
	経管栄養	0名 0%	1名 1%
褥瘡者		0名	1名
身体拘束		1名	1名
看取り介護実施※		4名 75%	6名 84%

※看取り介護実施率＝看取り介護実施者/全退所(急死除く)

平成 28 年度 特養研修計画と実施

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
介護職員対象	記録について	服薬介助について	口腔ケアについて	認知症について	認知症の方の対応	リハビリについて
実施日	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施
医療研修	バイタルサインについて	基礎的疾患について対応	急変時の対応	感染症について	肺炎予防について	褥瘡予防について
実施日	4/28	未実施	9/1	未実施	未実施	未実施
介護講習	車椅子について	移乗について(車椅子→ベット)	認知症対応について	移乗について(ベット→車椅子)	聴覚・視覚障害について	排泄について
実施日	4/19.22	5/13.27	6/22.27	中止	8/18.23	中止
ユニットリーダー対象	ユニット・従来特養の違い	人員配置についての理解	収支についての理解	契約(特養)についての理解	契約(ショート)理解	サービスについての理解
実施日	4/27	7/14	6/16	7/14	8/2	9/8
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
介護職員対象	体位交換、ギャッチアップについて	緊急時の対応	虐待防止について	ターミナルケアについて	電話対応について	ユニットケアについて
実施日	未実施	未実施	12/12	未実施	未実施	未実施
医療研修	誤嚥・窒息について	尿路観戦について	吐血・下血について	意識障害について	麻痺症状について	胸痛・呼吸困難について
実施日	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施
介護講習	盲者・聾者について	移乗介助について	着脱介助について	座位について	事例問題テスト	事例問題テスト
実施日	中止	11/1-9	11/30-12/7	中止	中止	中止
ユニットリーダー対象	認定調査について理解	入所基準について理解	ケアプランについて理解	機能訓練について理解	デイサービスの理解	見学対応実践
実施日	10/13	11/10	12/8	中止	2/9	3/9

(山岡 俊明)

平成 28 年度サンライフ土山ショートステイ

事業報告書

今年度は4月の相談員の異動をはじめとして、1名の正社員の特養への異動、1名の非常勤職員のショートへの異動、1名の派遣社員の雇用があった。新しく異動してきた方や雇用した方に対し、業務をしっかりと教える時間を取り、現場に混乱が起きないように努めた。利用人数に関しては、ケアマネに営業し空床が出ないように努め、また特養と連携し入院ベッドを使用したことで、利用人数の増加に繋げることが出来た。

I. 活力ある職場創りについて

①職員の人材育成

介護講習や、施設内内部研修を受けることによって介護技術力・介護知識・マナー等の向上を行った。人員の不足などもあり、すべて出席というわけにはいかなかったが、出来る限り勤務内で参加できるように勤務の調整を行った。新規職員に関しては出来るだけ同じ職員と一緒に業務に入りマンツーマンで教えることが出来るよう勤務を組み、指導を行った。特にショートステイでは利用者が日によって入れ替わるので、薬の服薬マニュアルを徹底させ、誤薬がないように努めた。職員の言葉づかいについては、定期的に来てくださる利用者様に対し、くだけた口調になってきてしまっていることが多いため、気を引き締めるよう指導していく必要がある。

②利用者様の情報共有

積極的に利用者様とコミュニケーションを取り、信頼関係の構築や健康状態の気付き、また知り得た情報を職員間で共有できるよう班内連絡ノートへの記入を行った。特定の職員しか書き込みしない状況であるため、皆が気付いたことを書き込み情報共有できるようあらためて指導する必要がある。

③活力ある職場

上半期にリフレッシュ休暇を取れていなかったが、下半期には全員がリフレッシュ休暇を取ることが出来た。下半期に休暇が重なってしまい勤務を組むことがむずかしくなってしまった為、来年度はバランスよく休暇を取っていくように指導する必要がある。月に1回のユニット会議で、利用者の情報の共有や、介助の方法の検討や変更を行っていたが下半期は職員の異動などがあり開催できない月があった。情報の交換ができる重要な場である為、来年はしっかりと毎月開催できるようにしていく。

II. 個別サービスについて

上半期同様、レクリエーションがマンネリ化してしまい、一人一人に合った個別的なレクリエーションを行うことが出来なかった。上半期開催出来ていた手作りおやつも下半期では回数が減ってしまった。職員が忙しい時は歌謡曲などのDVD鑑賞になってし

まっていることが多いため、塗り絵や計算問題、数独などの個人で出来るレクリエーションを充実させ、職員が忙しい時でも退屈しないようなサービスを提供していきたい。

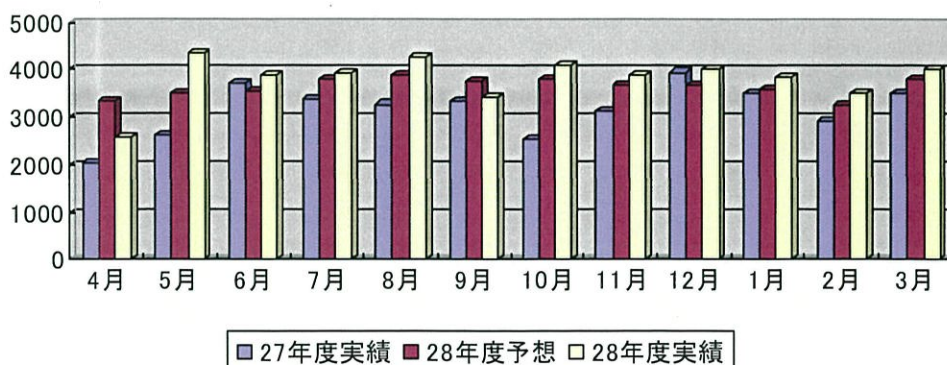
Ⅲ. 収入・利用者様の確保

4月はロング利用者が1～2名しかおらず、稼働率66%と10床のうち5床空いてしまっているような日も多く続いたが、営業活動を行い、ロングショート利用者を7名確保することにより、5月以降は安定して利用人数を確保できるようになり、最終的に月平均稼働率を96.9%まで上げることが出来た。サンライフの居宅はもちろん、他事業所のケアマネとの連携を密にすることにより、新規利用者や定期利用者の獲得が出来たこと、施設長や特養相談員、医務と連携をとり次の利用予定者を事前に探すことにより、特養移行の際ベッドが長期間空かないように努めたこと、また、特養に入院ベッドが出た時に、入院ベッドを積極的に使用することが出来たことが、利用人数の増加に繋がった。利用人数はH27年度2,967人に対しH28年度は3,538人と571人の増加。宿泊人数はH27年度2,643人に対しH28年度3,223人と580人の増加となっている。平均利用人数もH27年度は1日あたり8.08人だったが、H28年度は1日あたり9.68人と、1日あたり1.6人増加している。それに伴い、収入がH27年度に比べ781万7千円の増加となった。来年度も営業活動に力を入れ、利用者数の増加に努めるとともに、利用者満足にも力を入れリピータの増加を目指す。

●平成27年度・平成28年度 収入

(千円)

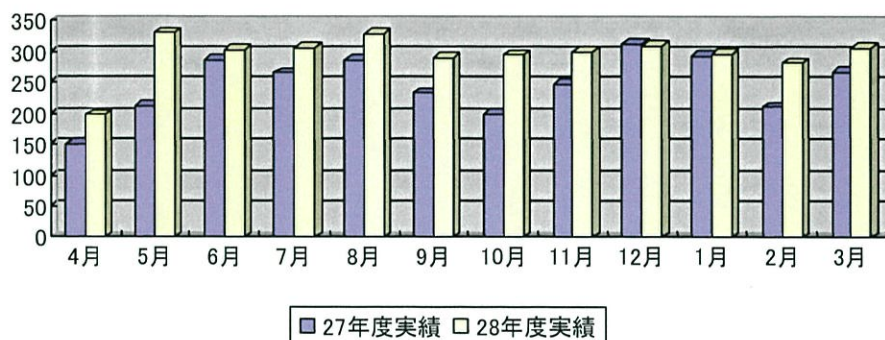
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
27年度実績	2,049	2,639	3,725	3,401	3,280	3,349	18,443
28年度目標	3,356	3,508	3,553	3,793	3,875	3,751	21,836
28年度実績	2,582	4,354	3,896	3,947	4,265	3,422	22,466
前年との差異	533	1,715	171	546	985	73	4,023
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度実績	2,527	3,148	3,950	3,513	2,915	3,501	37,997
28年度目標	3,793	3,672	3,671	3,589	3,242	3,793	43,596
28年度実績	4,098	3,889	4,019	3,836	3,503	4,003	45,814
前年との差異	1,571	741	69	323	588	502	7,817



●平成 27 年度・平成 28 年度 利用人数

(人)

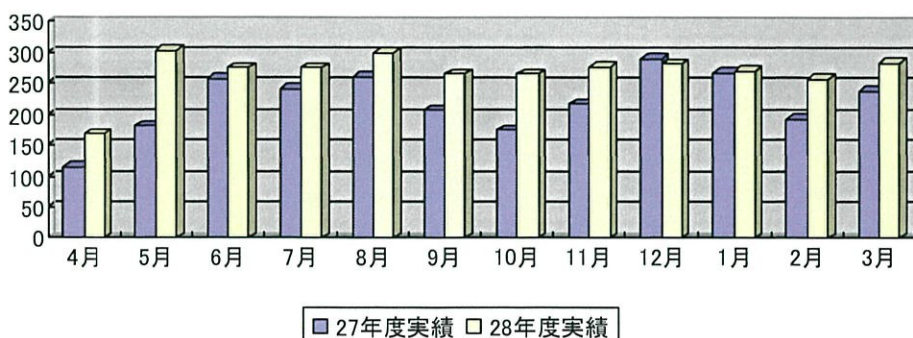
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
27 年度実績	151	213	287	265	287	233	1,436
28 年度実績	198	330	303	306	328	289	1,754
前年との差異	47	117	16	41	41	56	318
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27 年度実績	199	248	313	293	211	267	2,967
28 年度実績	294	299	309	296	281	305	3,538
前年との差異	95	51	-4	3	70	38	571



●平成 27 年度・平成 28 年度 宿泊人数

(人)

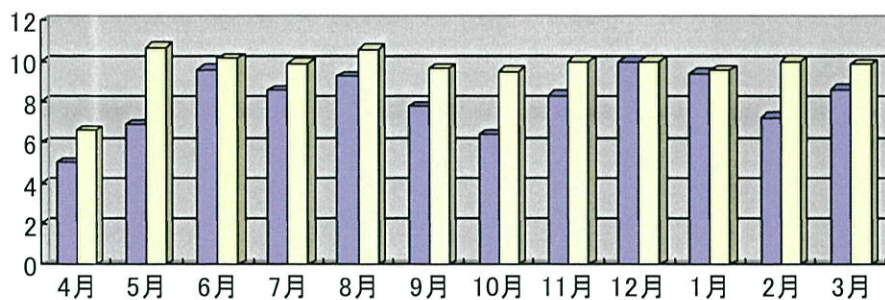
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
27 年度実績	116	181	257	242	260	207	1,263
28 年度実績	169	303	275	275	299	265	1,586
前年との差異	53	122	18	33	39	58	323
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27 年度実績	175	217	289	268	192	239	2,643
28 年度実績	265	277	282	271	258	284	3,223
前年との差異	90	60	-7	3	66	45	580



●平成 27 年度・平成 28 年度 月ごとの平均利用人数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
平均利用人数(27年)	5.03	6.87	9.56	8.54	9.25	7.76	
平均利用人数(28年)	6.6	10.64	10.1	9.87	10.58	9.63	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均利用人数(27年)	6.4	8.3	10	9.4	7.2	8.61	8.08
平均利用人数(28年)	9.48	9.96	9.96	9.54	10	9.83	9.68

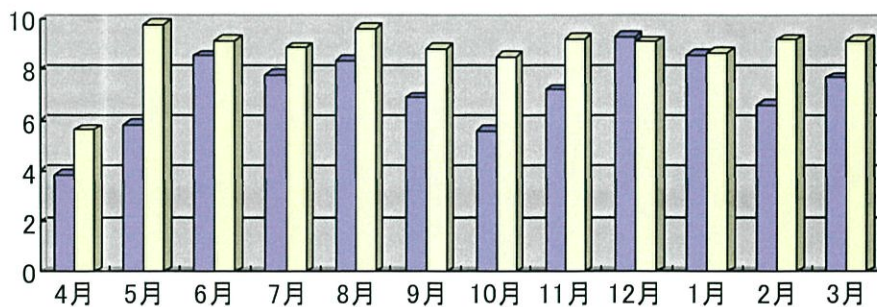


■ 27年度実績 □ 28年度実績

●平成 27 年度・平成 28 年度 月ごとの平均宿泊人数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
平均宿泊人数(27年)	3.86	5.83	8.56	7.8	8.38	6.9	
平均宿泊人数(28年)	5.63	9.77	9.16	8.87	9.64	8.83	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均宿泊人数(27年)	5.6	7.2	9.3	8.6	6.6	7.7	7.19
平均宿泊人数(28年)	8.54	9.23	9.1	8.7	9.2	9.16	8.82

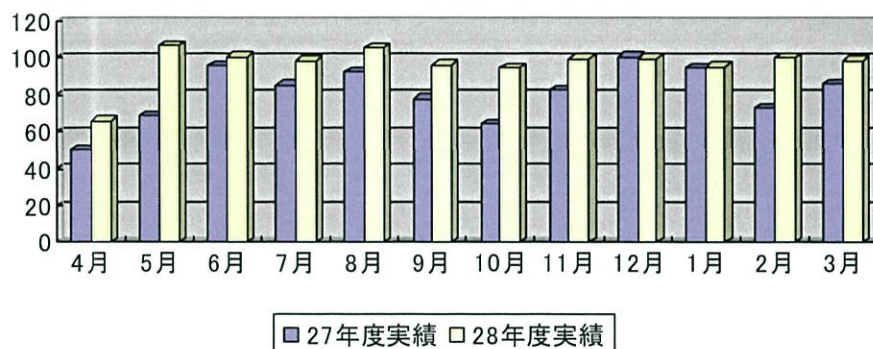


■ 27年度実績 □ 28年度実績

●平成27年度・平成28年度 月ごとの稼働率

(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
稼働率(27年)	50.3	68.7	95.7	85.5	92.6	77.7	
稼働率(28年)	66	106.5	101	98.7	105.8	96.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(27年)	64.2	82.7	101	94.5	72.8	86.1	81.0
稼働率(28年)	94.8	99.7	99.7	95.5	100.4	98.4	96.9



●平成27年度 事故件数

●平成28年度 事故件数

A：入院加療を要する事故

B：痛み・外傷を伴う事故（受診・通院を要する事故）

C：痛み・外傷を伴わない事故

	A	B	C	合計		A	B	C	合計
4月	0	0	1	1	4月	0	0	0	0
5月	0	0	2	2	5月	0	0	3	3
6月	0	0	3	3	6月	0	0	3	3
7月	0	0	4	4	7月	0	0	2	2
8月	0	0	4	4	8月	0	0	2	2
9月	0	0	1	1	9月	0	0	4	4
10月	0	0	2	2	10月	0	0	1	1
11月	0	0	4	4	11月	0	0	6	6
12月	0	0	6	6	12月	0	1	1	2
1月	1	0	2	3	1月	0	1	4	5
2月	0	0	0	0	2月	0	0	0	0
3月	0	0	2	2	3月	0	0	4	4
計	1	0	31	32	計	0	2	30	32

(中野 雄介)

平成 28 年度特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

事業報告書

平成 28 年度サンライフ土山は、「チームケア」を重点項目として取り組んだ。前年度の平均要介護度 4.11 に比べ利用者の平均要介護度 4.23 と高く、利用者の高齢化、重度化している状況の中、看護師においては、疾病の悪化による受診や入院回避にむけて、「チームケア」即ち他職種と協働、連携に努め、利用者様が安全で快適な生活ができるよう支援していった。当初の事業計画の大半は達成する事が出来た。

I. チームケアをもって支援する。

- ① 利用者とかかわるすべての方々（医師、歯科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護士、ケアマネ、ボランティアの方々等）と連携に努め支援していった。
- ② 退院後、10 名の利用者様に状態に応じて食事形態を評価し、常食に向けた取り組みを行った。2 名はミキサー食から常食へ 4 名はミキサー食からキザミ食、極キザミ食へ UP できた。2 名はミキサー食のままと評価した。1 名はキザミ食からごくキザミ食に、1 名は極キザミ食からミキサー食に下げた。
- ③ スケールⅡの褥瘡持ち込み 1 名の利用者に対して、褥瘡ケアシートを作成し、継続して褥瘡ケアを行い完治させた。
- ④ 上野歯科の協力を得、利用者の口腔内を清浄に保つことができている。歯科医師、歯科衛生士より月 1 回指導を受け、口腔ケアに努めた。
- ⑤ 週に 1 度のおくのクリニックの往診にて、認知症の対応など指導を受けた。心療内科への受診がなくなり業務の効率化が図れた。現在、17 名の方が往診している。
- ⑥ 生活リハビリを中心に実施。他職種と連携し身体評価、リハビリ評価を行い自立支援に努めた。
- ⑦ 週に 1 度の往診や電話連絡を通して協力病院と連絡をとり、必要時は検査等を実施しながら、利用者の健康管理に努めることができた。

II. 看護師間の意志の統一化を図る（倫理観、死生観、価値観）

- ① 月 1 回の介護看護合同会議で意見交換の場を設け、利用者様の情報交換を行ったり、医務に対する要望や意見を聞き、改善を図るようにした。
- ③ 月 1 回、施設長交えて医務室会議を開催し、医務の問題点や課題を検討し、改善を図った。看護師間で情報の共有化を図り、利用者様の情報交換を行ったり、記

録の合理化を検討した。

- ③ 受診は看護師の人数が少なくなると受診に行っている間が手薄となる。状況によっては家族様に受診付き添いの理解協力を得られるよう施設の受診に関する取り決めを話し合った。受診せずに嘱託医に直接電話にて指示を受ける時もあり、受診数は少なくなっている。
- ④ 入所に関しては、必要時事前訪問を施設長、相談員と共に行なった。各面接を行い医務室間で入所前検討をし、常時3名以上の次期入所者を確保している。
- ⑤ 年間稼働率目標 98%に対し、H.28 年度、総延べ入院日数 546 日にて稼働率 97.8% 入院疾患の多くが、肺炎であった。
- ⑥ H.28 年度のターミナルケアでの看取りは 6 名であった。意向確認書では、最期まで施設で過ごさせたいと考えておられる家族様がほとんどである。施設の看取りの指針に基づき、看取り期を判断し、嘱託医、家族様、看護師、介護職と話し合いながら、入居者様の尊厳を重視した看取りを実施した。今後も看取りケアに力を入れることが大切と感じている。

Ⅲ.業務の簡素化、効率化を図る

- ① 業務の効率化、簡素化に関しては、記録等大きな改善には至らなかった。今後、医務室が意志の統一を図り、チームワークの強化に繋がるよう取り組んでいく課題がある。

Ⅳ.面談にて意向を重視する

家族様に入居者の現状、施設で可能な対応の範囲、今後起こりうること、入院によるメリット、デメリット等の説明し、本人および家族様の意向を重んじ対応していった。

v.職員の知識・技術の向上

- ① 「人材育成」に力を入れ取り組んでいますが、施設内研修は2回となったが、介護職と共に入居者様の介助にあたり業務を遂行しケアの質の向上に努めた。
- ② ケアの向上により褥瘡は0であるが、車椅子からの転倒による骨折が2件あった。ご自分で移動される方ではあるが、事故後緊急に会議を行い、退院後家族様交えて話し合いをもち今後の対応に努めた。
- ③ リスクマネジメントに努め、誤薬等の事故のないように努めた。引き続き与薬時は丁寧に確認していく必要があることを徹底する。
- ④ 各委員会を定期的で開催し、施設全体の健康を守るよう努めた。
- ⑤ インフルエンザに職員7名、入居者8名罹患した。平成29年度は、発症しないよう

予防に努めたい。感染症委員会やチームケアを強化し取り組んでいきたい。

特養入院数 のべ日数

H28、4月	3名	53日
5月	6名	57日
6月	8名	53日
7月	11名	109日
8月	6名	95日
9月	4名	34日
10月	0名	13日
11月	1名	19日
12月	4名	56名
H29.1月	0名	22名
2月	2名	23名
3月	0名	12名

(磯部 嘉代)

平成 28 年度 特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

事業報告書

平成 28 年度は、退職や長期欠勤もなく人員的に安定していた。

味付けにおいては非常勤職員とも話し合いながら、少しずつ調味料の分量を変更し、味付けを決めていった。また、高野豆腐は誤嚥が 2 件続いたことから提供を中止した。

I 味の一定化

厨房で働かされている職員の中にも料理が上手な職員とそうでない職員、調味料をしつかり量っている職員とそうでない職員がいるため、味のバラつきが生じる要因となっていた。現在は、副食については計量することで大きなバラつきは以前に比べ少なくなった。しかし、季節に数回しか出ない献立（松茸ご飯やおでん等）については、味が決まらないまま終わってしまうことがあった。レシピ(調味料の分量)については、厨房内で話し合いながら、少しずつ修正していつている。

また、高野豆腐についてはデイサービスと特養で誤嚥があり、食べにくい食材でもあることから提供を中止した。

II 人材育成

前年度は、急な欠勤や長期欠勤等で人数がそろわないことが多く、不安定な状態で厨房を回していたが、平成 28 年度は退職や長期欠勤等なく落ち着いていた。また、前年度までは 7D 勤務(1 日通し勤務)ができる職員が 2 名しかおらず、限られた職員に負担がかかってしまっていたが、もう 2 名 7D 勤務ができるようになった。メニューや一緒に働くメンバーを考慮する必要があるが、負担を分散することはできているように思う。同じ時期に入職した職員の能力差が大きくなってきており、底上げを図るのか、割り切って仕事を割り振るのか課題であったが、年齢的なこともあり底上げを図るより仕事を固定して確実に行ってもらうことに決めた。

III 衛生管理

経験の浅い職員を中心に衛生管理が徹底できていない現状があった。ボールや包丁・まな板は、使用用途により色分けしており、一目で分かるよう表を掲示している。表を確認後使用することで、使い分けができるようになった。しかし、手袋のまま他の物は触らない、という基本的なことがなかなか定着しなかった。その都度注意していく必要がある。今後も食中毒が発生しないよう衛生管理を徹底していきたい。

(毛利 恵子)

平成28年度 デイサービスサンライフ土山

事業報告書

今年度は、業務の効率化と利用者様の満足度の向上を図る為に、毎日の朝礼や反省会を通し、職員間で情報共有を行い、利用者様個々のニーズや心身状況を把握することに努めた。サービス面では、選択レクリエーションのレパートリーの増加、ボランティアさんの受け入れを行い、サービスの質の向上に努めた。収入面では、月の平均利用者人数の増加に伴い、収入増を得ることが出来た。

I. 利用者様の個々のニーズや心身状況の把握

利用者様の個々のニーズや心身状態を把握し、利用者様の満足度の向上を図る為、毎日朝礼や反省会にて、10分程の申し送りをし、職員間での情報共有及び更新を行った。選択レクリエーションでは、体操レクや外出レクに加え、キーボードの生演奏による音楽レクや工作、手芸、陶芸等、レパートリーの増加に努めた。また、ボランティアさんの受け入れを積極的に行い、利用者様の満足度アップに繋げることが出来た。

II. 業務の簡素化

利用者様と向き合う時間を大切にするため、業務の簡素化、効率化に努めた。連絡帳やケース記録等、記録方法の見直しを行い、記録の簡素化を図った。連絡帳記入については、バイタル、入浴の有無等を記入し、特記としてその日の利用者様の状態を記録する。ケース記録については、平易な表現を用い、利用者様の変化や事実のみを書き、記録の簡素化に努めた。報告業務に関しては、全て口頭で報告することは、時に非効率的であり、伝達ミスも起こりうる為、職員連絡ノートやホワイトボードを活用することにより、職員全員への周知徹底を行い、口頭での報告の簡素化を行った。

III. 職員の資質向上

利用者様のADLの把握や情報の共有を徹底する為に、日々の業務課題や反省点等、介護・看護職員間の話し合いの時間を毎日夕方の反省会で確保した。また、職員連絡ノートを通し、決定・連絡事項の周知・徹底を図った。それにより情報の共有を図ることは出来ているが、ケアの統一が出来ていない現状がある。また、職員の介護技術不足からの転倒事故が2件あった為、再度介護技術の向上を図っていく。

IV.マニュアルの整備

効率的・効果的に業務を行う為、また、職員の資質向上を図る為、マニュアルの再確認・再整備を行った。緊急時の対応マニュアル、感染症マニュアル、不審者対応マニュアルの作成を行い、書面のみで終わるのではなく、実践した。職員が慌てず行動できるよう、食堂・機能訓練室・静養室・浴室にマニュアルを配置した。また、不審者対応については、催涙スプレー、防犯ブザーを設置した。改善点は多々あるが、職員に危機意識を持ってもらうことが出来た。

V.新たなサービスへの取り組み

昨年度に引き続き、口腔ケアに力を入れていくことを目標に、まず、食後の歯磨きや緑茶うがいを実施し、口腔ケアの向上に努めた。また、口腔ケア研修に参加し、義歯の取り扱い方法やブラッシングの仕方を学ぶことが出来た。歯ブラシの持ち込み、備品の購入を検討し、本格的な口腔ケアにあたっていきたい。また、ノルディックウォーク定着の為、他事業所リハビリデイサービスに見学に行き、歩く以外のノルディックの幅広い活用方法を学ぶことが出来た。選択レクの一つとして実施し、家族様、利用者様からの希望が増えてきている。

VI.収入と利用者数の確保

サンライフ土山の特養・ショートステイとの連携を活かし、利用者様の確保を図った。また、新しい居宅介護支援事業所への営業活動を行うとともに、利用者様、家族様との信頼関係を築き、利用日数増に繋げることが出来た。その結果、月の利用者様平均が、27年度3月22.2人であったのに対し、今年度は27.4人と増加することができ、収入増を得ることが出来た。引き続き、選択性のサービスの充実を図り、利用者様が、自主的・意欲的に様々な活動に取り組めるような個別ケアの実現・質の高いサービスを提供する。それにより、利用者様・家族様の満足度をアップさせると共に、営業を通し、新規利用者数増加に力を入れ、収入増に繋げていく。課題として、支出面において、高熱水費等の見直しをし、節約による支出防止に努めていく必要があった。

デイサービス研修報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護職員対象	移乗介助について	記録について	口腔ケアについて	認知症について	認知症の方の対応	リハビリについて
担当・実施回数	高見・井神 月1回	高見・井神 月1回	高見・井神 月1回	古幸看護師 月1回	古幸看護師 月1回	高見・井神 月1回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護職員対象	接遇マナーについて	緊急時の対応	虐待防止について	排泄介助について	車両操作について	食事介助について
担当・実施回数	高見・井神 月1回	古幸看護師 月1回	山岡 月1回	高見・井神 月1回	高見・井神 月1回	高見・井神 月1回

平成28年度利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	18.9	20.3	22.2	23.5	22.8	24.1	21.9/月平均
月合計(人)	491	528	578	610	592	626	3,425
平成28年度目標	23.0	23.6	24.2	24.8	25.4	26.0	24.5/月平均
月合計(人)	598	614	629	645	686	676	3,848
平成28年度実績	24.1	25.2	24.9	26.8	27.3	27.4	26.0/月平均
月合計(人)	627	656	648	697	736	713	4,077

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	22.6	22.5	22.2	21.5	22.9	23.3	22.2/月平均
月合計(人)	609	562	599	515	558	618	6,886
平成28年度目標	26.6	27.2	27.8	28.4	29.0	29.6	26.3/月平均
月合計(人)	692	707	751	710	696	799	8,203
平成28年度実績	27.4	27.9	27.7	28.7	30.2	30.8	27.4/月平均
月合計(人)	711	725	748	717	725	831	8,534

平成28年度収入

(単位：千円)

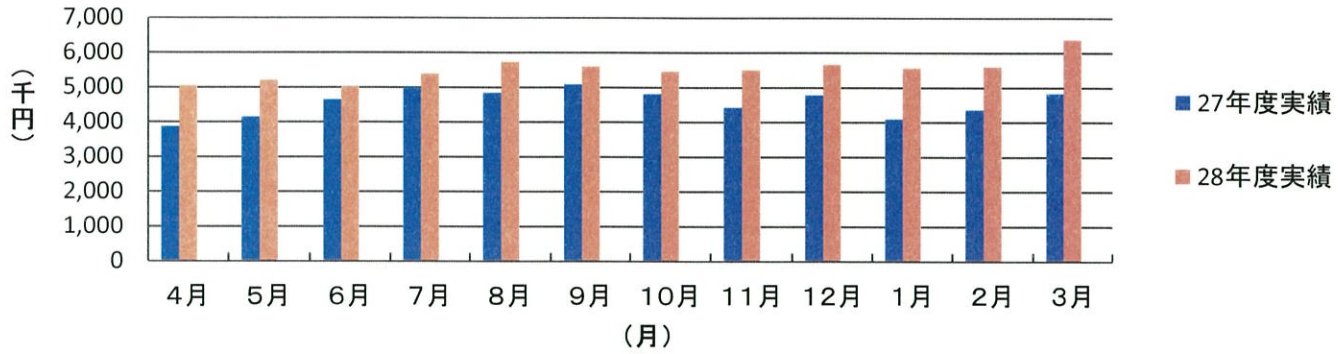
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	3,862	4,139	4,639	4,976	4,830	5,078	27,524
平成28年度目標	4,655	4,781	4,899	5,025	5,341	5,261	29,962
平成28年度実績	5,040	5,196	5,016	5,386	5,729	5,601	31,968
差異	1,178	1,057	377	410	899	523	4,444
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	4,804	4,418	4,777	4,084	4,352	4,826	54,785
平成28年度目標	5,387	5,505	5,847	5,527	5,423	6,223	63,874
平成28年度実績	5,457	5,491	5,657	5,557	5,598	6,380	66,108
差異	653	1,073	880	1,473	1,246	1,554	11,323

●収入金額

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度実績	3,862	4,139	4,639	4,976	4,830	5,078	4,804	4,418	4,777	4,084	4,352	4,826	54,785
28年度実績	5,040	5,196	5,016	5,386	5,729	5,601	5,457	5,491	5,657	5,557	5,598	6,380	66,108

収入比較表

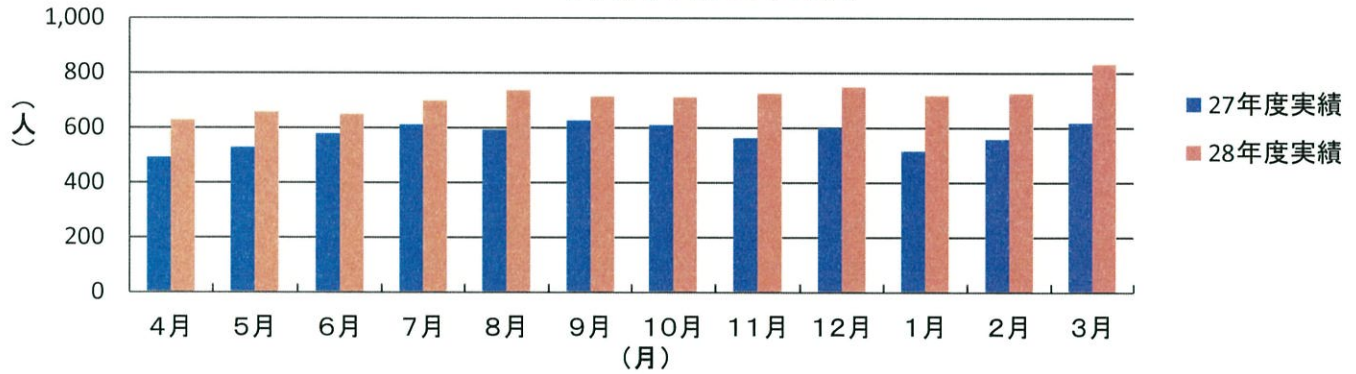


●月間利用者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度実績	491	528	578	610	592	626	609	562	599	515	558	618	6,886
28年度実績	627	656	648	697	736	713	711	725	748	717	725	831	8,534

月間利用者数

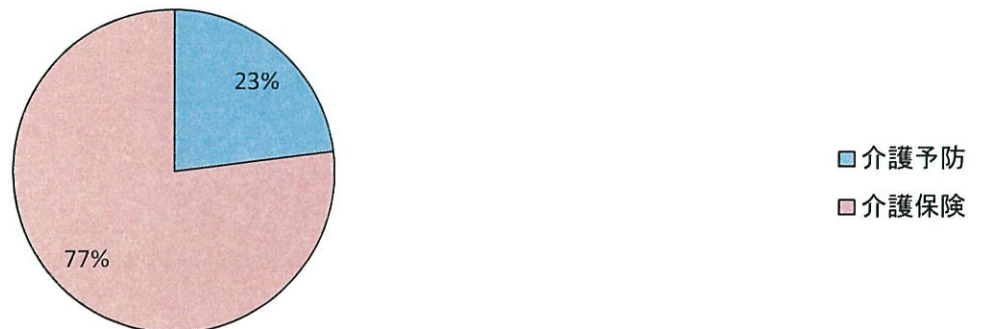


●28年度介護予防と介護保険利用者の割合

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防	152	164	167	165	183	158	161	170	154	140	149	175	1,938
介護保険	475	492	481	532	553	555	550	555	594	577	576	656	6,596

介護予防と介護保険利用者の割合



平成28年度 リハビリデイサービスサンライフ御立西

事業報告書

平成27年度に比べ、平均利用者数が1.4人増加しているが、冬場は急な欠席・入院が後を絶たず、下半期のみで比べると減少傾向となった。

また、サービスに関してはレクリエーション等のマンネリ化が顕著となってきている。1月より新たに口腔機能向上加算を算定するようになったが、まだまだ利用人数が少なく、サービスの定着はできていない。営業時に新たなサービスとして宣伝し、新規利用者獲得と収益アップを図っていきたい。

I. 個別の目標設定、評価を行う

リハビリについては、個別で目標を持って意欲的に取り組まれている方は少なかったが、在宅で困っていることや、身体で動きにくいところ等を伺うことで運動器機能向上計画書に反映し、プログラムに沿ったリハビリは実施できた。

利用者様が個々で個別の目標を設定し、デイ全体がヤル気のある雰囲気となるよう雰囲気作りに努めていくと共に、「運動すると気持ちいい」「身体を動かすことは楽しい」と実感して頂けるよう、職員や利用者様間の交流を設けながら意欲的に取り組んで頂けるよう努めたい。

3ヶ月に1度行っている体力測定については、看護師が測定・評価を行ったが、それについて多職種や利用者様と話し合う機会が全く持てなかった。また、3ヶ月に1度の測定が業務の中でかなり負担となっているため、測定の間隔を6ヶ月に1回とする。

II. 認知症予防の取り組み

上半期に引き続き、認知症予防対策として、レッドコードの際に声を出して数を数えながら体操をして頂いたり、個別レクリエーションでは頭を働かせる必要のあるもの(数独、ナンプレ、漢字クイズ、間違い探し等)を積極的に提供した。

次年度は帰宅願望の強い利用者様等に対して、個別で好きな物を提供出来るよう(例えば将棋等)物品を揃えると共に環境を整えていきたい。

Ⅲ. サービスの質の向上に向けた職員教育

職員の意識の差や情報のバラつきが目立つため、個別に行っているサービス内容の把握レベルを定期的にテストするよう計画を立てていたが、職員の入れ替わり等で慌ただしく実施することが困難だった。次年度はまず新しい職員に対してのテストによる確認の徹底、現職員は追加の内容が頭に入っているか口頭等で確認を実施していく。

職員の働きやすい環境作りとして残業ゼロを目指し、非常勤職員はほぼ残業なしで行えた。

Ⅳ. 収入と利用者数の確保

冬場の急な体調不良による欠席や入院により収入は減少傾向にあったが、前年度に比べると収入は増加した。引き続き新規利用者確保のため営業活動に力を入れると共に新しいサービスである口腔ケアを宣伝していくよう努めていきたい。

また、現在口腔ケアを利用しているご利用者様も少ないため、利用が増加するよう本人様・家族様・ケアマネへの説明を徹底していきたい。

平成28年度（上半期） 利用人数 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	16.1	17.8	18.8	19.6	19.1	20.9	18.7
月合計	419	465	489	511	499	544	2,927
平成28年度目標	22	22.5	23	23.5	23	24	23
月合計	572	585	598	611	621	624	3,611
平成28年度実績	21.5	20.8	21.7	22.3	22.3	21.3	21.6
月合計	560	541	565	581	603	553	3,403

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	21.4	21.3	20.2	20.7	20.3	20.8	19.7/平均
月合計	578	533	547	499	507	561	6,152
平成28年度目標	24.5	25	25	24	24.5	26	23.0/平均
月合計	637	650	675	600	588	702	7,463
平成28年度実績	21.1	20.8	21.6	20.2	20.8	19.1	21.1/平均
月合計	548	542	585	506	500	516	6,600

平成28年度 収支差額

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	3,493	3,816	3,993	4,090	4,051	4,218	23,662
平成28年度目標	4,576	4,680	4,784	4,888	4,968	4,992	28,888
平成28年度実績	4,313	4,137	4,278	4,502	4,525	4,203	25,958
前年度差異	820	321	286	412	474	-15	2,296

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	4,376	4,178	4,250	4,036	3,918	4,333	48,753
平成28年度目標	5,096	5,200	5,400	4,800	4,704	5,616	59,704
平成28年度実績	4,215	4,202	4,502	4,081	3,866	4,119	50,943
前年度差異	-161	24	252	45	-52	-214	2,190

平成28年度 新規利用契約数 (名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4	0	2	1	0	1	1	1	3	2	2	1

(山口 麻央)

特別養護老人ホーム サンライフ魚崎

平成28年度事業報告書

平成28年度は、入居者様に対するコミュニケーション能力の向上、職員間の情報共有の強化を目指して、自分自身の求められる役割を認識し、対応出来るよう育成指導を行った。業務に左右されている中で、今何が必要で、どのように対応したら良いのかを自らで考え、行動する事が特養全体で出来ておらず、次年度の課題となっている。

I. コミュニケーション能力の向上

(1) 職員間におけるコミュニケーション力の向上について

- ①前年度同様、各職員の個性や能力を踏まえ、グループを編成し育成を行う事により、それぞれが自身の役割を認識する事が出来たが、はっきりとした役割と責任を持たず事までは出来なかった。中堅職員に関しては部署の中心である事を指導し、自ら考え決断する力をつけてきている為、引き続き指導を続けていく。
- ②業務や事故などの検討について提案・評価・検討を行う力がまだ不十分な為、それぞれが意見を述べる事が出来る環境作りが課題となっている。

(2) 入居者様に対するコミュニケーション能力の向上について

- ①入居者様に対するコミュニケーション能力を向上させるために、3年目の職員を接遇委員に任命。若い職員が意識の徹底を図る事により、部署全体の意識の向上が行えた。
- ②食事の介助、排泄等に追われる事により、「利用者様目線」では無く、業務の都合で考えてしまう事があった。業務の改善と共に内部研修を行い「利用者様目線」の意識づけを行う事が課題である。

II. 科学的介護の継続

- (1) ①データに基づいた水分・食事・排泄・運動の取り組みを継続して行い、自立支援の取り組みを行った。
- ②嗜好品を家族様に持参して頂いたり、時間・場所・状況を変え摂取を促しているが、昨年度に比べ、水分の1日平均摂取量が125ml減少。全体的に水分の摂取量が減少している為、ケアの方法等を再検討する必要がある。
- ③常食・刻み食摂取者は減少。ゼリー食は増加している。ゼリー食から小刻みの方へのアプローチが必要だが、嚥下困難な方や、義歯の不具合等により困難な方がおられる為、医師・歯科衛生士を中心に食事形態アップのアプローチを行っていく必要がある。
- ④トイレ誘導の際に歩行を行う等、生活リハビリの実施により、下肢筋力の維持を

図っている。

⑤個別排泄リズムに合わせたトイレ誘導は 27 名（90%）行っている。3 名に関しては、状態があまりよくなく便座に座れる状態ではない為、トイレ誘導実施できず。

(H28年度入居者様状況)

項目		平成27年度	平成28年度
水分	1日平均摂取量(※)	1291cc	1166cc
	1,500cc以上	9名(30%)	5名(16%)
	1,400cc~1,499cc	3名(10%)	4名(13%)
	1,300cc~1,399cc	5名(16%)	5名(16%)
	1,200cc~1,299cc	1名(3%)	2名(7%)
	1,100cc~1,199cc	2名(7%)	1名(3%)
	1,000cc~1,099cc	4名(13%)	1名(3%)
	1,000cc以下	4名(13%)	12名(40%)
	摂取制限のある方	4名(13%)	4名(13%)
食事形態	普通食	7名(23%)	5名(17%)
	刻み食	16名(53%)	14名(47%)
	ゼリー食	6名(20%)	10名(33%)
	経管栄養	1名(3%)	1名(3%)
日中トイレ未使用者		1名(3%)	3名(10%)
運動	対象者	14名(47%)	28名(93%)
入浴	特浴	5名(16%)	5名(16%)
	中間浴	20名(68%)	22名(73%)
	一般浴	5名(16%)	3名(10%)
褥瘡者		3名(10%)	5名(16%)
身体拘束		0名	0名

(※) 水分摂取制限がある方は除く

(看取り介護実施者)

	退所者数	看取り介護実施者数	看取り介護実施率	看取り介護希望者
H26	8	7	87.5%	18
H27	8	6	75.0%	16
H28	6	5	83.0%	25

(2) 褥瘡発症者は3月31日現在で褥瘡発症者は5名。食事量減量や状態悪化、排泄による臀部の汚れもあり、それに対する対策の遅れや褥瘡の理解不足が発症へとがってしまったと考えられる。排泄時間や臥床時間、個々に合った座り方の対策

を行っていく必要がある。ケアの見直し等、改善する事が急務である。

(3) その他、上半期の介護状況について

身体拘束を行っている方については、3月末現在いない。

Ⅲ. 経営の安定化への取り組み

- (1) 稼働率目標値 99%を目標に取り組んできた。上半期は平均 99.1%と何とか目標を超える事が出来たが、下半期は退所者・入院者が続き減少してしまった。医師・看護師と連携し、体調不良者の早期発見と早期対応を行っていく。また、長期入院の可能性のある方に対しても、早めのアプローチを実施し、空日数を減らしていく。
- (2) 毎月3名以上の面接を計画していたが、現状実施できておらず。ショート相談員と連携し次期入所確保を早急に行う必要がある。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H27年度上半期実績	11,554	11,743	11,465	12,108	12,062	11,817	70,749
H28年度上半期目標	11,900	12,300	11,900	12,350	12,350	11,900	72,700
H28年度上半期実績	11,821	12,132	11,772	12,197	12,248	11,745	71,915
前年度上半期との差異	267	389	307	89	186	-72	1,166
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度下半期実績	12,205	11,843	12,041	11,988	11,321	12,188	142,335
H28年度下半期実績目標	12,350	11,900	12,350	12,350	11,000	12,350	145,000
H28年度下半期実績	12,138	11,771	12,164	11,747	10,785	11,885	142,405
前年度との差異	-67	-72	123	-241	-536	-303	70

- (3) 光熱水費に関して、季節・天候に合わせた照明器具・エアコン等の使用が徹底できていない部分があった為、使用方法等を再度検討する必要がある。

Ⅳ. 事故及び感染症対策

- (1) 事故発生件数は、昨年度と比較して12件減少しているが、内出血や表皮剥離が多く、居室環境及び介護方法の見直しや、丁寧に安全な介護を心がけるように全職員に指導した。
- (2) 事故対策委員会を中心に内出血・表皮剥離・薬事故を中心にデータの収集を行い、数値化し、原因追及や予防対策を強化していく。

(事故件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比	入院事故
平成26年度	8	14	5	12	19	20	15	14	25	23	12	23	190	+84 件	1 件
平成27年度	15	23	23	15	21	24	32	31	27	28	25	26	290	+100 件	0 件
平成28年度	22	23	16	14	26	34	21	16	25	26	28	27	278	-12 件	0 件

- (3) 今年度、風邪症状と思われる発熱の症状はかなりみられたが、インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症は発生せず。次年度も感染症対策委員・看護師を中心に発生・拡大予防の為の知識向上に努める。

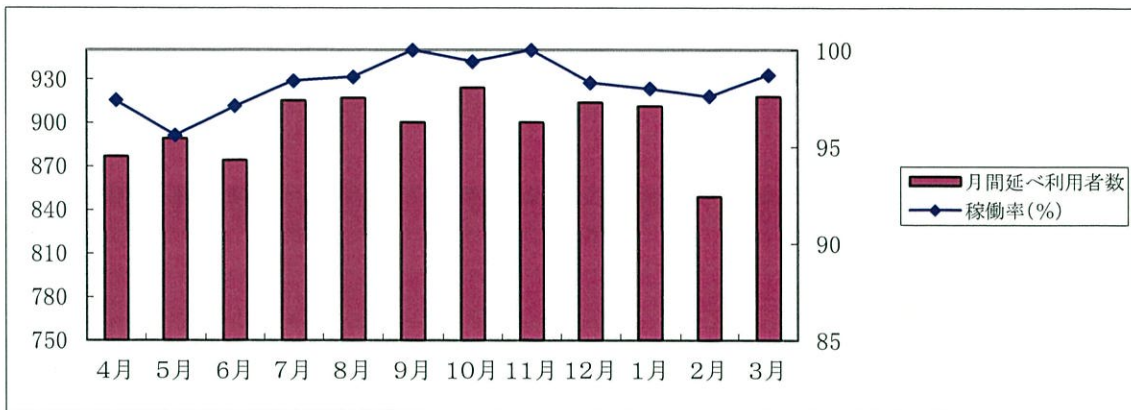
V. その他

- (1) 現状では、3日程度の連続した休暇の取得はあるが、4～5日の連続した休暇には至っていない。職員が健康で安心して働けるよう、計画的に取得出来る様にしていく。
- (2) 腰痛予防に対して、朝礼前にラジオ体操を実施し予防が出来た。また抱えた時につねる等の行為がある方や、2人介助が必要な入居者に対してリフトを導入する事により、職員が無理なく移乗出来る様になり、腰痛の緩和を行う事が出来た。
- (3) 1月に行われた監査により、アセスメント不足やケアプラン作成（期間やサービス内容について）の指摘があり。アセスメントは様式を変更、ケアプランに関しては期間をきちんと確認。サービス内容に関してもより個別サービスを重視した内容にするよう努めていく。

ベッド稼働率

平成29年3月31日現在（入所者数30名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年	前年比
月間延べ利用者数	899	923	894	930	928	900	930	930	927	893	815	905	10,874	10,788	100.7%
1日あたりの利用者数	29.9	29.7	29.8	30.0	29.9	30.0	30.0	30.0	29.9	28.8	29.1	29.1	29.6	29.5	100.3%
稼働率 (%)	99.9	99.2	99.3	100.0	99.8	100.0	100.0	100.0	99.7	96.0	97	97.3	99.0	98.4	100.6%



入院者数及びベッド空床数

平成29年3月31日現在（入所者数30名）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
H26	入院者数	0	1	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	7名	-1名
	ベッド空床数	0	23	6	27	31	12	0	22	0	0	0	0	121床	8床
H27	入院者数	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	1	10名	3名
	ベッド空床数	18	31	26	1	10	0	0	0	16	19	1	7	129床	8床
H28	入院者数	0	1	2	0	0	0	0	0	1	1	1	2	8名	-2名
	ベッド空床数	1	7	6	0	2	0	0	0	3	37	25	25	106床	-23床

退所要因

平成29年3月31日現在（入所者数30名）

	26年度	27年度	28年度	前年比
帰郷退所	0	0	1	1
他の施設に移転	0	0	0	0
医療機関に入院	1	1	0	-1
無断退所	0	0	0	0
死亡	6	7	5	-2
その他	0	0	0	0
計	7	8	6	-2

実習生受入れ状況		
		平成29年3月31日現在
実習期間	実習名	人数
4/19~4/20	兵庫県自治研修所	2
6/20~6/23	兵庫県立総合衛生学院	4
7/5~7/15	神戸常盤短期大学（口腔衛生学科）	2
7/19~7/29	神戸常盤短期大学（口腔衛生学科）	2
2/1~2/19	甲子園短期大学	2
合計		12名
外部研修参加状況		
		平成29年3月31日現在
研修日	研修名	参加者
5/18.26	実習生指導者研修	高瀬
6月13日	相談員会	日野
6月15日	介護士会	高瀬
6月22日	老人福祉施設新任職員研修	雪村
6月23日	老人福祉施設新任職員研修	山本
11/21.22	神戸市認定調査現任研修	松野
11/26.27	社会福祉士実習指導者研修	松野
12月12日	ひろみね研修	高瀬
1/14.21.28	喀痰吸引研修	酒井
2/4.11.18.25	喀痰吸引研修	酒井
3/4.11.16.17	喀痰吸引研修	酒井
延べ参加者数		9名

内部研修参加状況						
開催日：毎週水曜日、及び第1・第3土曜日 9：55～10：15						
研修日	研修名（テーマ）	参加者数	研修日	研修名（テーマ）	参加者数	
4月2日	認知症・認知症ケアについて	6	10月5日	介護技術体験（認知症の方への対応）	3	
4月6日	認知症・認知症ケアについて	3	10月12日	介護技術体験（認知症の方への対応）	3	
4月13日	認知症・認知症ケアについて	3	10月15日	感染症について	4	
4月16日	接遇について	5	10月19日	感染症について	2	
4月27日	接遇について	3	10月26日	感染症について	2	
5月4日	吸引について	7	11月2日	接遇について	5	
5月7日	吸引について	3	11月5日	接遇について	1	
5月11日	吸引について	2	11月9日	接遇について	3	
5月18日	リスクマネジメント	5	11月16日	労働災害について	2	
5月21日	リスクマネジメント	2	11月19日	介護技術体験（移乗・移動について）	3	
5月25日	リスクマネジメント	3	11月23日	介護技術体験（移乗・移動について）	4	
6月1日	看取りケアについて	5	11月30日	介護技術体験（移乗・移動について）	2	
6月4日	看取りケアについて	5	12月3日	事故予防・再発防止について	5	
6月8日	看取りケアについて	2	12月7日	事故予防・再発防止について	1	
8月16日	高齢者虐待防止・身体拘束について	4	12月14日	事故予防・再発防止について	5	
6月18日	高齢者虐待防止・身体拘束について	4	12月17日	グループディスカッション	7	
6月22日	高齢者虐待防止・身体拘束について	2	12月21日	グループディスカッション	1	
7月2日	介護技術体験（車椅子）	5	12月28日	グループディスカッション	2	
7月6日	介護技術体験（車椅子）	3	1月4日	褥瘡について	6	
7月9日	介護技術体験（車椅子）	4	1月7日	褥瘡について	5	
7月13日	介護技術体験（車椅子）	4	1月11日	褥瘡について	1	
7月16日	介護技術体験（排他介助時における注意事項）	5	1月18日	ストレスマネジメント	2	
7月23日	介護技術体験（排他介助時における注意事項）	3	1月21日	ストレスマネジメント	0	
7月29日	介護技術体験（排他介助時における注意事項）	3	1月25日	ストレスマネジメント	0	
8月3日	介護技術体験（水分・食事介助時の注意事項）	4	2月1日	心肺蘇生法	4	
8月6日	介護技術体験（水分・食事介助時の注意事項）	3	2月4日	心肺蘇生法	3	
8月10日	介護技術体験（水分・食事介助時の注意事項）	4	2月8日	心肺蘇生法	5	
8月17日	介護技術体験（水分・食事介助時の注意事項）	2	2月18日	接遇について	0	
8月20日	ノロウイルスについて	3	2月22日	接遇について	0	
8月24日	ノロウイルスについて	5	3月1日	接遇について	2	
8月31日	ノロウイルスについて	2	3月4日	糖尿病について	5	
9月3日	災害時の対応	4	3月8日	社会資源について	0	
9月7日	災害時の対応	4	3月15日	労働災害について	0	
9月10日	災害時の対応	3	3月18日	介護技術体験	5	
9月17日	介護技術体験（機械浴体験）	3	3月22日	介護技術体験	4	
9月21日	介護技術体験（機械浴体験）	4	3月29日	介護技術体験	2	
9月28日	介護技術体験（機械浴体験）	3				
10月1日	介護技術体験（認知症の方への対応）	3				
				延べ参加者数	237	名
				平均参加回数	15	回

行事・ボランティア等状況				平成29年3月31日現在			
4月	1日	合同レク	11月	24日	楽縁会ボランティア		
	14日	楽縁会ボランティア		26日	大正琴ボランティア		
	15日	合同誕生日会			音楽療法 (11/7, 11/14, 11/21)		
	19日	歌ボランティアグループ「わ」	12月	8日	楽縁会ボランティア		
	22日	カラオケレク		16日	クリスマス会		
	29日	合同レク		27日	もちつき		
		音楽療法 (4/11, 4/25)			音楽療法 (12/5, 12/19, 12/26)		
5月	4日	だんじり見学	1月	1, 2日	初詣		
	5日	こどもこし見学		17日	歌ボランティアグループ「わ」		
	12日	楽縁会ボランティア		26日	楽縁会ボランティア		
		音楽療法 (5/2, 5/9, 5/23)			音楽療法 (1/16, 1/23, 1/30)		
6月	29日	サンライフ祭	2月	7日	和楽舞ボランティア		
		音楽療法 (6/6, 6/13, 6/20, 6/27)		9日	楽縁会ボランティア		
7月	2日	和楽舞ボランティア		21日	歌ボランティアグループ「わ」		
	14日	楽縁会ボランティア			音楽療法 (2/6, 2/13, 2/20)		
	19日	歌ボランティアグループ「わ」	3月	9日	楽縁会ボランティア		
	25日	食事レク		14日	琴ボランティア		
		音楽療法 (7/4, 7/11, 7/25)		21日	歌ボランティアグループ「わ」		
8月	11日	楽縁会ボランティ			音楽療法 (3/6, 3/13, 3/27)		
	16日	歌ボランティアグループ「わ」					
		音楽療法 (8/1, 8/8, 8/22, 8/29)					
9月	7日	魚崎小学校交流会					
9月	8日	楽縁会ボランティア					
	13日	魚崎幼稚園交流会					
	23日	敬老会					
	24日	和楽舞ボランティア					
		音楽療法 (9/5, 9/12)					
10月	13日	楽縁会ボランティア					
		音楽療法 (10/3, 10/17, 10/24, 10/31)					

(松野千春)

平成 28 年度魚崎高齢者介護支援センター（短期入所生活介護）

事業報告

I. 活力ある介護現場の推進

今年度は利用者様・職員間コミュニケーション力アップを目指し、グループ型育成の見直しを実施。新入職員を含めた全職員が個々の職員と繋がりが持てるよう育成を行った。

又、昨年に引き続き、新規利用者様の積極的獲得、利用日数増加の為に、各事業所の訪問及び情報提供活動等を行った事で、利用者数増加へと繋がった。

(1) 職員育成の強化

- ①新入職員及び2～3年目の職員に対し指導担当職員を配置した。毎月1回は話し合いの場を設けるようにしており、業務上の不安や悩みの早期解決を図れた事で、新入職員の現状を正しく把握出来るようになり、有効な指導を行う事が出来た。また必要に応じてメンタルカウンセラーと連携をとっている。
- ②年間指導計画に基づき新入職員に対して全部署共通の医務研修を6月（緊急時対応）・9月（感染症対応）に実施した。2～3年目の職員に対しては毎月グループワークを中心に各介護技術の確認を実施した。
- ③今年度、相談員もしくは主任による職員面談予定になっていたが、実施できなかった。来年度は、年間予定としてしっかり日時を決め、行う必要がある。
- ④社会人、介護職員としてのコミュニケーション能力の向上を相談員、主任を中心に図っている。業務において職員個人に積極的に声かけすることでお互いの連携、利用者様への接遇向上に繋がっている。

(2) 「介護力」「チーム力」向上の取り組み

- ①今年度も接遇指導者研修に1名参加。接遇チェックシートの記入や研修内容のフィードバックを行い、接遇面においても職員間のコミュニケーション力の向上等効果もあった。しかし、取り組みがマンネリ化や職員の実力格差が生まれれており、その差を埋める取り組みが必要になっている。
- ②できていない事や不十分な事の指導だけでなく、出来ているところや出来たこと等を伝えていけるような雰囲気づくりを行っている。職員同士が良かった事を言い合える環境には至っていないが、今後も継続していく。
- ③職場雰囲気や人間関係の向上を図る事を目的とした、職員のエピソード等を話す一言スピーチについては、ある一定の効果が上がっており、一旦終了とした。

④ケア方法等について、職員による情報収集能力に差が出てしまい、曖昧になってしまう事もあった為、昼のミーティング時や職員会議等を活用し、利用者様のケアや注意点、業務の改善点等を話し合う機会を増やした。しかし、未だ統一したケア方法が浸透しているとは言えず、次年度においても引き続き取り組んでいく課題となっている。

(3) 他部署との情報共有と意見交換

①他部署からの研修受け入れは行ったが、他部署への研修へは行えていない。

下半期は新入職員 2 名を中心に実施していく。

ケアハウス → ショートステイ 5 名

(4) 無理のない時間内業務への見直し

①各職員の他職員・職種との連携意識が高くなってきており、お互いに助け合う事ができるようになってきている。ただ、利用者数増加や様々な利用者様の入れ替わりにより、業務内容の見直しが追いついておらず、効率的な時間配分や時間内に業務を終える事が難しくなっている。年間予定として、定期的に業務内容の評価、見直しを行っていく必要がある。

II. 個々に合わせた快適な生活への取り組み

(1) 個々に合わせた環境作りと専門的ケアの継続

①ロングショートの利用者様を中心に水分に重点をおいた自立ケアを継続している。利用者様の状態低下等により十分に組み合わせていない事もあるが今後も可能な限り継続していく。

②本人様、ご家族様の希望及び必要性に応じて歩行や立位のリハビリを実施している。リハビリ内容については状況に応じて職員間で話し合いを行い、利用者様にとって安全で無理のないように調整している。

(2) 充実したレクリエーション

①利用者様が手持無沙汰にならない様に、軽作業の提供や散歩をできる限り行っている。余暇活動委員会を中心にレクや軽作業、ボランティアの種類を増やしていく。

②利用者様の外出について、1回になっている。今年度は利用者様の体調を考慮した上で外出月を年間予定として設定し、積極的に設けていく。

III. 事故予防対策の強化

昨年度と比較すると約50%事故が増加している。薬関係の事故が多くあり、内服介助方法の見直しや医務との連携を強化し事故削減に努めていく。

また、骨折事故が3件発生しており、利用者様の状態に応じた負担のかからない介助を行う必要がある。

- ① 利用者様無断外出防止の為、事務所に依頼し利用者様と面会者の区別ができる様、面会札を作った。
- ② 離床センサー設置の方が増えており、職員の負担だけではなく、念の為にセンサーを設置している方も増えてきている為、それらの方への対応で、本当に注意が必要な利用者様へのケアが不十分になっている事例も増加してきている。
事故防止も重要であるが、利用者様の自宅での状況と身体状況を話し合い、離床センサーの必要性の有無を検討していく必要がある。

IV. 利用者様獲得への対策

小規模多機能型施設やサービス付高齢者住宅の増加等もあり利用者様にとって選択の幅が広がっている中で、訪問を中心とした情報の発信を継続している。利用実績のない居宅介護支援事業所も含め、ケアマネや家族様との信頼関係を強化していく。

- ① 毎月、各居宅介護支援事業所への訪問を行っており、毎月平均6～7名の新規利用者様の依頼があり受け入れを行った。
また、病院等からの中長期的な依頼や利用もあり、病院への情報発信も積極的に行っていく。
- ② 下半期より、特養への入所をロングショート利用者とするシステムへと移行した事や長期利用者の入院等により、空きが発生した月もあったが、病院からの中長期受け入れ、新規利用者への積極的獲得により、あまり変わらない受け入れ人数となった。
今年度は新規ロングショート利用者8～9名確保と毎月新規利用者平均7名以上を目指し、リピーター確保へと繋げていく。
- ③ 相談員、主任不在時にショートステイの依頼がある事があり、即座に対応できない事により他施設利用が決まってしまう事もある為、相談員、主任以外にも受付業務が行えるようにしていきたい。

V. その他

- ①上半期は4～6日間程度の連続した有給休暇取得はできていないが、職員が希望する単発的な休暇は取得できている。勤務の状況を見ながら職員全員がバランス良く休暇取得できるようにしていく。
- ②今年度、緊急ショート受け入れは、4名。生活支援ショートの受け入れに関して、2名となっている。

VI. 日中利用者数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度目標	630	651	630	651	651	630	636	657	657	657	593	636	7679
平成28年度実績	524	553	603	602	601	606	640	656	644	671	629	645	7374

・日中利用者数1日あたり、平均21.2名、ロングショート8～10名を目指す。

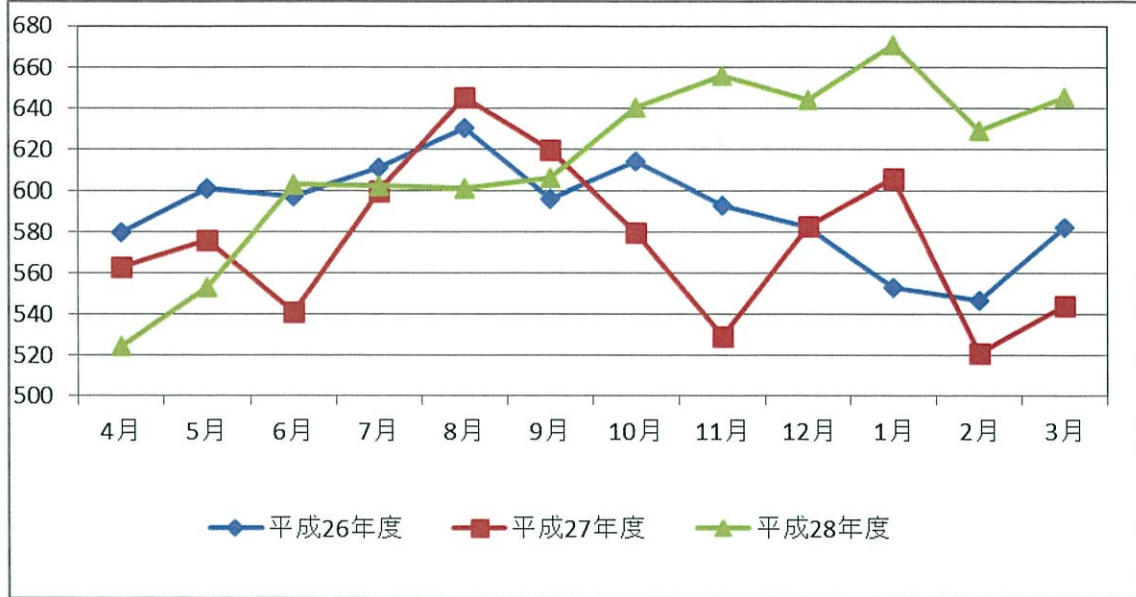
VII. 平成28年度収入（介護職員処遇改善費含む）

単位（千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
平成27年度実績	6,465	6,729	6,295	6,862	7,513	6,994	40,858
平成28年度目標	7,291	7,534	7,291	7,534	7,534	7,291	44,475
平成28年度実績	6,029	6,213	6,889	6,816	6,746	6,991	39,684
昨年度差	-436	-516	594	-46	-767	-3	-1,174
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	6,826	6,174	6,764	6,992	6,045	6,296	79,955
平成28年度目標	7,534	7,291	7,534	7,534	6,805	7,534	88,707
平成28年度実績	7,370	7,588	7,666	7,991	7,415	7,182	84,896
昨年度差	544	1,414	902	999	1,370	886	4,941

1. 日中利用人数

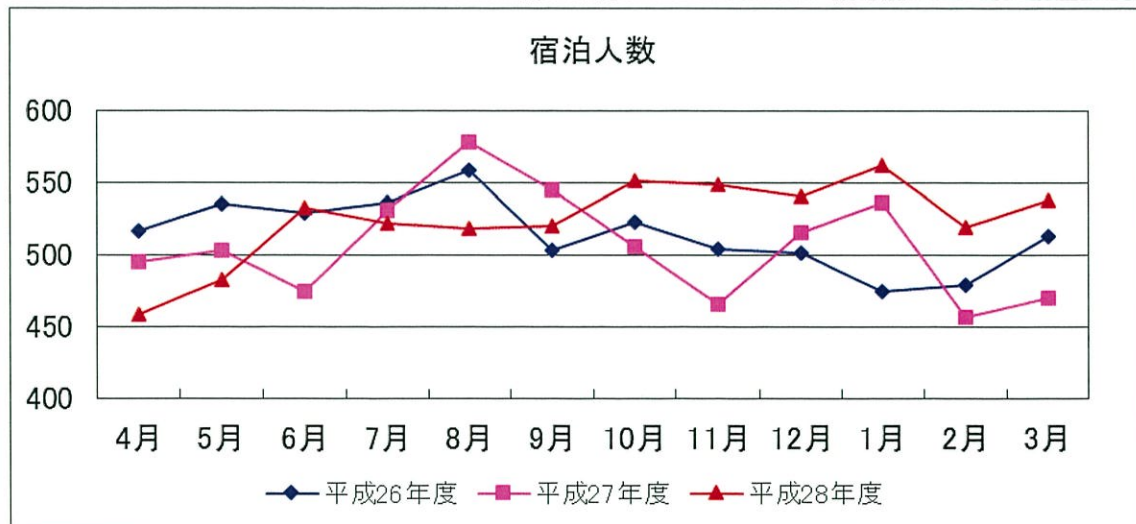
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26年度	580	601	597	611	630	596	614	593	582	553	547	582	7086
平成27年度	563	576	541	600	645	620	580	529	583	606	521	544	6908
平成28年度	524	553	603	602	601	606	640	656	644	671	629	645	7374



2 宿泊人数

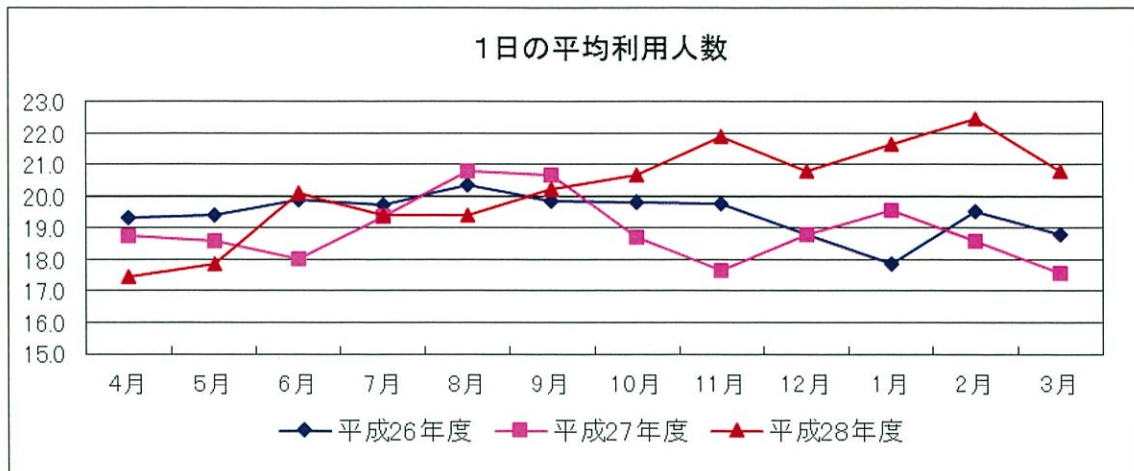
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26年度	517	535	529	536	559	503	523	504	501	475	479	513	6174
平成27年度	495	503	475	531	578	545	506	466	516	536	457	470	6078
平成28年度	459	483	533	522	518	520	551	549	541	562	519	538	6295

前々年度比 102 % 前年度比 104 %



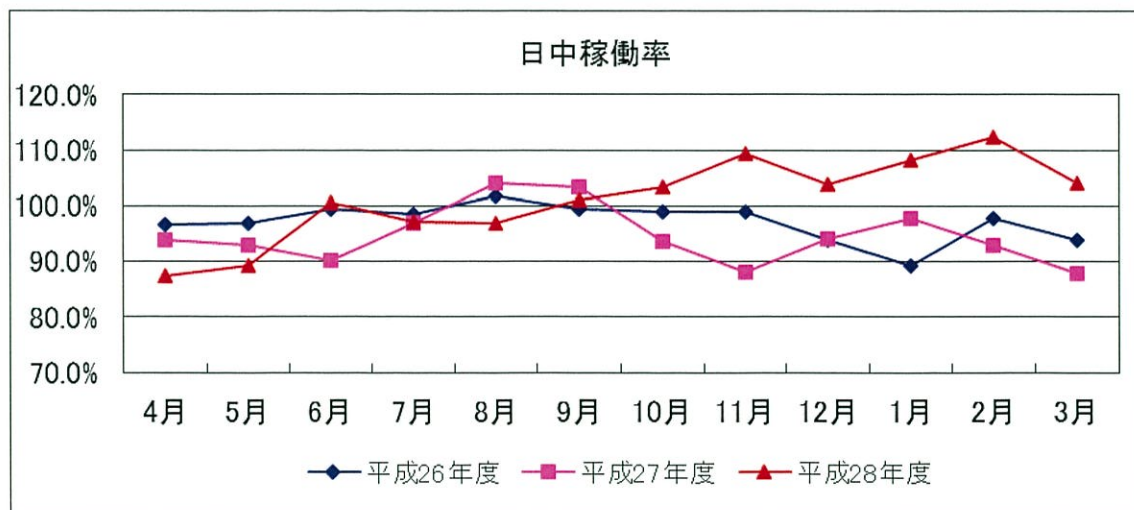
3 1日の平均利用人数 定員20名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成26年度	19.3	19.4	19.9	19.7	20.3	19.9	19.8	19.8	18.8	17.8	19.5	18.8	19.4
平成27年度	18.8	18.6	18.0	19.4	20.8	20.7	18.7	17.6	18.8	19.5	18.6	17.5	18.9
平成28年度	17.5	17.8	20.1	19.4	19.4	20.2	20.6	21.9	20.8	21.6	22.5	20.8	20.2
	前々年度比							104 %	前年度比			106 %	



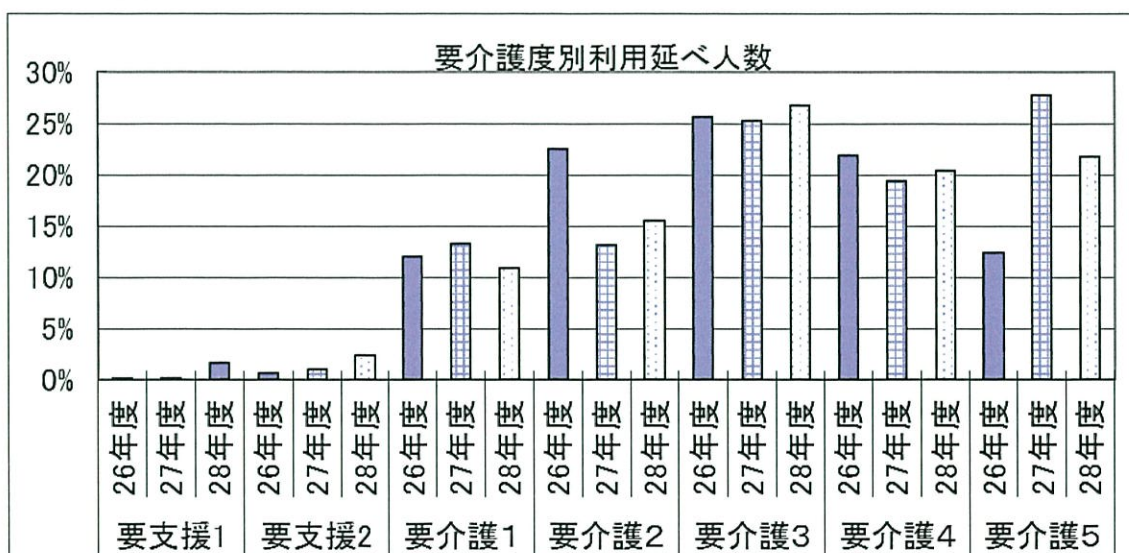
4 日中稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成26年度	96.7%	96.9%	99.5%	98.5%	101.6%	99.3%	99.0%	98.8%	93.9%	89.2%	97.7%	93.9%	97.1%
平成27年度	93.8%	92.9%	90.2%	96.8%	104.0%	103.3%	93.5%	88.2%	94.0%	97.7%	93.0%	87.7%	94.6%
平成28年度	87.3%	89.2%	100.5%	97.1%	96.9%	101.0%	103.2%	109.3%	103.9%	108.2%	112.3%	104.0%	101.1%



5. 要介護度別利用延べ人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
自立	26年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
要支援1	26年度	6	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	10	0%
	27年度	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	8	0%
	28年度	0	0	30	39	34	24	0	0	0	0	0	0	127	2%
要支援2	26年度	0	2	5	3	6	3	8	3	0	8	8	0	46	1%
	27年度	2	2	5	5	5	9	7	9	9	11	9	4	77	1%
	28年度	10	11	9	13	10	31	45	6	7	13	18	10	183	2%
要介護1	26年度	50	45	56	62	113	98	80	83	65	71	85	48	856	12%
	27年度	72	76	107	86	101	72	44	53	67	82	65	92	917	13%
	28年度	119	93	76	67	29	37	25	70	69	57	58	103	803	11%
要介護2	26年度	108	119	134	139	172	158	170	134	133	123	92	112	1594	22%
	27年度	89	113	77	81	64	66	66	47	73	95	69	73	913	13%
	28年度	64	92	107	80	104	118	155	94	90	88	84	72	1148	16%
要介護3	26年度	218	203	176	167	119	120	134	140	147	130	128	138	1820	26%
	27年度	140	131	135	154	175	181	154	165	167	156	98	92	1748	25%
	28年度	74	79	119	147	176	153	190	229	189	211	182	228	1977	27%
要介護4	26年度	129	165	160	167	145	130	131	132	105	91	78	115	1548	22%
	27年度	110	107	101	75	75	84	98	112	140	138	144	157	1341	19%
	28年度	144	159	137	135	135	115	117	117	115	111	96	126	1507	20%
要介護5	26年度	139	107	65	39	30	77	53	85	86	69	63	66	879	12%
	27年度	148	147	146	192	221	203	211	143	126	124	131	128	1920	28%
	28年度	113	104	125	118	109	128	111	140	174	191	188	104	1605	22%
送迎回数	26年度	115	116	127	143	127	150	161	164	150	136	114	122	1625	
	27年度	124	138	128	129	126	138	133	114	118	125	113	126	1512	
	28年度	131	136	143	163	156	163	172	207	203	203	203	208	2088	
請求人数	26年度	51	53	58	61	60	58	71	66	60	55	51	56	700	
	27年度	54	54	48	52	57	55	52	47	49	51	45	50	614	
	28年度	48	50	52	56	56	60	61	68	65	62	66	64	708	



6. 月に25日以上利用されている方 (ロング 準ロングショート)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成28年度	9	9	11	11	11	9	10	10	9	10	11	9	9.9

7. 収入金額

平成28年度							単位 (千円)	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	
H27年度実績	6,465	6,729	6,295	6,862	7,513	6,994	40,858	
H28年度目標	7,291	7,534	7,291	7,534	7,534	7,291	44,475	
H28年度実績	6,029	6,213	6,889	6,816	6,746	6,991	39,684	
前年度との差異	-436	-516	594	-46	-767	-3	-1,174	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H27年度実績	6,826	6,174	6,764	6,992	6,045	6,296	79,955	
H28年度目標	7,534	7,291	7,534	7,534	6,805	7,534	88,707	
H28年度実績	7,370	7,588	7,666	7,991	7,415	7,182	84,896	
前年度との差異	544	1,414	902	999	1,370	886	4,941	

8. 新規利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26年度	5	3	4	11	4	5	5	1	1	1	1	2	43
平成27年度	2	3	3	2	3	5	5	3	3	1	2	7	39
平成28年度	2	4	5	9	4	8	8	11	7	4	8	8	78

9. 事故発生件数 (事故、回避含む)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒・転落	平成26年度	4	4	2	2	1	3	3	2	5	6	2	2	36
	平成27年度	0	0	0	2	1	1	1	3	2	2	1	1	14
	平成28年度	1	0	2	3	2	0	1	3	4	1	3	5	25
薬関係	平成26年度	0	4	1	0	1	1	1	0	1	4	0	5	18
	平成27年度	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	1	2	8
	平成28年度	0	5	5	0	2	1	1	2	2	4	2	1	25
表皮剥離・内出血等	平成26年度	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	3	4	11
	平成27年度	1	3	3	3	1	1	1	1	2	1	3	6	26
	平成28年度	0	0	0	3	1	0	2	0	1	1	7	0	15
無断外出	平成26年度	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	平成27年度	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	平成28年度	0	3	1	1	0	2	3	0	0	0	0	0	10
その他	平成26年度	1	1	2	0	0	0	2	0	1	0	0	0	7
	平成27年度	0	1	2	0	2	0	0	1	0	1	0	1	8
	平成28年度	1	4	1	3	2	6	2	5	2	2	3	2	33
合計	平成26年度	7	9	6	1	3	4	7	3	7	11	5	11	74
	平成27年度	1	4	5	7	6	4	2	6	4	4	5	10	58
	平成28年度	2	12	9	10	7	9	9	10	9	8	15	8	108
										前々年度比	130%	前年度比	150%	

10. 苦情要望承り件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26年度	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4
平成27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成28年度	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2

11. 各種参加、受け入れ人数															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
外出	参加件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	
	参加人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	15	
行事	件数	2	0	2	0	2	3	0	0	4	0	0	0	13	
	参加人数	19	0	30	0	38	57	0	0	8	0	0	0	152	
ボランティア	受入件数	2	3	2	3	2	3	3	4	2	1	3		28	
	受入人数	13	23	12	19	12	32	31	24	20	6	18		210	
学校関係	受入件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	受入人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
研修生	受入人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12-1. 外部研修、内部研修															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
外部研修	受講件数	1	0	2	1	0	1	1	1	0	1	1	0	9	
	参加人数	1	0	3	1	0	1	1	1	0	1	1	0	10	
内部研修	実施件数	1	6	2	7	5	6	4	6	3	2	4	7	53	
	参加人数	23	25	9	14	14	18	8	15	8	7	12	5	158	
12-2. 外部研修															
4月	接遇・マナー研修 三井														
5月															
6月	社会福祉施設新任職員研修 千住・山下							接遇指導者研修 三井							
7月	接遇指導者研修 三井														
8月															
9月	接遇指導者研修 三井														
10月	接遇指導者研修 三井														
11月	接遇指導者研修 三井														
12月															
1月	接遇指導者研修 三井														
2月	接遇指導者研修 三井														
3月															
13. 資格取得受験講座															
資格取得受験講座受講者		介護支援専門員					2名		合格者		0名				

(日野晋佑)

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所 医務

平成 28 年度事業報告書

今年度は、「活気ある職場づくり」を目標とし、入居者様の状態に合った個別性のある看護・介護を実践できるよう入居者様と関わる様々な職種間の繋がりを強め、又、看護スタッフ間もそれぞれの経験や知識を生かして、積極的に発言し看護・介護のプランを考え共有できる職場づくりを目指してきた。

I. 入居者様・家族様を中心とした看護・介護を目指す。

(1)相談員、介護士、栄養士と嘱託医、精神科医師、歯科医師、衛生士との連携を図り、ご家族への連絡や報告に漏れが無いよう報告チェック表を作成した。今後、特に有事に、習慣化できるように使用していきたい。

(2)嘱託医の回診録を翌日の特養の申し送り時に読みあげ、情報伝達を確実に出来るようにした。

(3)特養の入居者様 30 名中 29 名の看取りに関してのご家族の意向を確認する事が出来た。

29 名中 4 名は救命・積極的治療を望まれ、25 名が施設での看取りを希望、看取り希望の 19 名は嘱託医との面談をして意見書も書いて頂き、看取りケアの準備は整っている。残り 6 名の方の医師との面談が今後の課題である。

(4)ショート・ロングステイの利用者様の終末期に対しての意向も相談員と対象になる方を検討し、ロング入所までに緊急時往診可能な Dr に主治医を依頼し、看取りに関しての面談をご家族として頂き、同意書を作成した。現在は 4 名のロング利用者様の内 2 名の看取り希望を受けている。

ショートの長期、頻回のご利用者様に対しても、相談員・介護士と話しあいながら、対象となり得る方の看取り看護・介護の説明、理解を進めたいと考える。

II. 安心、安全、安楽に過ごしていただける看護・介護を目指す。

(1)入居者様の身体・精神状況、病状の進行状況等を相談員、介護士、栄養士と共に常に正確に把握・共有し、アセスメント→評価→再アセスメントする習慣づけを継続している。

(2)褥瘡に関しては、9 月最終 7 名であったが 3 月には 5 名となっている。

11 月に一時的にすべて治癒、処置完了したが、再燃や、違う部位に発生し、9 月と同様の利用者様 3 名、入院中に出来た方 1 名、新入所のショート利用時から出来ていた方 1 名の計 5 名となる。

下半期で新たに臀部周辺に発生した症例は無く、現在仙骨に出来ている方も徐々

に改善傾向にあり、車椅子座位での除圧が上手くできていると考えられる。
ショートステイの在宅の利用者様にも褥瘡のある方が増えており、インシュリン
治療・ステロイド治療されている利用者様の割合が非常に高い。これからの利用
者様の傾向としてとらえ、処置に追われる事の無いよう、施設内では予防に努
め、外部からの受け入れに対して治癒と再発予防に努められるよう、主治医やケ
アマネージャー・デイサービススタッフとの連携も重要となってくると考える。
又、ロングショートの主治医を含め、皮膚科、整形外科の往診可能な Dr の確保が
今後の課題となっている。

(3) 医療的ケアの現地研修を9月から開始しており、4名中2名が終了。あとの2名
の研修が残っている。目処は立っていないが、現行の指示書期限の8月を終了目
標として実施を促していきたい。

(4) 感染症に関しては、11月に感染性胃腸炎が職員1名より、その後2名の利用者
様に発症。家族に発症した職員がインフルエンザや感染性胃腸炎に感染という症
例が単発的にあったが、大きな感染拡大には至らず、鎮静化できた。

III. それぞれの看護師がやりがいを持って働ける職場を目指す。

(1) 外部研修へ下半期は2件2名、計6件6名の研修参加、2～3月にスタッフ1名
休職したため、調整困難で、目標達成できなかった。来期も同目標とする。

平成28年度 特養・ショートステイ看護及び研修状況

(1) 疾病発生状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
発熱・風邪罹患者数	5	1	1	8	1	4	4	13	4	11	10	12	74	205
その他の疾患罹患者数	4	1	1	0	3	2	0	5	2	3	3	2	26	433
Ns付き添い受診回数	3	11	8	7	2	9	3	6	2	3	3	2	59	178

(2) 入院・退院・入退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
入院者数	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	5	83
退院者数	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	5	83
退所・死亡者数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	5	62
入所者数	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	5	62

(3) 特変緊急対応の回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	50
ショートステイ	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	6	100

(4) 医療診療件数(受診・往診)・診療

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養ショート件数	49	41	41	43	33	45	47	51	40	32	51	49	522	125
特養ショート人数	115	136	139	146	132	136	144	166	128	124	118	135	1619	128

(5) 研修受講状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
外部件数	0	0	1	1	0	2	0	2	0	0	0	0	6	200
外部人数	0	0	1	1	0	2	0	2	0	0	0	0	6	150
内部件数	3	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	5	26	33
内部人数	11	6	8	8	10	8	8	8	8	0	7	15	97	46

平成28年度魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

事業報告書

今年度のデイサービスは利用者さまの獲得に向けて全職員での具体的な取り組みは行えていないが、利用者獲得の意識付けは会議等で常に発信を行った。個別レクは行えていないが、午前中の作業レクの選択肢を少しずつ増やしている。リハビリに関しては利用者様の必要性に応じて看護師により実施している。フロアでの歩行を促し、生活リハビリを取り入れ、外出や散歩の機会を増やすよう努めた。

I. レクリエーションの取り組み

(1) 個別レクの取り組み（選択レク）

1. 利用者様のお好きな事についてアンケートの実施を行うことはできたが、その結果に対しての具体的他取り組みについては行えていない。
2. 職員1名9月5日にレクリエーション研修に参加し、会議等を通じて職員へ研修内容を報告。レクリエーション雑誌の活用を積極的に行った。

(2) 外出レクの取り組み

1. 須磨海浜水族園・王子動物園へ秋の遠足実施
 - ・須磨海浜水族園
10月18日（11名）・26日（12名）・28日（12名）
 - ・王子動物園
10月20日（9名）
2. 初詣、紅葉・梅・桜ドライブの実施
 - ・紅葉ドライブ（住吉川・芦屋周辺）
11月21日～26日（62名）
 - ・初詣（魚崎 八幡神社）
1月4日～6日（41名）
 - ・梅ドライブ（岡本梅林）
2月
 - ・桜ドライブ（灘区石屋川～護国神社～摩耶ケーブル～王子公園）
4月6日～13日（65名）

II. 利用者獲得への取り組み

- (1) 6月以降毎月1日には実績及び報告書を事業所へ訪問し届けた。1ヶ月の予定表を毎月作成し事業所廻りの際に配布し営業活動を実施した。
- (2) 体験ご利用終了後、担当ケアマネージャーへ当日中、又は次の日にご利用時の状況を報告し、新規のご利用検討の依頼を行った。
- (3) サンライフ魚崎居宅介護支援センター及び魚崎北部安心すこやかセンターへ毎月利用状況の報告書を提出。2か月に1回ショートステイと合同で4者会議を30分程度行い、情報の共有と収集を行った。また、新規利用者の依頼を行った。

III. リハビリの実施

- (1) 利用者全員に対してのリハビリは行えていない。看護師が退職し2名体制となり、看護師によるリハビリに関しては必要最低限の方のみの実施となった。
- (2) サイクルペダル・セラバンドを購入し、一部のご利用者様に実施して頂いた。
- (3) 6月には31名の散歩、午後からボールセラバンドを使用したリハビリを13名実施できていたが、介護職員・看護職員ともに退職者が増え、それ以降の散歩は10月に8名のみとなってしまった。

IV. 職員研修

- (1) 毎週水曜日の部署研修への参加を徹底。誰が部署研修へ参加をするかスタッフ予定表に記載した。専用の資料ファイルを用意し、誰でも閲覧できるようにケアステ内に設置。
- (2) 2か月に1回のデイ話し合いの際に研修を実施
 - ・ 6月17日 「糖尿病について」「誤嚥時の対応について」(14名)
 - ・ 8月19日 「感染対応」「認知症ケアと介護の基本」(11名)
 - ・ 10月21日 「レクリエーション」「介護保険について」(11名)
 - ・ 12月16日 「褥瘡」「インフルエンザ・ノロウイルス」(10名)
 - ・ 2月17日 「誤嚥時の対応について」(11名)

4. 平成28年度利用者状況

利用状況 (単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H27	月総計	680	710	748	719	677	704	
	月平均	26.1	27.3	28.7	26.6	26	27	
H28	月総計	696	717	716	716	760	741	
	月平均	26.7	27.5	27.5	27.5	28.1	28.5	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27	月総計	755	679	706	622	646	695	8,341
	月平均	27.9	27.1	27.1	25.9	25.8	25.7	26.8
H28	月総計	722	739	750	678	649	649	8,588
	月平均	28.5	28.4	28.8	28.3	27	26	27.6

平成28年度 収入 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H27年度実績	6,070	6,451	6,641	6,438	6,253	6,263	
H28年度目標	6,561	6,570	6,642	6,606	6,975	6,561	
H28年度実績	6,393	6,263	6,517	6,706	7,171	6,914	
前年度との差異	323	-188	-124	268	918	651	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度実績	6,883	6,217	6,412	5,684	5,902	6,429	75,643
H28年度目標	6,822	6,480	6,408	5,958	6,057	6,534	76,056
H28年度実績	6,734	6,799	6,921	6,215	5,980	6,302	78,915
前年度との差異	-149	582	509	531	78	127	3,272

(西 理恵)

平成 28 年度フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

事業報告書

入居者様の重度化と人員不足により事故の増加・介護量が増加し、職員の腰痛や負担も多くなった。本来のグループホームケアが困難な状況となった為、年末より重度の方の転居対応をおこない、介護負担の軽減を図った。

I. 職員の質の向上

- (1) 正職員の役割・責任感・意欲の向上に向けてのシステム強化は、人員が安定しない事と介護負担の増加により、業務に追われ取り組めなかった為今後も課題。
- (2) 認知症介護の専門性を高める為、職員会議や内部研修にて、言葉かけや言葉使い、接し方の大切さを伝え意識の向上・ケアの統一を図った。又、接遇委員を通し言葉使い・接遇指導をおこない、高齢者虐待防止の意識づけをおこなっている。今後も、全職員で実践していける環境作りを継続していく。
 - ① 2か月に1回グループホーム会議をおこない、認知症ケアについて研修している。
 - ② 内部研修に参加できる人数が少なく、参加者の片寄りもある。資料は全員配布しているが、中々全員の技術向上、実践に繋げていけない。
- (3) 職員会議時、コミュニケーション能力研修が実施できていない為、今後も課題。
- (4) 新人指導時、人員不足の為担当者が指導に当たる期間がほぼなく、指導育成不足となり、定職しない悪循環となった。

II. 活力ある職場作り

- (1) フロアリーダーの配置は出来ておらず、正職員会議も定期的に実施できていないが、個別に意見を聞く等している。今後も正職員と主任が連携し力を高める。
- (2) 業務時間内に正職員(主任)の事務等をする時間がとれていない。今後も課題。
- (3) 正職員の連続休暇はとれていない。今後も課題。
- (4) 高齢職員の勤務体制など極力考慮しているが、負担が大きくなってきており、体調管理・腰痛等々、今後心配である。

III. 個別ケアの充実

- (1) 散歩や余暇活動の時間が中々とれていない。認知症状の進行により、趣味や家事に取り組める方、状況が減少している。個々の状態に合わせ、極力「出来ること」をして頂き、廊下歩行などにも取り組んでいる。
- (2) 月1回の担当者会議で個々の趣味やニーズを話し合い、職員会議で提案し実施。

IV. その他

- (1) ①事故増加（転倒・転落・薬ミス・異食）は重度化と介護負担の増加が要因となっているケースが多かった為、3名転居対応を実施。又、無理な介助の見直し、2人介助の徹底など個々に合わせた介助方法をその都度検討し対応。
- ②内出血はH29年2月より3cm以下の内出血も事故報告することとなり増加した。ベット柵・車椅子・戸・机・椅子などに保護材を巻き、打撲予防に努めている。
- (2) 入浴リフトを導入し、安全で安心な入浴環境と介護負担の軽減となっている。
- (3) 散歩の一環として、果物を八百屋に買いに行くことは出来ていないが、おやつは売店にて、入居者様に選んで購入頂くことが出来ている。
- (4) 遠足には出かけているが、外食やバルコニーでの食事は出来ていない。
- (5) 家族会・交流会は10月に実施。

V. 経営対策について

- (1) 上半期は入院が5件で利用日数が減少。転倒予防・防止に努め下半期入院なし。
- (2) 人員不足・欠勤・業務負担等の為、業務時間内に事務等をする時間が無く、入退居判定会議・入居申込者・待機者情報の更新等が困難だったが、12月より3名入退居を実施。空室状況は年末年始は神戸市との引継ぎで日数を要したが、2件は比較的早々の入居が出来、空き室を減らせた。又、転居により介護負担軽減。
- (3) なんとか人員不足による減算対象には至らなかったが、病欠・退職などにより常にギリギリな状態であった。求人募集するも困難。今後も課題。

I. 入居状況（定員16名）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数		480	496	480	496	496	480	496	480	496	496	448	496	5840
利用日数 (日)	H27年度	443	495	480	496	496	480	481	480	496	431	430	496	5704
	H28年度	466	469	480	487	466	475	496	480	484	463	448	493	5707
入院 (日)	H27年度	37	1	0	0	0	0	15	0	0	61	7	0	121
	H28年度	14	15	0	9	30	5	0	0	0	0	0	0	73
空室(日) (退居)	H27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	11	0	15
	H28年度	0	12	0	0	0	0	0	0	12	33	0	3	60
稼働率 (%)	H27年度	92%	99%	100%	100%	100%	100%	97%	100%	100%	86%	96%	100%	97%
	H28年度	97%	94%	100%	98%	93%	99%	100%	100%	97%	93%	100%	99%	97%

①入院5件…(病気2件・骨折3件) ②退居4件…永眠1件・転居3件(特養・ケアハウス)

II. 平成 28 年度事故一覧

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	H27年度	2	0	2	0	0	1	3	2	3	2	0	1	16
	H28年度	3	1	1	1	3	4	2	3	3	3	0	0	24
転落	H27年度	1	0	0	0	2	0	1	0	0	2	2	1	9
	H28年度	2	1	0	0	1	0	2	2	2	1	2	0	13
打撲	H27年度	1	1	1	0	3	0	2	3	2	0	1	0	14
	H28年度	1	0	2	1	1	2	2	0	0	0	10	15	34
誤嚥	H27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食	H27年度	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
	H28年度	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	7
薬ミス	H27年度	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	5
	H28年度	0	3	0	1	0	1	1	1	1	1	2	1	12
その他	H27年度	1	0	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	7
	H28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	7
合計	H27年度	5	1	5	3	7	3	6	6	6	4	3	4	53
	H28年度	8	5	3	4	5	7	7	6	6	5	19	22	97

①転倒…トイレ 6 件・食堂 7 件・廊下 5 件・居室 5 件・脱衣場 1 件（骨折入院 3 件）

②転落…ベット 6 件・便座 3 件・車椅子 2 件・食堂椅子 1 件・入浴リフト 1 件

③打撲(内出血)…手足 27 件・腹部 2 件・胸 1 件・顔 2 件・舌 1 件・頭部 1 件

④異食…石鹸付き食器の水 2 件・残飯物 1 件・ティッシュ 1 件・華道の薬 1 件

パット 1 件・ゲームの玉 1 件

⑤薬ミス…薬局セットミス 4 件・飲みこぼし 3 件・飲み忘れ 5 件

⑥その他…ひっかき傷 6 件・表皮剥離 1 件

III. 内部研修

実施日	内 容	参加数	実施日	内 容	参加数
4/22, 5/20, 7/19 9/30, 10/1, 1/20, 3/31	認知症ケア	35 名	5/4	誤嚥時対応・ 吸引ノズル使用方法	1 名
5/23～5/27 10/24～10/27	虐待防止・身体拘束	15 名 15 名	7/6, 7/13	介護技術・車椅子	2 名
8/3, 8/10	実技(水分・トロミ)	4 名	8/20	ノロウイルス対応	1 名
9/7	災害時の対応	2 名	10/19, 10/26	感染症対応	3 名
11/5, 3/1	接遇	3 名	12/21	チームワーク	2 名
2/1, 2/8	心肺蘇生法	1 名			

IV. ボランティアの受け入れ

- ・華道教室 月1回 / 計10回
- ・折り紙教室 月1回 / 計8回
- ・書道教室 月1回 / 計8回
- ・音楽療法 月2回以上 / 計38回
- ・本館でボランティア主催のコンサートや踊り等が不定期に開催され、その都度参加。

V. 行事報告

4月	・桜花見(川井公園)	・職員会議・東灘区GH連絡会
5月	・だんじり見学・母の日会 ・トライアルウイーク	・運営推進会議・苦情委員会 ・全体会議・職員会議
6月	・日帰りバス遠足(ヨーデルの森) ・サンライフ魚崎まつり	・防災訓練(幼稚園児) ・東灘区GH連絡会
7月	・七夕会・スイカ割り	・運営推進会議・夜間火災訓練・職員会議
8月	・花火会	・第三者評価・正職員会議
9月	・敬老会・幼稚園交流会	・防災訓練・職員会議
10月	・運動会・遠足(動物王国)	・HCC・運営推進会議・東灘区GH連絡会 ・家族会・家族交流食事会
11月	・遠足(動物王国)・予防接種	・運営推進会議・職員会議
12月	・クリスマス会・餅つき大会	・魚っこワーキング
1月	・初詣・新年会	・運営推進会議・備蓄食日・職員会議・火災訓練
2月	・節分	
3月	・ひなまつり	・運営推進会議・職員会議・福祉短大実習生

VI. 収入

(単位千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H27年度実績	4,736	5,066	5,010	5,131	5,209	5,146	30,298
H28年度目標	5,100	5,100	5,100	5,200	5,250	5,200	30,950
H28年度実績	4,990	4,940	5,079	5,004	4,989	4,752	29,754
前年度との差異	+254	-126	+69	-127	-220	-394	-544
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度実績	5,097	4,982	5,271	4,665	4,836	5,238	60,387
H28年度目標	5,150	5,050	5,300	5,150	5,200	5,200	62,000
H28年度実績	5,344	5,080	5,303	4,962	4,916	5,209	60,568
前年度との差異	+247	+98	+32	+297	+80	-29	+181

(石本美智子)

平成 28 年度 介護型ケアハウス サンライフ魚崎

事業報告書

平成 28 年度は職員の資質向上、自主性及びやりがいと責任を持って取り組んでいく事に重視することとした。経験の浅い職員が多くなり、体制構築が必要な状況ではあるが、入居者様に安心して快適に過ごして頂く為に職員一人一人が主体性を持って、行動や発言ができるようになってきている。入居者様の確保が難しくなってきたはいるが、地道な活動で選んで頂けるように努めていきたい。

I. 職員の育成・コミュニケーション能力の向上

- (1) 育成委員会が作成した育成計画に基づき、新入職員及び 2~4 年目の職員に対する研修を実施した。グループワークや実技を研修内容に取り入れ、介護力の向上を図った。研修対象職員や研修頻度の検討を行い、今後も継続的に取り組んでいく必要がある。
- (2) 新入職員の指導について各階育成グループを形成した。定期的に話し合いをする機会を設ける事で業務上の悩みや不安の早期解決を図っている。また必要に応じてメンタルカウンセラーと連携をとっている。
- (3) 育成状況や業務内容の確認と課題の整理、情報の共有を図るために毎月リーダーと相談員が話し合う機会を設けた。
- (4) 正職員の外部研修への参加については必要最低限になっている。勤務の調整を行い、積極的に参加できるようにしていく必要がある。
- (5) 接遇指導者研修に 1 名参加し、施設内にてフィードバックを行う事で接遇の強化を図った。
- (6) 内出血等の軽微な事故が増加しており、経験の浅い職員に対しては先輩職員からのアドバイスを積極的に行っている。また申し送りの時間を利用して、事故内容の共有、改善策を検討・実行をしている。

II. 入居者様確保・空き日数の低減

- (1) 年間活動計画に基づき、案内状の送付や事業所への訪問を行った。入居申込者の確保には至っていないが、地道な活動を通して安定数を確保していく必要がある。またケアハウスの紹介パンフレットを新たに作成し、訪問や見学がある際には活用している。

- (2) 入居者様入院時において、早期退院の促しを行ったが前年度より入院日数が増加した。入院中のこまめな状況把握と早期退院の働きかけを継続して行っていきたい。
- (3) 事故等による入院を防ぐ事ができるよう事故防止委員が中心となり、必要な事故報告については各フロアで情報を共有できるようにした。

III. 活力ある職場作り

- (1) 各フロアで年間目標（半年毎）・フロア目標（3ヶ月毎）を立て、朝・昼の申し送り時に復唱するよう取り組みを行った。
- (2) 職員の体制が整わない事もあって3～6日のリフレッシュ休暇の取得には至っていない。有給取得数が少ない職員に対してはできるだけ取得するように働きかけを行っている。
- (3) 他部署研修（ショートステイ）を5名行った。日頃の業務から離れ、新しい経験をする良い機会になった。
- (4) 本人様、ご家族様の希望及び必要性に応じて歩行や立位のリハビリを実施している。リハビリ内容については状況に応じて職員間で話し合いを行い利用者様にとって安全で無理のないように調整している。

IV. その他

- (1) 神戸市指導監査指摘事項について
 - ①台所の引き出しや食器棚に粉洗剤やキッチンバサミを容易に手にとれる状態で保管されていた。また掲示物に押しピンが使用されていた。
→危険を伴う調理器具や洗剤類は施錠できる棚に保管するようにした。
また押しピンは使用しないよう徹底した。
 - ②避難経路である扉の前にテレビが配置されており、避難経路の妨げになっていた。
→避難経路の妨げにならないようテレビの位置を調整した。
 - ③落葉や内出血、表皮剥離を、ヒヤリハット事例として報告している事例が見受けられた。
→適切に介護事故とヒヤリハット事例を選別し、落葉、内出血、表皮剥離事故全てを介護事故事例として記録を作成するよう改善した。
 - ④個別機能訓練加算について、常勤専従として配置すべき機能訓練指導員が一部、看護職員として業務に従事していた。
→既請求分について、同様の事例の有無を自主性精査し、介護給付過誤申立等の手続きを行った。

- (2) 備品及び設備の老朽化による不具合等が目立って来ており、修繕、交換を順次行っている。
- (3) 介護ロボット・新しい福祉用具を検討したが導入には至っていない。

V. 収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
H27年度実績	18,585	19,611	19,022	19,527	19,378	19,122	115,245
H28年度目標	18,900	19,840	19,200	19,840	19,840	19,200	116,820
H28年度実績	18,057	18,442	18,610	19,395	19,857	18,024	112,385
前年度との差異	-528	-1,169	-412	-132	479	-1,098	-2,860
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度実績	19,051	18,538	19,087	18,883	18,163	18,297	227,264
H28年度目標	19,840	18,900	19,840	19,840	17,920	19,840	233,000
H28年度実績	18,232	18,240	18,726	19,170	17,498	18,612	222,863
前年度との差異	-819	-298	-361	287	-665	315	-4,401

1. 入居状況 (定員48名)														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
日数	1,440	1,488	1,440	1,488	1,488	1,440	1,488	1,440	1,488	1,488	1,344	1,488	17,520	8,784
利用日数	1,363	1,398	1,407	1,470	1,483	1,378	1,394	1,356	1,400	1,433	1,272	1,384	16,738	8,581
入院	47	87	32	15	0	10	35	17	0	1	23	19	286	272
外泊	4	1	1	3	5	0	1	1	2	4	0	2	24	21
空室	26	2	0	0	0	52	62	66	86	50	49	83	476	138
新規入居者数	1	1	0	0	0	1	1	0	2	1	1	1	9	8
退去者数	0	1	0	0	0	4	1	1	1	1	2	0	11	8
稼働率	94.7%	94.0%	97.7%	98.8%	99.7%	95.7%	93.7%	94.2%	94.1%	96.3%	94.6%	93.0%	95.5%	96.2%

2. 事故一覧															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
転倒	H27	3	4	4	3	3	4	5	7	4	6	3	5	51	114%
	H28	4	5	0	4	5	5	3	3	16	8	3	2	58	
裂傷 剥離	H27	1	4	2	0	6	1	3	0	1	2	1	1	22	182%
	H28	0	1	2	6	8	5	6	3	0	2	1	6	40	
誤嚥	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
薬剤	H27	5	9	7	1	1	6	6	3	3	7	10	5	63	132%
	H28	2	8	9	7	10	2	11	7	7	13	4	3	83	
転落	H27	1	2	2	2	4	0	1	3	1	1	6	1	24	229%
	H28	0	3	3	4	5	6	11	6	10	3	2	2	55	
打撲	H27	2	1	5	6	2	1	4	1	4	2	2	4	34	79%
	H28	3	3	3	2	4	0	1	3	0	3	4	1	27	
その他	H27	4	1	1	2	2	2	1	3	7	4	6	9	42	71%
	H28	0	2	2	4	3	2	0	3	0	4	6	4	30	

3. 各種参加・受け入れ状況														
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外出	件数	2	1	2	1	1	0	1	1	1	0	1	2	13
	参加者	13	3	15	3	5	0	2	4	3	0	3	8	59
行事	件数	11	13	16	15	12	12	15	13	13	15	13	14	162
	参加者	201	280	327	321	281	589	312	304	348	402	313	380	4,058
実習	件数	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	人数	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	6
ボランティア件数		1	1	2	2	3	4	3	5	4	4	1	5	35
ボランティア人数		8	2	4	6	9	6	7	17	10	9	1	10	89

4. 行事・外出状況		() 内は参加人数
4月	櫻宴ランチ外出(7)・コンサート(6)・手作業クラブ(35)・書道(9)・ナルクお茶会(24)	
5月	落語会(26)・買い物外出(3)・体操クラブ(15)・手作業クラブ(21)・書道(9)	
6月	バスハイク(11)・昼食外食(4)・ハーブ演奏会(21)・手作業クラブ(38)・書道(22)・オカリナ演奏会(30)	
7月	散歩クラブ(10)・カラオケクラブ(21)・体操クラブ(22)・書道(20)・手作業クラブ(38)・ナルク回想歌(24)・落語会(25)	
8月	外食(3)・体操クラブ(22)・オカリナ演奏会(23)・カラオケクラブ(21)・書道(18)・手作業クラブ(18)・ナルク花火DVD(26)	
9月	ハーブ演奏会(18)・落語会(26)・手作業クラブ(20)・敬老会・体操クラブ(23)	
10月	ふたっじゃや外出(2)・体操クラブ(21)・手作業クラブ(20)・散歩(8)・書道(17)・大正琴(27)	
11月	リリハ外食(4)・体操クラブ(22)・手作業クラブ(20)・散歩(9)・書道(20)・オカリナ演奏会(26)・落語会(29)・ナルクコーラス(27)	
12月	ライフ買い物外出(3)・手作業クラブ(18)・書道(19)・ハーブ演奏会(25)・ナルク回想歌(29)	
1月	手作業クラブ(22)・体操クラブ(17)・書道(19)・散歩(7)・オカリナ演奏会(23)・落語会(27)	
2月	マックスバリュート買い物外出(3)・体操クラブ(20)・手作業クラブ(24)・書道(21)・散歩(11)	
3月	ミニカー買い物(5)・びっくりドンキー外食(3)・林さん音楽療法(30)・手作業クラブ(22)・書道(22)・オカリナ演奏会(25)・落語会(20)	

5. 送迎・付き添い状況														(単位：件)	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計	
送迎	26	29	41	27	33	33	21	20	18	15	12	15	290	378	
付き添い	21	16	9	5	5	8	4	5	3	3	3	6	88		

6. 要介護度														(単位：人、月末在籍者数)	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
要支援1	H27	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	25	68.0%
	H28	2	2	2	2	1	2	1	1	1	1	1	1	17	
要支援2	H27	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	3	17	205.9%
	H28	3	3	3	3	3	3	3	3	5	2	2	2	35	
要介護1	H27	13	14	14	15	17	16	14	15	16	17	16	15	182	96.7%
	H28	16	15	16	15	15	14	14	13	14	15	14	15	176	
要介護2	H27	9	12	12	13	13	12	13	13	10	11	11	12	141	94.3%
	H28	10	11	11	11	12	12	12	11	11	11	11	10	133	
要介護3	H27	4	3	3	3	4	4	2	2	3	3	2	2	35	120.0%
	H28	3	3	2	2	2	3	5	5	5	4	4	4	42	
要介護4	H27	11	10	10	8	9	7	10	9	9	8	10	8	109	92.7%
	H28	8	9	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	101	
要介護5	H27	8	6	6	6	4	5	6	6	6	6	5	6	70	95.7%
	H28	6	6	6	7	7	7	4	4	5	5	5	5	67	
平均	H27	2.68	2.47	2.47	2.37	2.26	2.27	2.45	2.45	2.37	2.30	2.33	2.31	2.42	
	H28	2.31	2.36	2.29	2.37	2.40	2.40	2.31	2.34	2.40	2.39	2.42	2.40	2.36	

7. 性別・年齢構成								(単位：名、3/31在籍者)	
	～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計	
男性	1	1	1	4	4	1	0	12	
女性	0	0	2	7	14	10	1	34	
合計	1	1	3	11	18	11	1	46	

8. 内部研修参加状況		
月	内容	参加者数
4月	①認知症ケア②接遇	36名
5月	①吸引②リスクマネジメント	47名
6月	①看取りケア②高齢者虐待防止③身体拘束	28名
7月	①介護技術体験	26名
8月	①介護技術体験②ノロウイルス	24名
9月	①災害時の対応②介護技術体験（機械浴の使用方法）	26名
10月	①介護技術体験②感染症	17名
11月	①接遇②労働災害③介護技術体験	19名
12月	①事故予防②グループディスカッション	15名
1月	①褥創予防②ストレスマネジメント	13名
2月	①心肺蘇生法②栄養③接遇	6名
3月	①糖尿病②社会資源③労働災害④介護技術体験	11名

9. 資格取得講座受講状況		
介護福祉士	社会福祉士	介護支援専門員
3名	0名	3名

10. 外部研修参加状況		
日付	内容	参加者
4月20日	接遇マナー研修	西谷
6月27日	接遇指導者研修（全7回）	荒木
7月25日		
9月26日		
10月24日		
11月28日		
1月23日		
2月27日		
6月22日	老人福祉施設新任職員研修	青木・森下・山本
6月23日	老人福祉施設新任職員研修	青野・長迫
7月27日	高齢者虐待対応力向上研修	西谷
8月27日	介護福祉士実習指導者講習会（全4回）	岡元
9月25日		
10月5日		
10月23日		
10月1日	播磨介護技術競技大会	松本
11月28日	感染症に対する知識と予防対策	高原

（ 嶋田倫英 ）

平成 28 年度介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

事業報告書

「積極経営で活力ある職場創り！」が今期のスローガンである。前看護責任者が定年後 1 年勤務を続けられたが、6 月をもって退職した。3 名による新しい看護体制で活動を推進した。新しい看護師の定着に万全を期すよう業務の分担を見直した。また、4 月から主治医医院での院内処方を院外処方に変更することになった。

I. 業務改善

- (1) 7 月から医務室の業務体制変更し、主任不在のため従来業務に加え主任業務を 3 名で分担して引き継いだ。
- (2) 薬の処方が、従来の開田醫院の院内処方から院外処方に変更になった。これに伴い、フレール魚崎中町グループホームへ配薬中の「いこい薬局」に依頼した。グループホームでの 2 年近くの実績をもとに「いこい薬局」に決定した。また、開田医師の定期往診を月曜日に定着した。薬局による配薬業務が本格化したので、開田醫院からの処方箋を薬局に f a x する為、2 階ケアステーションに本館事務所と連動する機械を設置し、看護師が開田醫院や薬局に必要な情報を提供したり受けたりすることができるように改善した。
- (3) 看護師人員の増員が出来ていない状態であるが、看護師の日曜日出勤を 3 月より 1 名開始した。インシュリン自己注射されていた入居者様の加齢に伴い、針抜きの介入が必要となった為である。

II. 看取りの対応

看取りを開始するに当たり家族様との事前の打ち合わせを早目に行えるようにマニュアル化した。また、家族様の同意署名を頂く為の確認書を作成し、順次対象になる家族様へ説明しご理解を頂いている。

III. 夜間・休日看護師不在時のオンコール体制について

従来は、看護主任が全面的に夜間・休日の緊急時オンコールを受けていたが、負担を軽減するために全看護師が担当する当番制を実施するように変更した。

IV. 科学的介護

今期も、水分摂取について1日1,500ml以上を目標とした。脱水症、脳梗塞、認知症、便秘症、尿路感染症等、さまざまな疾患の予防に努め、また、心不全、胸水、誤嚥性肺炎を繰り返される方、腎不全等の持病がある方には、早目に主治医に相談し、適切な1日の水分摂取量を提供するよう介護部門とも連携を取り、症状の悪化に繋がらないよう努めた。ただ、全員1,500ml補給することに拘らず、利用者様の体調によっては減らすことも介護上行うことを介護士と確認し、柔軟な対応を行うように努めた。

V. 虐待防止

5月に施設より全体会議で、虐待についてのビデオ研修があり、場面内における課題点を個々に確認記録した。看護現場では、利用者様に対して常に言葉遣いや対応態度に注意し、忙しくても一呼吸おいて言葉を発する様努めた。

VI. 感染対策の為の手順マニュアル化

今期は、コスト削減、必需物品の見直し手順の再確認を行うべく、特養主任看護師と連携をとり感染対応マニュアルの見直しを行った。ノロウイルスやインフルエンザに対する初期対応を重視し拡大防止の為の消毒や個室管理を実施して効果を上げている。さらに、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）マニュアルの一部修正と、ESBL（薬剤に耐性を持ちβ-ラクタマーゼを産生する菌で肺炎や尿路感染を引き起こす）のマニュアルを作成し実施している。

VII. エンゼルセットの医務室配置

入居様が夜間永眠された場合に備えて、介護職員が慌てることなく丁寧に処置を行えるよう、予め必需物品を専用ケースにセットし医務室に配置した。

VIII. 入居者様のインフルエンザ予防接種、感染症

H28年10月末及び11月初旬の2回に分けて開田医師によるインフルエンザ予防接種を41名の方に施した。今年度より自己負担無料対象者が増加し、書類提出作業や説明に手間をとった。今冬のインフルエンザやノロウイルス感染者は発生しなかった。インフルエンザ・ノロウイルスは職員が数名発症した。

I 平成28年度 受診・往診状況等									
月	往診件数	受診件数	入院件数	看取り件数	救急件数	薬管理数	入居者数	退所	入所
H28年4月	93	16	3	0	0	44	48	0	1
5月	74	21	1	0	0	45	48	1	0
6月	97	19	1	0	0	46	48	0	1
7月	94	13	0	0	0	47	48	0	0
8月	92	11	0	0	0	47	48	0	0
9月	82	16	2	2	0	44	48	4	1
10月	117	31	5	0	1	44	45	1	1
11月	87	18	2	1	0	44	45	1	0
12月	102	19	0	1	0	45	46	1	2
H29年1月	72	15	1	0	2	44	45	1	1
2月	96	12	3	1	0	43	44	2	1
3月	83	12	4	0	0	45	46	0	1
合計	1,089	203	22	5	3	538	559	11	9

II 疾患別入院状況					
泌尿器	水腎症	1	内科	肝機能低下	1
	尿路感染 (同じ方が3回同疾患で入院)	5		肝硬変・腹水	1
	腎盂腎炎	1		自己免疫疾患	1
				貧血	1
呼吸器	慢性呼吸不全	1	消化器	上部消化管出血	1
	間質性肺炎	1	脳外科	脳梗塞	2
	肺炎	1	その他	ペースメーカー電池交換	1
	誤嚥性肺炎	2		白内障手術	1
循環器	急性心不全	1			22件

(榎 鹿子)

平成 28 年度 サンライフ魚崎（厨房）

事業報告書

今年度は、職員の定着・人材育成に重点を置き、コミュニケーション能力の向上、調理技術の向上にも力を入れ、「活力ある職場作り」を目指すことを目標とした。来年度も職員の定着・人材育成に重点を置き個々のレベルアップに努める。また、来年度は市場調査を行い、旬の食材・その時期に最も安価でおいしい食材の購入に努め、食事に対する満足度の向上を目指す。

I. 職員の定着・人材育成

- (1) 1 月に入社した常勤職員には、半月ごとに育成計画を作成し、計画に沿って指導を行った。また、非常勤職員間での作業内容の偏りを軽減するため、個人の能力やスピードに合わせた指導を行い、目標を持ってやりがいのもてる職場となるよう取り組みを行った。来年度も継続し、責任をもって行動できる職員へと育成する。
 - ①新しい業務を覚える前には、栄養士がマニュアルに沿って丁寧な説明を行い、不安の軽減を図った。
 - ②新しい職員との関わりの中で、マニュアルの見直し・業務の改善を行い、誰でも働きやすい職場環境となるよう取り組んだ。
 - ③業務の担当を決める事で、個々の役割が明確になり効率よく業務が行えるようになりつつある。ただ、業務が固定している職員（調理が出来ない・下処理しか出来ない等）も多い為、偏りを改善するためにも、来年度も人材育成を継続して行う。
 - ④職員の不安や悩んでいる表情・動きをみて声掛けを行い、休憩時間にコミュニケーションをとることで相談しやすく聞きやすい環境となるよう心掛けた。
- (2) 厨房職員は比較的年配の非常勤職員も多いため、労働時間の配慮・温度環境なども含め、長期間働きやすい環境となるよう取り組んだ。
- (3) 厨房朝礼（月間目標・挨拶・本日の献立復唱・連絡事項）を毎日 2 回（午前・午後）実施し、事故の予防・衛生管理意識の向上を図った。

II. 科学的介護・常食化に向けた取り組み

- (1) 特養入居者様の義歯の不具合・嚥下困難な方が増加し、常食・刻み食摂取者（小刻み食含む）の人数は減少傾向、ゼリー食は増加傾向となった。来年度も直接様子観察や声を聞く等、積極的に栄養士が現場に出向き、入居者様個々の状態に応じた対応を介護・看護と協働し、情報の共有と意見交換・検討を行う。

- (2) 2ヶ月に1回の口腔ケアカンファレンス及び口腔機能維持会議の開催時に、介護・看護・歯科衛生士等と入居者様の嚥下状態を話し合い、食事形態の見直しを行った。

〈H28年度特養食事形態別推移〉

食事形態	人数 (%)	前年度人数 (%)
常食	5名 (23%) ↓	7名 (23%)
刻み食 (小刻み食含む)	14名 (47%) ↓	16名 (53%)
ゼリー食	10名 (27%) ↑	6名 (20%)
胃瘻	1名 (3%) →	1名 (3%)

- (3) ケアハウス入居者様の常食摂取者 (一口含む) (2部屋空室)、刻み食、ゼリー食と、ほぼ変化は見られない。今後も入居者様の個々のペースに応じた細かな対応を行いながら、常食化への取り組みを行っていく。また、ケース会議には必ず参加し、職員との連携強化、入居者様の状態及びニーズの把握に努める。

〈H28年度ケアハウス食事形態別推移〉※2部屋空室

食事形態	人数 (%)	前年度人数 (%)
常食 (一口含む)	43名 (93%) →	42名 (93%)
刻み食	2名 (4%) →	2名 (4%)
ゼリー食	1名 (2%) →	1名 (2%)

III. 食事サービスの充実

- (1) 給食委員会等で、職員との連携強化し、ニーズの把握に努め、食事レクリエーション、おやつレクリエーション、選択食、松花堂弁当などの内容を充実させ、楽しんでいただけるようなサービスが実施できるよう努めた。
- (2) 統一した調理法・盛り付けが行えるよう、各料理の写真を撮り、調理する方がイメージしやすい資料を作成する事が出来た。来年度は資料を活用し、調理業務の効率化を図る。

IV. コスト削減対策

- (1) 利用者様の嚥下力低下・トロミ剤の使用量増加が予測されるため、トロミ剤の特性・味・使用量が変わらない商品を見極め、取扱いのある納入業者で相見積もりを実施・見直し、1袋(2kg)当たり592円コスト削減に取り組んだ。今後も定期的な見直しを実施していく。

- (2) 旬の食材、その時期に最も安価でしかもおいしい食材の購入に努め、食材費のコスト削減に取り組んだが、天災の影響で米・野菜が高騰、嚙下力低下によるトロミ剤使用量の増加等、様々な要因が重なり昨年度と比べ1,142,610円増加となった。来年度は市場調査を行い、コスト削減を目指す。

〈H28年度上半期食材料費実績〉(円)

	平成28年度	平成27年度	増減
4月	2,825,041	2,779,881	+45,160
5月	2,841,346	2,852,532	-11,186
6月	2,802,194	2,821,026	-18,832
7月	2,956,289	2,839,470	+116,819
8月	2,904,321	2,956,963	-52,642
9月	3,032,905	3,040,410	-7,505
10月	2,994,027	2,741,468	+252,559
11月	2,850,110	2,616,664	+233,446
12月	3,145,035	2,911,439	+233,596
1月	2,916,451	2,708,755	+207,696
2月	2,657,990	2,548,776	+109,214
3月	2,908,806	2,874,521	+34,285
合計	34,834,515	33,691,905	+1,142,610

V. その他

- (1) 厨房設備や機器、食器等の劣化への対応が必要である。費用、作業効率等も検討しながら、購入や修理などを行った。長期使用の食器の購入検討を行う事が出来なかった。来年度は食器の見直しを検討する。
- (2) 業務に支障のない範囲で有給休暇を取得できるよう勤務の調整を行った。来年度は全員に中長期休暇が取れるよう調整を行う。

(前田弘子)

平成28年度 サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

事業報告書

今年度は地域包括支援センターや医療関係者との連携強化を図り、利用者確保に努めた。ケアマネージャー間でも情報の共有が図れるように定期的に会議を行い、地域包括支援センターとも定期的に会議の場を持ち、情報の共有ができる体制が確立した。9月より管理者が変更となったがスムーズに引き継ぎが行えた。

I. 利用者様獲得・経営基盤の強化

- (1) 利用者数は3月末で88名、平成28年度月平均利用者数は83.5名となっている。前年度の平均利用者数59.6名と比較して増加している。増加の要因として、5月に人事異動があり、担当件数に制限があった職員が異動となり、新しい職員が配置されたこと、また、魚崎北部あんしんすこやかセンターからの新規支援依頼は原則として受けるよう努めたことが挙げられる。
- (2) 不定期ではあるが、利用者様の入院時や老健入所時に地域医療連携室のMSWや相談員を訪問して営業活動を行った結果、数は少なかったが病院からの支援依頼を受けることができた。

II. 法令遵守

- (1) 業務確認表を活用し、訪問やモニタリング・サービス担当者会議の開催等、法令で定められた業務を漏れなく行えるようにした。
- (2) 法令内容で疑義が生じた時は職員同士での確認や神戸市への問い合わせを通じて確実な実施が行えるように努めた。

III. 職員の資質向上・魅力ある職場環境の構築

- (1) 担当利用者様の情報共有を目的とした会議を毎週水曜日に開催した。事例検討を行い支援で悩んでいることなどの話し合いを行い、1人で抱え込まない環境作りを行った。また、研修参加者からの説明を行い知識の向上に努めた。
- (2) 前期は外部の研修会への参加が少なかった。

IV. 地域包括支援センター・サービス事業所との連携

- (1) 魚崎北部あんしんすこやかセンター責任者(主任ケアマネージャー・看護師)との連絡会議を月1回(第2火曜日)開催した。情報交換・共有を図ることで連携が強化され、スムーズな支援につなげることが可能になった。
- (2) 地域ケア会議への出席を通じて近隣事業者との関係作りに努めた。
- (3) サービス提供現場や事業所に足を運ぶことにより、利用者様の生活状況の把

握やサービス利用状況の確認に努めた。

V. 特定事業所集中減算

2016.9.1～2017.2.28 までのサンライフ魚崎通所介護への紹介は 142 件/197 件で紹介率は 72.0%で回避、サンライフ魚崎短期入所生活介護への紹介は 88 件/96 件で 91.6%であった。居宅サービス事業所等の選択に関する理由書に複数の選択事業所があり、自ら選んだ旨の同意書を利用者様に提出してもらっていたが、前回まで指摘のなかった項目（自宅が近いは神戸市としては理由として認めていない。自分で選んだ理由が明記されていないので同意とみなさない）に指導があり同意と認められず（同意 45 件）84%となった。しかし、期間通しての計画数が 60 件未満の為、特定事業所集中減算は回避となった。理由書については書式を見直した。

《利用者数》

(平成 29 年 3 月のケアプラン管理数上限:110 名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 27 年度	54	51	54	59	59	59	336
平成 28 年度	71	75	81	80	82	86	561
差異	17	24	26	19	23	26	135
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 27 年度	60	57	64	65	64	69	715
平成 28 年度	89	91	89	85	86	88	1,003
差異	29	34	25	20	22	19	284

《収入》

(単位:千円)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	
平成 27 年度	支援費	要介護	690	639	14	752	754	770	3,619
		要支援	—	—	—	—	—	—	0
	認定調査委託料	149	127	149	108	204	131	868	
	調査委託料(他市)	4	3	8	10	4	7	36	
	合計	843	769	171	870	962	908	4,523	
平成 28 年度	支援費	要介護	889	874	925	1,020	966	994	5,668
		要支援	7	7	7	11	11	11	54
	認定調査委託料	154	108	167	181	163	140	913	
	調査委託料(他市)	7	0	22	7	4	4	44	
	合計	1,057	989	1,121	1,219	1,144	1,149	6,679	
差異	214	220	950	349	182	241	2,156		

			10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 27 年度	支 援 費	要介護	767	737	828	821	830	889	8,491
		要支援	—	6	3	10	7	7	33
	認定調査委託料		131	113	122	190	117	136	1,677
	調査委託料（他市）		9	0	0	4	4	16	69
	合計		907	856	953	1,025	958	1,048	10,270
平 成 28 年 度	支 援 費	要介護	1,132	1,149	1,076	1,063	1,076	1,123	12,546
		要支援	11	7	7	7	7	7	114
	認定調査委託料		158	149	158	104	185	172	1,846
	調査委託料（他市）		0	11	0	8	0	20	86
	合計		1,302	1,318	1,243	1,184	1,270	1,323	14,592
差異			395	462	290	159	312	275	4,049

《外部研修》

日付	研修名	場所	参加者
9/1	事業所説明会	神戸文化ホール	正垣
9/14	地域ケア会議	サンライフ魚崎	正垣・柴崎
11/15	高齢者虐待の対応について	東灘区役所	柴崎・正垣
11/24	神戸市認定調査員現任研修	神戸市勤労会館	藤原
12/26	総合事業説明会	神戸文化ホール	正垣・柳本
1/17	ストレス理論の基本と対処法	東灘区役所	藤原
1/25	地域ケア会議	サンライフ魚崎	柴崎・正垣・藤原
1/25	介護予防マネジメント研修	兵庫県農業会館	柳本
2/6	介護予防マネジメント研修	兵庫県農業会館	正垣
2/20	東灘区ショート担当者ケアマネの意見交換会	光明苑	柴崎
3/16	介護保険事業説明会	神戸文化ホール	柳本

（正垣彰子）

平成 28 年度 地域包括支援センター

魚崎北部あんしんすこやかセンター

事業報告書

「積極経営で活力ある職場創りを！」

「迅速にかつ素早く対応できる明るいセンター」

平成 28 年度は地域包括ケアシステム構築の為「地域ケア会議」3 回を行い、地域の連携を図る事ができた。24 年度に地域診断を行い、その結果を元に、25 年度には効果的なネットワークの構築ができた。26 年度は認知症サポートネット「お魚の会」で更なる地域との連携を図る事ができた。27 年度は「地域ケア会議」を 4 回開催する事ができた。28 年度も 3 回開催し地域包括ケアシステムができつつある。

センター内は「挨拶を徹底し、個人情報には注意しながら連携を図り、気持ちよく楽しく仕事ができるような職場にしていく」をモットーにしており毎日気持ちよく仕事ができる。

I. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

(1) 高齢者への虐待防止

虐待の継続件数は 4 件。内 2 件は、平成 29 年 1 月より入院中。行政との相談、本人、家族の意向を確認したうえで施設入所の方向で支援を継続している。もう 1 件は、病院相談員に虐待ケースであることを伝え、虐待が再発しないように関係機関と連携しながら退院支援を進めている。あと 2 件は担当ケアマネと連絡を取りながら状態を確認している。通報があれば、センター内で情報を共有し、区に報告するとともに、事実確認をすぐに行っている。

(2) 成年後見制度の活用等

成年後見制度についての啓発、広報を地域行事で折にふれて行なっている。

- ・司法書士を紹介したケース 1 件。
- ・独居認知症高齢者に成年後見制度活用を行政書士と進めたが、本人の強い拒否により見送り。継続して生活を見守っている。
- ・市長申し立てを行ったが、施設入所が決まり、取下げ。
- ・認知症になった親の有価証券を解約するためには、金融機関から後見人が必要だと

言われ相談に来られたかたが 2 件。

(3) 消費者被害

7月に開催した介護予防普及啓発事業「元気いきいき講座」で、行政書士の先生に「知っておきたい悪質商法の手口」と題する講義をお願いした。

警察や神戸市消費者協会からの消費者被害の情報などをもとに、地域行事などで、注意を喚起している。

II. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進（委託料 65,000 円あり）

(1) 平成 28 年度お魚の会に向けて 4 月 25 日実行委員会開催し、年 2 回開催予定となる。

第 1 回目お魚の会は、6 月 3 日横屋会館で兵庫県予防医学協会の南部征喜医師による「認知症予防に向けた健康管理」講演とタブレット型パソコンを使用した認知機能検査を実施。自身の認知機能検査ができる事もあり関心が高く 36 名と参加者が多かった。

8 月 23 日第 1 回目の反省と第 2 回目のお魚の会に向けての実行委員会を開催。

第 2 回目お魚の会は、10 月 12 日青木地域の方も参加しやすいように、西青木総合会館で実施。10 月 6 日川井公園の早朝ラジオ体操時に 69 名にチラシを配布広報した。

実行委員であるコンビニ店長の取り組み、訪問介護事業者によるヘルパーが出来る事、あんしんすこやかセンター職員による認知症の方への取り組み、地域で支えるには、どういった支援が必要か等架空事例を通し楽しく講演し、認知症の方にどのように接したら良いか等広報できた。後半は、さくら訪問看護リハビリステーションの PT や OT による介護予防体操を実施し、22 名が参加した。

また認知症の広報活動として、認知症サポーター養成講座を 5 回実施した。

5 月 17 日東灘警察署で警察官 13 名に実施。

10 月 23 日サンライフ魚崎でナルクボランティア 13 名に実施。

9 月 10 日 18 時半から魚崎西町会館で、魚崎町防災福祉コミュニティに入っている自治会リーダー 33 名に、魚崎南部あんしんすこやかセンターと魚崎北部あんしんすこやかセンター協働で実施。

1 月 17 日御影クラッセで、3 センター協働で 20~60 歳代の方 15 名に実施。

1 月 26 日東灘区民センターで、4 センター協働で 7 名の方に実施。

広報活動として、魚崎北部あんしんすこやかセンター名と電話番号を入れたボールペンを、お魚の会や新規相談者などにセンター紹介し配布した。

センターの認知度が高くなったのか、認知症や介護の相談件数や情報提供が増えている。

(2) 介護予防普及啓発事業の推進（神戸市より委託料 80 万円あり）

平成 28 年度は、横屋会館で年 2 回開催。

第 1 回目は 7 月 14 日（木）勝部慶子行政書士による「知っておきた悪質商法の手口」と介護予防体操。25 名参加。

第 2 回目は 11 月 8 日（火）守屋裕介司法書士による「聞いてよかった♪相続、遺言、成年後見」を開講。スタッフ含めて 27 名の参加。遺言や成年後見制度を利用するメリット・デメリットを明確に話していただき、講座終了後は質問者の行列ができるほどだった。

Ⅲ. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議の推進。（神戸市から 12,000 円委託料あり。）

(1) 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議を 28 年度は 3 回開催できた。

5 月 25 日 第 1 回目 「認知症のある独居の方が増えている」地域課題を地域の皆様に共有し、今後連携を図りながら支援していく構図が出来た。

9 月 14 日 第 2 回目 うおざき MAP を作成し、「安心して歩ける町づくり」をテーマに「一番落ち着く場所」を考えながら楽しくグループワークで話し合いができた。

また、事業者連絡会も、地域ケア会議の後に開催した。

1 月 25 日 第 3 回目 80 歳女性認知症のある方を地域の方々が支えている事例を通して、今取り組んでいる事、自分たちがこれからできる事、こんな事があつたらいいなあ、を 3 つのテーマについて話し合った。最後にスライドで魚崎の町を紹介した。

(2) 地域別連絡会（ケアマネ支援）

ケアマネ支援の為の連絡会等、ほぼ毎月テーマを変えて開催できた。地域包括ケアシステム構築に向けて 28 年度の目標であるセンター間の連携と地域内居宅事業所ケアマネの勉強会によるレベルアップ等を図って、地域に貢献していけるようにする為である。

東灘区あんしんすこやかセンター合同にてケアマネ支援の立場から研修会を行う事ができた。

・区主催 東灘区あんしんすこやかセンター連絡会 月 1 回（第 3or 第 4 月曜日）

・ケアマネ支援研修

6 月 26 日 口腔ケア研修会

9 月 8 日 感染症について

11 月 9 日 医療と介護の連携について

1 月 17 日 ストレス対処法、マインドフルネスについて

3 月 3 日 介護保険と障害者制度の連携について

・事業者連絡会は、地域ケア会議の後に年 3 回行えた。

5 月 25 日 総合事業について、医療と介護の連携について

9 月 14 日 総合事業について、高齢者虐待について

1 月 25 日 医療介護サポートセンターについて

10 月 19 日 魚崎北部・南部合同 防災について

IV. 単身高齢者・老々世帯の孤立化を防ぎ、地域に出かけていけるように。地域支援 合い推進員による地域での見守りと居場所作りの推進

(1) ①見守り訪問は、訪問や電話での確認を平均して月80名位行った。状態が悪くなり申請してサービスに繋がった方、介護の相談・日常生活の心配事・地域の行事などの相談が多くあった。サービスに繋がらなかった方もあり、給食会の紹介等行った。暫定訪問対象世帯数は7件となる。

②ITガス見守り：現在2名のガスの見守りを継続中。(新規受け付け終了)

③「地域見守り活動推進事業」の一環として、神戸市が行う「事業者による高齢者見守り事業」に関する普及・啓発への協力と連携を行った。

④地域で地域行事のチラシを配布し(月1,000~2,500枚程度)参加を呼び掛けて、仲間づくりや住民通しの見守り活動に繋がるように働きかけた。

(2) 地域包括の行事

・コミュニティサポートグループ育成支援事業は2件実施。(介護予防普及啓発の一貫として、生きがいづくり、閉じこもり予防を行う)(助成金45,000円あり)

①「リバーサロン」4月は葬儀が入り中止したが6、10、12、2月実施。

(偶数月第2火曜日)

②「Let'sゴー体操」を新規立ち上げ7、9、1、3月実施。

(奇数月第2金曜日)

③「ふれあい喫茶カフェ魚崎」は当法人が行う。

(今年度より奇数月最終土曜日に実施)

<参加人数>

① リバーサロン (新住吉川住宅集会場3階)

H28年4月	葬儀が入り中止	参加者
H28年6月	「琴」	参加者21名・ボランティア5名
H28年9月	ミーティング	参加者7名
H28年10月	「手品・尺八」	参加者25名・ボランティア5名
H28年12月	「音楽」	参加者18名・ボランティア5名
H29年2月	「脳トレ」	参加者22名・ボランティア5名

② Let'sゴー体操

H28年5月	ミーティング	
H28年7月	体操	参加者9名・ボランティア5名
H28年9月	体操	参加者6名・ボランティア5名
H28年11月	葬儀が入り中止	ボランティア1名

H29年1月 体操

参加者 11名・ボランティア 5名

H29年3月 体操

参加者 16名・ボランティア 5名

③ 法人事業として、「ふれあい喫茶カフェ魚崎」をケアハウスの4階で引き続き行った。

開催月	参加者	ボランティア	開催月	参加者	ボランティア
4月	24名	12名	11月	34名	10名
5月	20名	11名	1月	27名	6名
7月	23名	8名	3月	24名	15名
9月	24名	11名	合計	176名	59名

④介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高12万円委託料あり。

介護者を対象にした介護リフレッシュ教室

介護リフレッシュ教室

参加者数

4月27日：元気の出る体操

6名

6月22日：健康長寿になる為に

9名

10月26日：フラワーアレンジメント

9名

2月22日：ピアノ演奏と参加型音楽療法

10名

V. 介護予防マネジメント 総合相談支援

(1) 28年9月末現在、サービス利用者196件（受託135件、委託61件）（前年比111%）委託割合32%。委託事業者（法人含む）契約件数19件。

（請求金額表.1）新規件数71件。要介護に移行した件数22件。中止件数40件。

新規も多かったが、要介護、サービス中止になるケースが多く。昨年と比べて、ほぼ10%アップであった。また、6月から新しいプランナー（介護予防従事者）が入り受託もとれるようになってきて委託も徐々に減ってきた。併設居宅も人員が揃い、介護予防も担当できるようになった、今後は新規獲得の為、地域行事へ参加されている方、或いは地域の方々を発掘して介護保険申請をすすめ、新規を増やしていきたい。

表.1 H28年度

収入

（単位：円）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H27年度実績	777,846	766,247	749,446	817,411	805,812	809,064	4,725,826
H28年度目標	778,000	778,000	778,000	778,000	778,000	778,000	4,668,000
H28年度実績	841,257	841,691	825,431	871,066	875,727	891,119	5,146,291
前年度差異	63,411	75,444	75,985	53,655	69,915	82,055	420,465
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度実績	783,482	825,865	813,291	846,352	833,344	838,005	9,670,826

H28 年度目標	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	9,468,000
H28 年度実績	897,189	900,441	905,102	928,407	904,668	939,572	10,624,922
前年度差異	113,707	74,576	91,811	77,055	71,324	101,567	950,507

VI. 包括的、継続的ケアマネジメント

(相談対応者数表. 2. 3)

表. 2 H26 年度相談対応者数

(単位：件数)

月	総合相談支援	※介護予防ケアマネジメント	権利擁護	包括的継続的ケアマネジメント	地域支え合い活動推進事業	その他	合計	前年	前年比
4 月	218	238	17	64	250	33	820	709	116%
5 月	170	230	3	34	177	15	629	642	98%
6 月	149	231	12	67	261	40	760	783	97%
7 月	154	317	1	37	243	40	792	889	89%
8 月	155	349	0	61	254	37	856	637	134%
9 月	136	324	5	59	166	34	724	697	104%
10 月	203	346	4	41	179	27	800	969	83%
11 月	165	374	4	41	136	29	749	783	96%
12 月	178	398	6	42	261	19	904	791	114%
1 月	138	408	4	34	143	38	765	769	99%
2 月	170	353	3	42	137	33	745	794	94%
3 月	142	390	21	35	128	43	759	1,019	74%
合計	1,985	3,958	80	557	2,335	386	9,303	9,482	98%

表. 3※介護予防ケアマネジメント内訳

(単位：件数)

	電話	来所	訪問	その他	合計	前年	前年比
4 月	135	2	80	21	238	224	106%
5 月	141	2	69	18	230	232	99%
6 月	140	5	72	14	231	201	115%
7 月	169	10	112	26	317	262	112%
8 月	229	9	95	16	349	204	171%
9 月	225	7	82	10	324	216	150%

10月	208	11	113	14	346	268	129%
11月	243	7	98	26	374	232	161%
12月	237	8	120	33	398	191	208%
1月	271	14	98	25	408	220	185%
2月	221	7	100	25	353	232	152%
3月	252	22	103	13	390	196	199%
合計	2,471	104	1,142	241	3,958	2,684	147%
前年	1,445	63	986	190	2,684		

(岸 耕 司)